

1990.9.5

平成元年

# 感染症サーベイランス事業年報

〈速報版〉

平成2年5月

厚生省保健医療局結核・感染症対策室

# 目 次

## 第1 各疾病の動向

1. 小児科内科定点、病院定点の感染症	1
(1) 麻疹様疾患	3
(2) 風しん	5
(3) 水痘	7
(4) 流行性耳下腺炎	9
(5) 百日せき様疾患	11
(6) 溶連菌感染症	13
(7) 異型肺炎	15
(8) 感染性胃腸炎	17
(9) 乳児嘔吐下痢症	19
(10) 手足口病	21
(11) 伝染性紅斑	23
(12) 突発性発しん	25
(13) ヘルパンギーナ	27
(14) MCLS (川崎病)	29
(15) インフルエンザ様疾患	32
(16) 感染性髄膜炎	34
(17) 脳・脊髄炎	38
2. 眼感染症	43
(1) 咽頭結膜熱 (PCF)	43
(2) 流行性角結膜炎 (EKC)	43
(3) 急性出血性結膜炎 (AHC)	43
3. ウイルス肝炎	44
(1) A型肝炎	44
(2) B型肝炎	44
(3) その他の肝炎	44
4. 性感染症	52
(1) 淋病様疾患	52
(2) 陰部クラミジア感染症	52
(3) 陰部ヘルペス	52
(4) 尖圭コンジローム	53
(5) トリコモナス症	53

第2 患者情報集計

1. 平成元年 全国・週別・疾病別報告数及び一定点当たり報告数	59
2. 平成元年 全国・月別・疾病別報告数及び一定点当たり報告数	62
3. 平成元年 疾病別・都道府県別年間報告数及び一定点当たり報告数	64
4. 平成元年 疾病別・ブロック別年間報告数及び一定点当たり報告数	70
5. 平成元年 疾病別・年齢別年間報告数及び一定点当たり報告数	72

第3 平成元年 感染症サーベイランス事業定点数	75
-------------------------	----

# 第 1 各 疾 病 の 動 向

## 第 1 各疾病の動向

1989 年第 1 週から 52 週の動きについて情報解析小委員会の解析評価を報告する。

1989 年の定点数は、小児科・内科定点 2387、眼科定点 272、病院定点 514、性感染症定点 581、総数 3754 定点で、小児科・内科定点および眼科定点からは週報、病院定点および性感染症定点からは月報として報告されている。

なお、事業年報〈速報版〉に収録したデータは 1990 年 1 月 11 日現在の暫定データである。

### 1. 小児科内科定点、病院定点の感染症

1989 年の主要な動きは、流行性耳下腺炎の 4 年ぶりの全国流行が第 1 にあげられる。この流行は 7 月をピークとして、前回の流行に匹敵する規模となった。その他の疾病の動きは比較的少なかったといえよう。

麻疹様疾患の発生は少なく、これまでの最低であった 1985 年と同程度であったが、北海道、東海北陸、中国四国の一部で流行がみられている。

風しんは 1987 年の全国流行のあと、88 年はその約 3 分の 1、89 年はさらにその 2 分の 1 の発生に減少している。少数県での流行があり、高知県、沖縄県では、特に大きな流行が認められた。その他、北海道、岩手県などの発生が多かった。一方、約 3 分の 1 の都府県では、ほとんど流行がみられなかった。

水痘は例年と同様の発生パターンで、年間報告数は前年と同程度の少なめの年であった。

百日せき様疾患は、1987 年以降、低下の傾向が著名で、本年は年間報告数定点当たり 2.1 人と、これまでの最低となった。

溶連菌感染症は、例年同様の発生パターンであるが、発生数は、1987 年、88 年よりわずかに増加している。

異型肺炎は、1988 年 11 月にピークを作った全国流行からやや低下した発生状況で 1989 年を迎えた。本年は年間を通じて週別の定点当たり報告数は、ピーク時の約 3 分の 1 程度のレベルで終始した。このレベルは非流行時の約 2 倍の発生である。

感染性胃腸炎は例年同様の発生状況である。1988 年には特に高いピークを作ったが、本年は例年なみであった。

乳児嘔吐下痢症も同様の発生状況であったが、11 月から 12 月にかけての立上りがやや遅れた。

手足口病は極めて少なく、年間報告数もこれまでの最低となった。発生カーブも低いレベルであったが、夏のピークから一旦下がったあと、秋に再上昇する傾向がみられた。

伝染性紅斑は、流行はみられず、年間報告数もこれまでの最低であった。

突発性発しんは、例年同様、一定の発生パターンを示している。

ヘルパンギーナも例年なみのパターンであったが、発生数はやや少なめである。

MCL S は、年間を通じて少数の発生が続いただけで、特別な動きはみられなかった。前回の流行は 1985～86 年にかけて発生の小さい山があったが、その後、4 年以上の経過の間に多発した時期はみられていない。

インフルエンザ様疾患は、1988～89シーズンは、88年末の第52週に定点当たり14.9人、89年第4週に17.85人のピークを作った。この流行は、北海道、東京周辺と近畿の一部で始まり、年があげてから西日本に広がったものである。当初は学級閉鎖の急増から強い流行が心配されたが、小規模の流行に留まった。

1989～90シーズンの流行は、第50週から急増をみた。はじめは、北海道、東北の一部と関東地方で流行が始まり、第52週定点当たり8.47人となり、90年に入って関東以西の流行となった。

病院定点からの髄膜炎、脳・脊髄炎の報告は、無菌性髄膜炎が前年を上回る発生をみたが、その他の疾病は特別の変化はなかった。無菌性髄膜炎は1987年、88年は著しく少ない年であったが、本年は例年なみの発生に近づいた。都道府県別の発生頻度に大きな違いがあり、鳥取県と沖縄県で特に強い流行を認めたのに対して、ほとんど流行のなかった県も18道府県を数えた。

◎ 病原微生物検出情報からみた1989年の特徴は、先ずエンテロウイルスについて、特定の型の全国的流行はなかったが、多種類の型が局地的にそれぞれかなりの規模の流行をおこし、各地で無菌性髄膜炎の病因となった。一方、手足口病の主要病原ウイルスであるコクサッキーA16型とエンテロウイルス71型の報告は最低レベルであった。インフルエンザ流行型は1988～1989シーズンはAソ連型(AH1N1)が主流で、後半にA香港型(AH3N2)およびB型が少数分離され、また1988～1989シーズン前半はA香港型が主流だった。年間を通してムンプスウイルスの分離報告が増加した。アデノウイルスは、角結膜炎の病因となる4, 8, 19, 32型が低調である。病原菌の報告では、夏期に *Salmonella enteritidis* の分離が増加し、これによる胃腸炎の集団発生が多発した。

## (1) 麻しん様疾患

麻しん様疾患は1984年に全国的な流行を起こし、定点当たり年間報告数 57.77 人に達したが、85年には最低の 11.40 人となった。その後、86年 19.22 人、87年 22.66 人と、やや増加したが、88年は 16.10 人、本年 11.69 人と下降した。

本年の週別発生状況は第1週定点当たり 0.20 人から春に向けて増加し、第19週定点当たり 0.44 人のピークに達したあと、次第に下降し、第40週 0.10 人と最低となったが、年末にやや増加し、第51週 0.18 人となっている。ピーク時の発生数は、1987年定点当たり 0.88 人、88年は 0.66 人であったので、本年は87年の約2分の1、88年の約3分の2のレベルである。

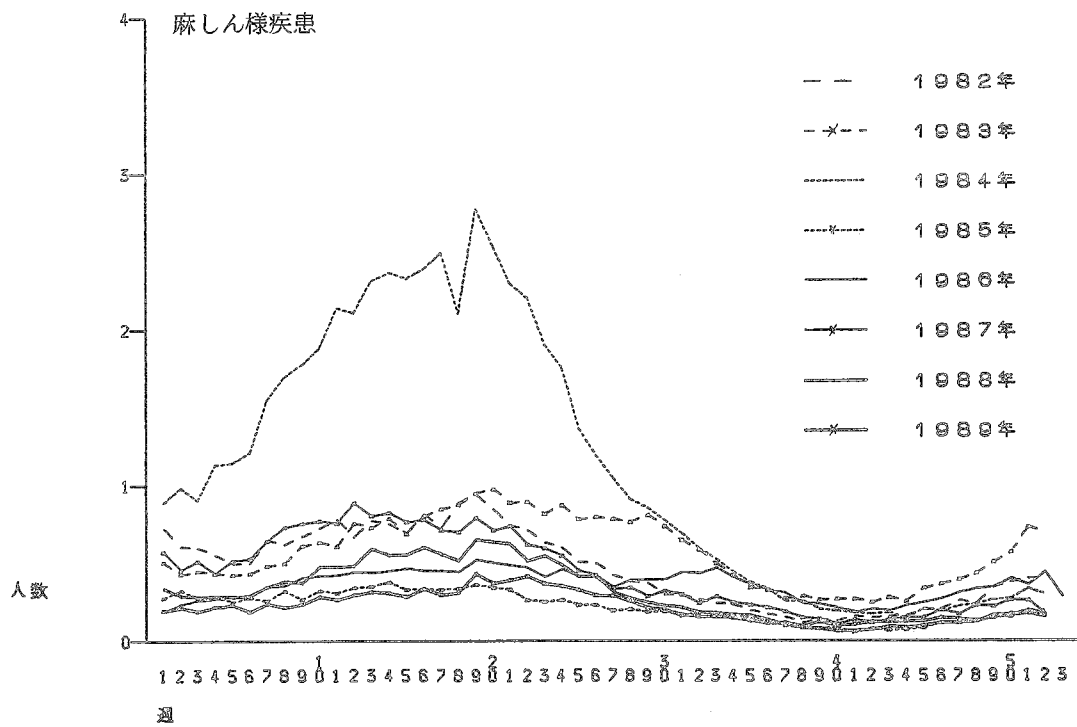
ブロック別の定点当たり年間報告数は中国四国 21.64 人、北海道 21.45 人が 20 人以上で、東海北陸 19.63 人、近畿 13.50 人がこれに次いでいる。その他のブロックは 10 人以下で、九州沖縄 9.30 人、東北 7.11 人、関東甲信越は特に少なく 3.85 人であった。北海道および西日本が優位の発生といえよう。

ブロック内でも流行の強かった県が限られている。東北、関東甲信越では、年間報告数定点当たり 20 人以上の県はなく、秋田県 11.79 人であったほかはすべて 10 人以下であった。年間報告数定点当たり 20 人以上は、東海北陸では、岐阜 29.29 人、静岡 29.91 人、愛知 24.11 人、名古屋市 20.07 人、近畿では、滋賀 29.45 人、大阪 22.39 人、中国四国では岡山 23.36 人、広島 42.28 人、香川 55.30 人、愛媛 20.55 人で、九州沖縄ブロックでは佐賀 28.78 人だけである。また、年間報告数定点当たり 10 人以下は 29 県に達し、そのうち 5 人以下は 16 県であった。

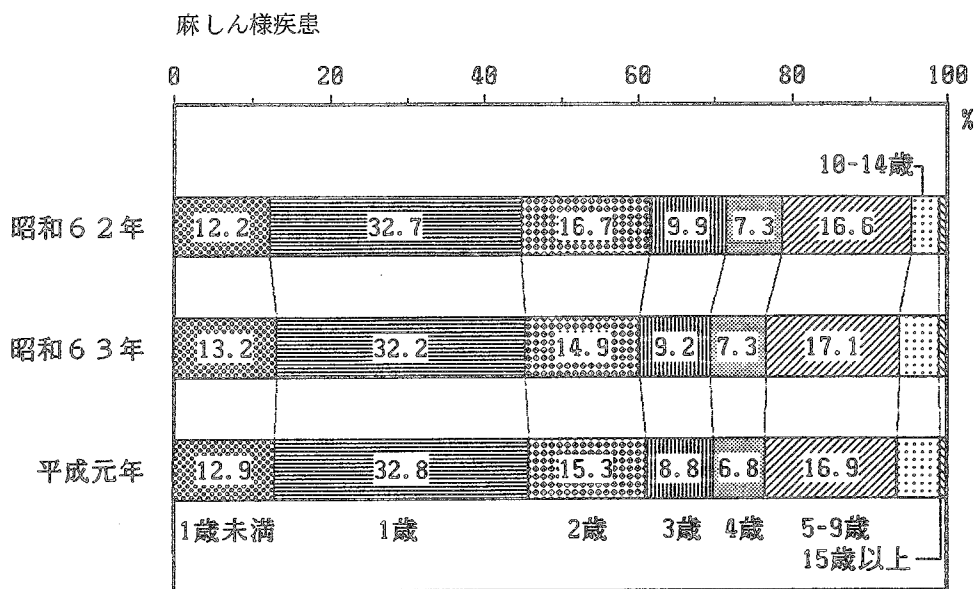
流行の強かったブロックを年次別にみると、1987年は北海道、近畿、中国四国、九州、1988年は東北、関東甲信越、東海北陸で、1989年は北海道、東海北陸、近畿、中国四国と一年おきの流行の傾向がみられる。

年齢別頻度は 1 歳 32.8%、2 歳 15.3%、0 歳 12.9%、3 歳 8.8%、4 歳 6.8% の順で、1～4 歳 63.7%、5～9 歳 16.9%、10～14 歳 5.5%、15 歳以上 1.0% で、この頻度は最近 3 年間ほとんど変わらない。

図(1)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(1)-2 年齢区分別患者発生状況





## (2) 風しん

1987年の全国的な流行から、88年、89年と順次流行の山が小さくなっている。1987年は、第22週に定点当たり10.71人のピークで、年間報告数41万、定点当たり172.94人であったのが1988年は、第22週3.78人のピークで、年間報告数16万、定点当たり67.42人となり、1989年は、ピークはやはり第22週で、1.71人、年間報告数7万8千、定点当たり32.87人まで低下している。

本年の週別のカーブは、第22週のピークのあと、急速に下降し、第39週には定点当たり0.04人となったが、第51週には0.12人となっている。88年末から89年初めには定点当たり0.40人前後であった。この時期の発生状況は、春の流行規模と関連するので、90年の流行規模は小さいことを推測させる。

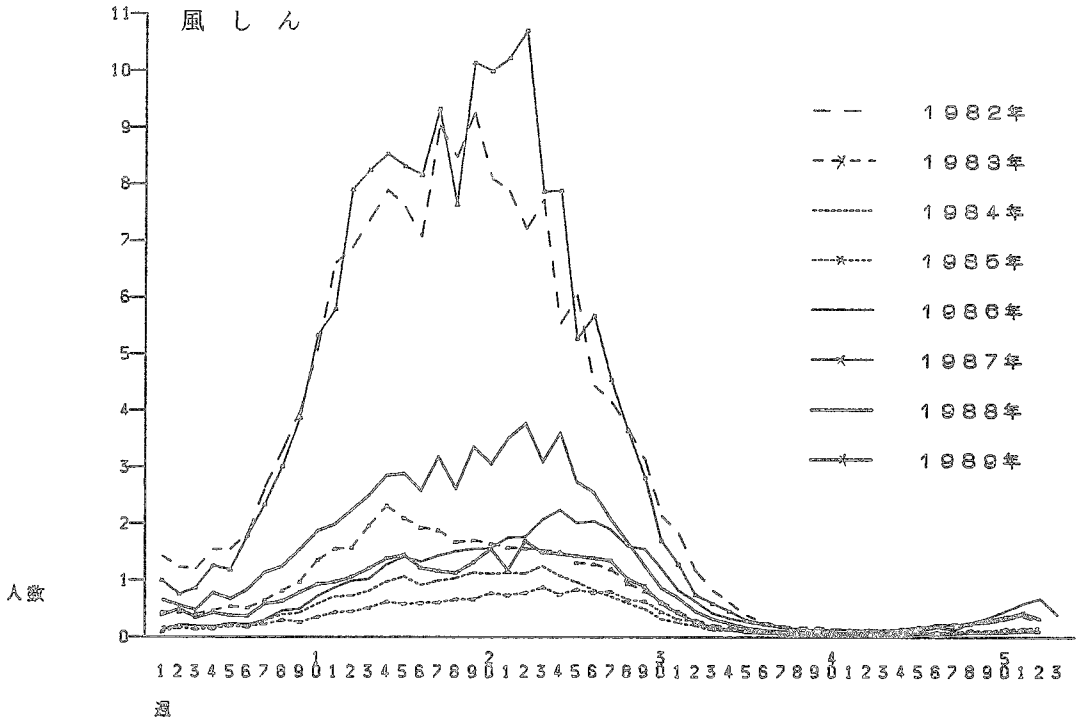
本年の流行は、県毎の違いが著しかった。定点当たり年間報告数は、高知261.85人、沖縄200.54人は200人を超え、大流行時に匹敵する発生である。

沖縄と北海道の流行年は、本州とは違った動きをする傾向がある。沖縄は1988年から流行が始まり、88年は定点当たり年間報告数102.27人で、89年にはこれがさらに増加した形となっている。北海道も1988年から増えはじめ、88年に定点当たり年間報告数89.83人で、89年は141.00人、札幌市では153.26人と大きな流行になった。本州では岩手県だけが本年107.29人と流行をみた。岩手の88年の発生は38.22人であった。以上が定点当たり年間報告数100人以上を示した県であるが、一方、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川の東京周辺および徳島は10人以下であった。このような都道府県別の発生を反映して、ブロック別定点当たり年間報告数は、北海道141.00人、九州沖縄57.75人、中国四国48.95人、東海北陸36.17人、東北29.54人、近畿19.78人、関東甲信越9.04人の順となった。

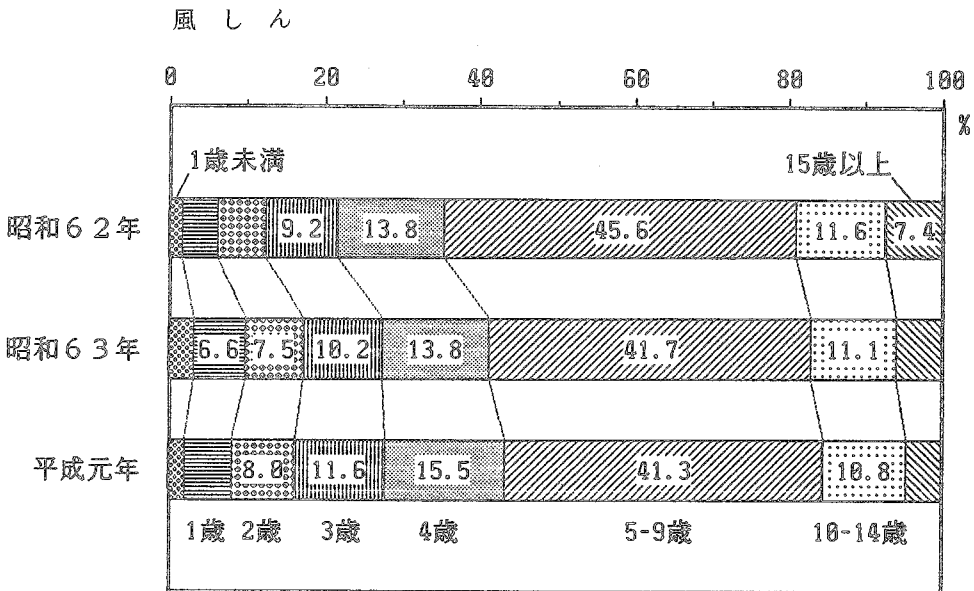
89年末の県別発生状況を見ると、北海道定点当たり0.37人、岩手0.86人、秋田0.38人、岐阜0.55人、三重0.43人、名古屋市0.37人、熊本0.67人が多い方で、これらの県では90年の発生に注意する必要があるだろう。

年齢別頻度は、5～9歳41.3%、4歳15.5%、3歳11.6%、10～14歳10.8%で、15歳以上も4.6%認められている。これらの頻度は昨年とあまり変わっていない。

図(2)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(2)-2 年齢区分別患者発生状況



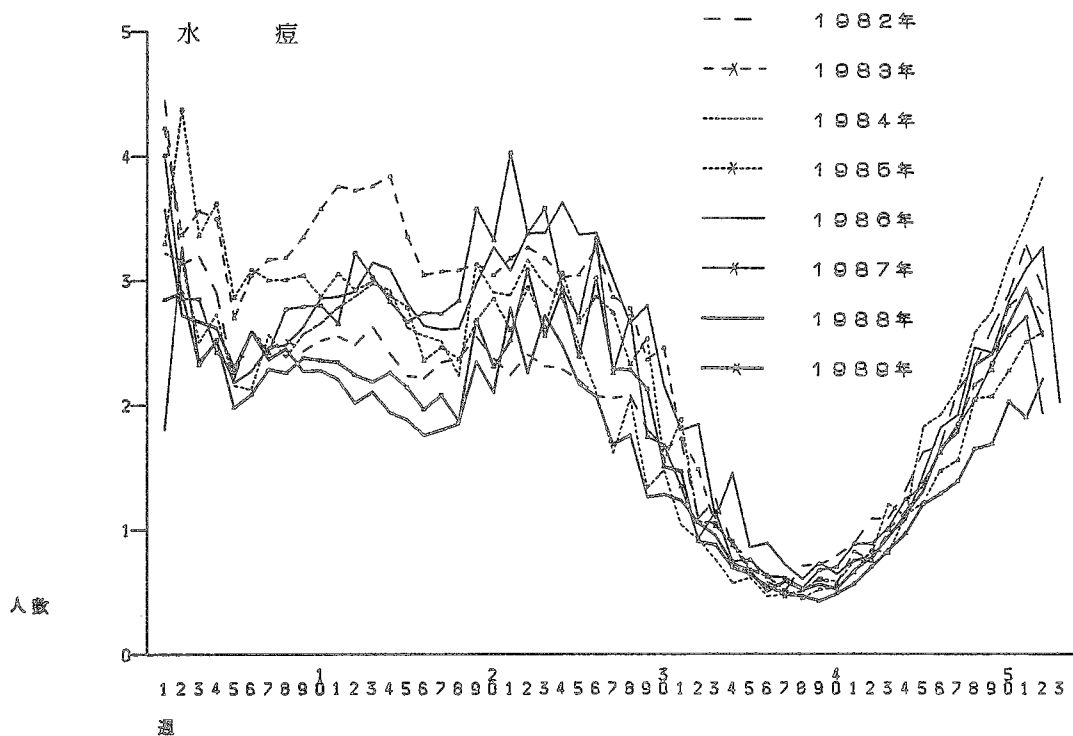
### (3) 水痘

例年同様の発生パターンを示している。1989年は88年と同じく、春の発生が比較的少なめで、5～6月には平年なみになった。夏に下がったあと、秋から年末にかけての上昇カーブはゆるやかで、第45週で定点当たり1.0人、50週で2.0人と例年よりやや遅れぎみであった。このため、定点当たり年間報告数は94.29人と、これまでの最低であった88年94.90人を下回る数字となった。

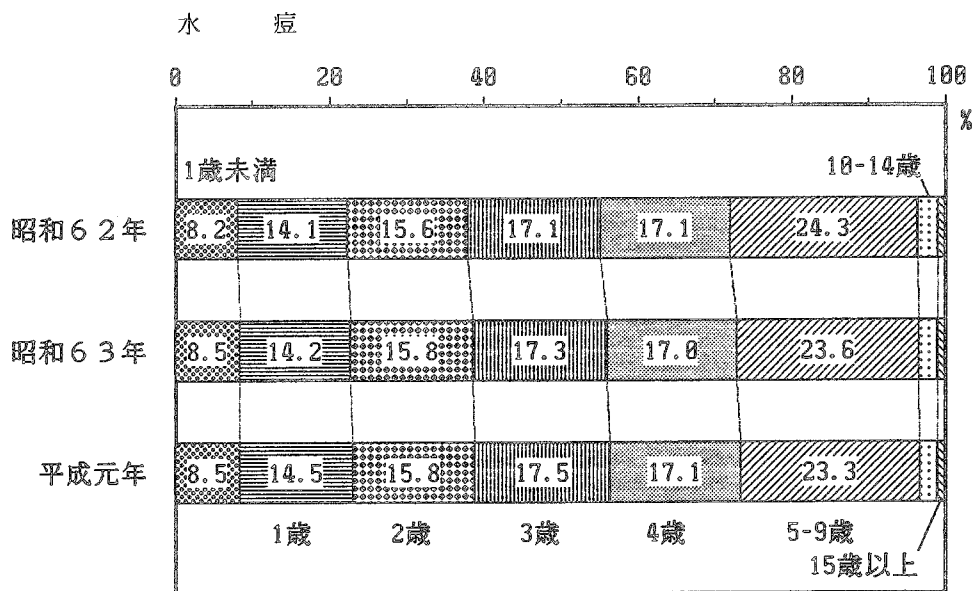
ブロック別定点当たり年間報告数は九州沖縄127.82人、東北116.58人、東海北陸108.79人、中国四国107.80人、北海道104.60人の順で、関東甲信越76.86人と近畿71.95人は昨年と同じく少ない。

年齢別頻度は、0歳8.5%、1～4歳64.9%、5～9歳23.3%、10～14歳2.2%、15歳以上1.1%で、1～4歳では1歳14.5%、2歳15.8%、3歳17.5%、4歳17.1%であった。この頻度も例年とあまりかわっていない。

図(3)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



图(3)-2 年令区分別患者発生状況



#### (4) 流行性耳下腺炎

本年の流行の主力となった。

前回の流行は1985年で、第29週に定点当たり 3.30人のピークを作り、定点当たり年間報告数 100.89 人であった。86年は年間報告数定点当たり 73.36 人に下がり、87年には 25.86 人と最低の発生となり、週別定点当たり報告数は年間を通じて 0.5 人程度に終始した。

その後、88年5月頃から増加が目立つようになり、88年定点当たり年間報告数 55.51 人で、年末には定点当たり週別報告数 1.5 人程度となった。1989年に入って、第10週に定点当たり 2.5 人まで上昇したが、5月の連休前後に中だるみがあって、第22週から 2.6 人を越え、第29週 2.91 人のピークとなり、8月に下降した。ピークの時期は前回と同じである。前回の流行では第38週に定点当たり 1.4 人まで下がったあと、秋に 2.7 人まで再増加しているのので、再増加に注目された。本年は、やはり第38週に 1.05 人まで下がったあと、再増加したが、年末 1.5 人程度でそれほど大きな増加ではなかった。ブロック別にみると、北海道、東北、中国四国、九州沖縄は再増加したが、関東甲信越、東海北陸、近畿はあまり増加をみなかった。

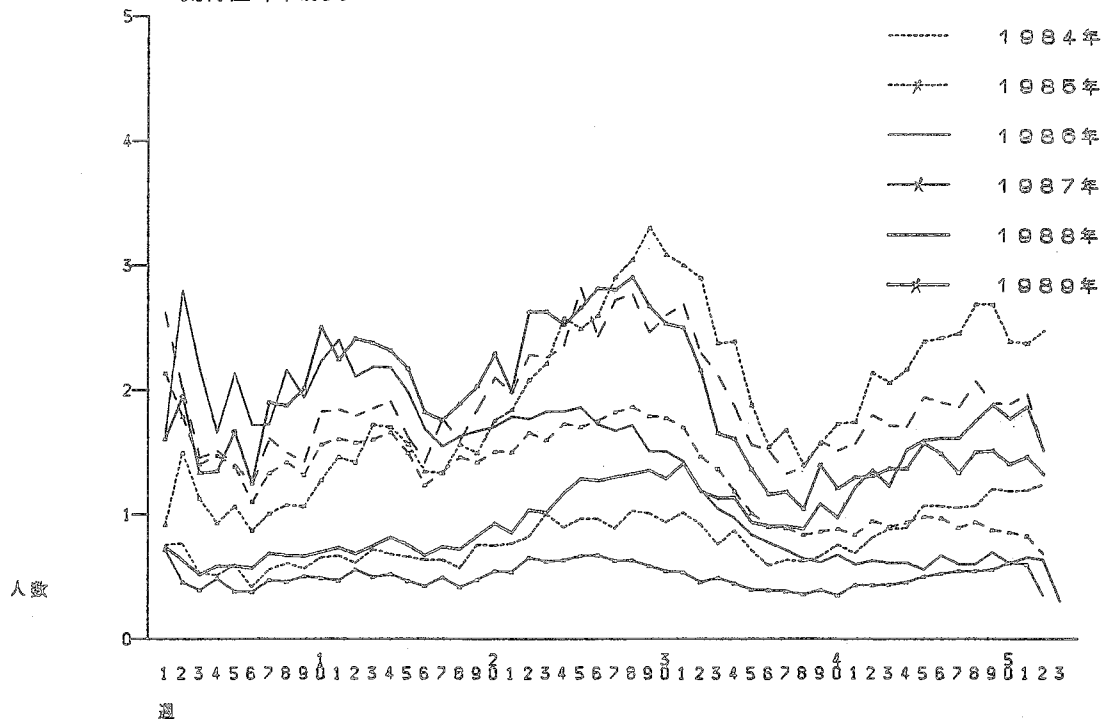
本年年間報告数定点当たり 97.24 人で、ブロック別には、東北 145.53 人、九州沖縄 144.95 人が最も多く、中国四国 122.72 人、東海北陸 108.04 人がこれに次ぎ、関東甲信越 82.27 人、北海道 76.72 人、近畿 54.97 人が少なかった。

県別定点当たり年間報告数 150 人以上の多い県は、岩手 162.46 人、山形 263.93 人、富山 190.24 人、福井 207.05 人、長野 180.46 人、愛媛 224.52 人、高知 158.79 人、宮崎 207.63 人、沖縄 160.46 人である。

年齢別頻度は、0歳 0.7%、1～4歳 47.8%、5～9歳 44.6%、10～14歳 4.7%で15歳以上の罹患は 2.3%に認められている。1～4歳では1歳 4.0%、2歳 8.3%、3歳 14.9%、4歳 20.6%である。

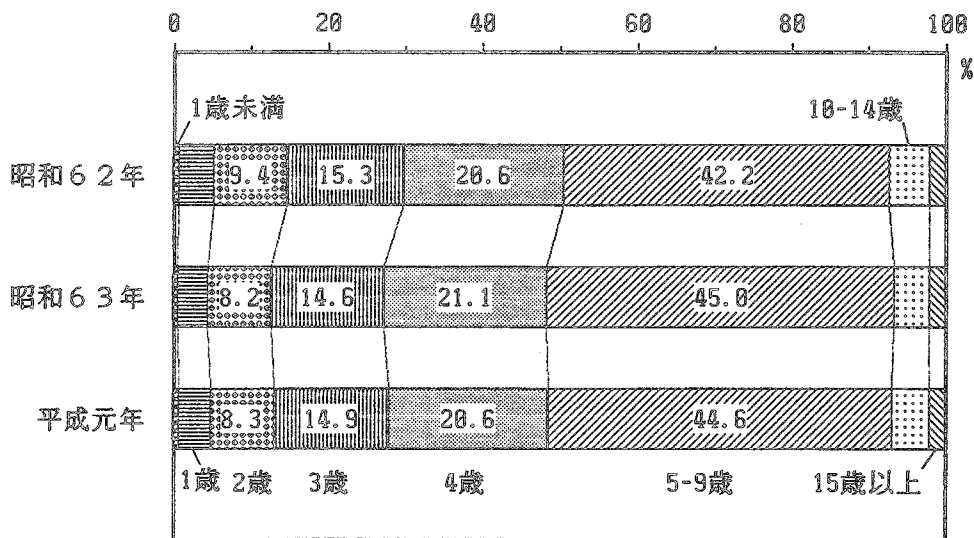
図(4)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

流行性耳下腺炎



図(4)-2 年齢区分別患者発生状況

流行性耳下腺炎



(5) 百日せき様疾患

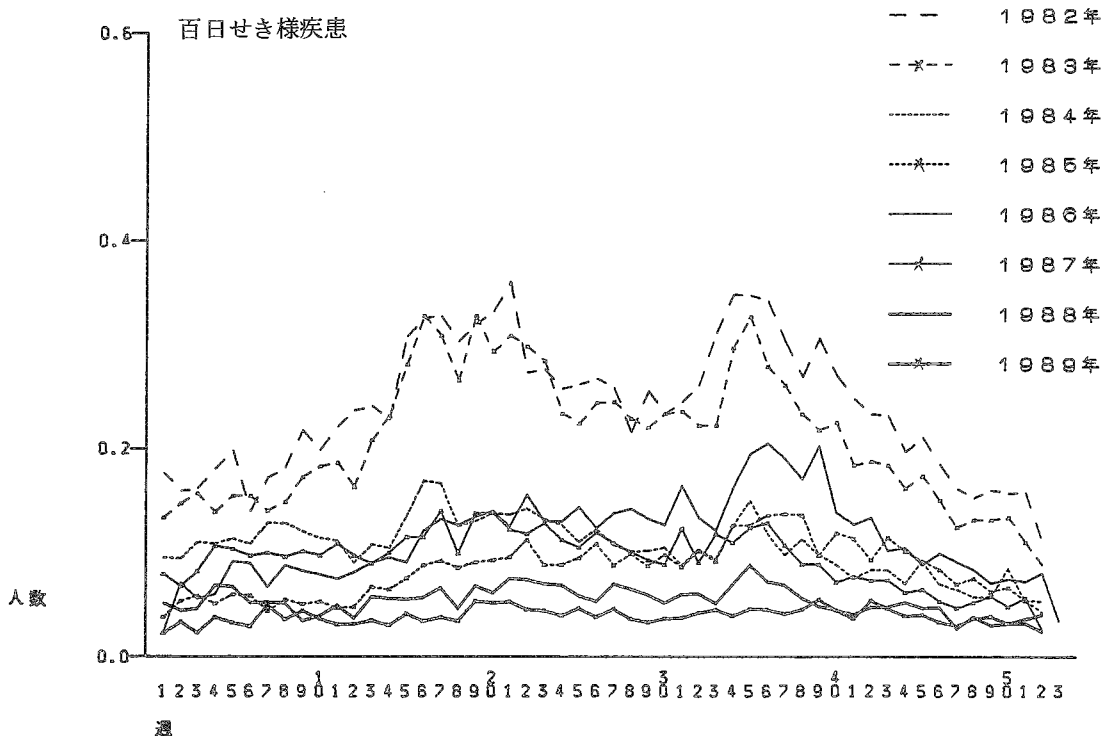
1981年より、ワクチンは改良されて沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチンに切り換えられ、次第に接種率は向上し、百日せき患者の発生も下降している。

定点当たり年間報告数は1982年12.59人、83年10.97人から、84年は5.51人と半減し、その後85年4.38人、86年6.01人、87年4.92人と横ばい状態が続いていたが、88年には2.81人、本年は2.07人とさらに低下し、これまでの最低となった。週別の発生状況は本年はほとんど平坦である。

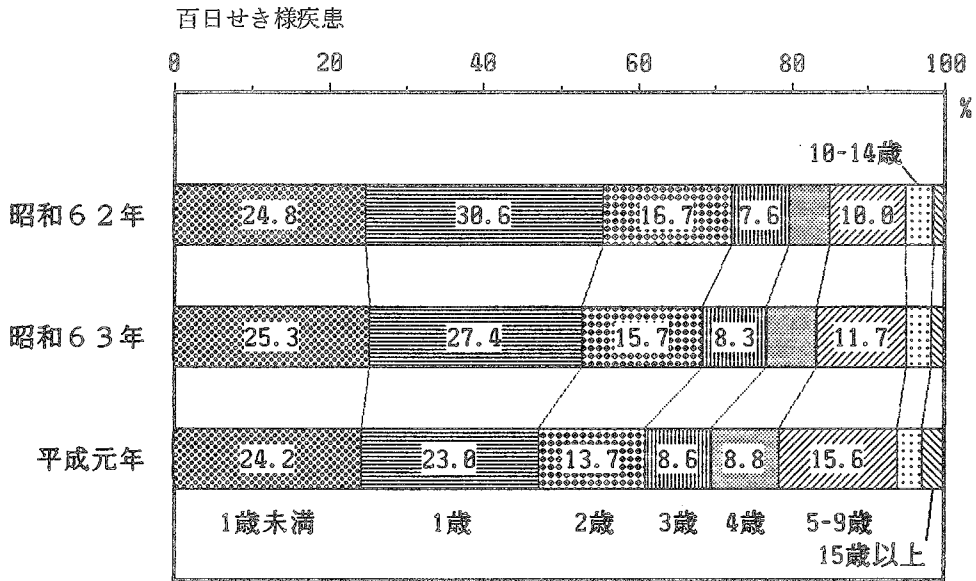
ブロック別の発生状況をみると、九州沖縄だけが定点当たり年間報告数4.50人と高く、福岡11.67人、大分6.19人、鹿児島7.11人が多い。その他のブロックは定点当たり年間報告数1~2人台で、東海北陸2.31人、東北2.23人、北海道2.19人、中国四国1.85人、近畿1.68人、関東甲信越1.31人、このうち3人以上の県は青森3.80人、福井3.32人、静岡3.60人、岡山3.80人の4県にすぎない。

年齢別頻度は、0歳24.2%、1歳23.0%、2歳未満が47.2%を占め、2歳13.7%、3歳8.6%、4歳8.8%、5~9歳15.6%、10~14歳3.1%、15歳以上2.9%である。最近の傾向は1歳の頻度が低下し、5歳以上の割合が増えている。

図(5)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(5)-2 年齢区分別患者発生状況





(6) 溶連菌感染症

毎年、同様のパターンで、1～2月の山、4月頃に少し下がって6月に山を作り、8月に低下する。9月から年末に向かって上昇し、12月に高い山を作るという形である。

本年は、3つの山がいずれも例年のうちでは比較的高い方に属するという動きで、定点当たり年間報告数は24.72人となった。

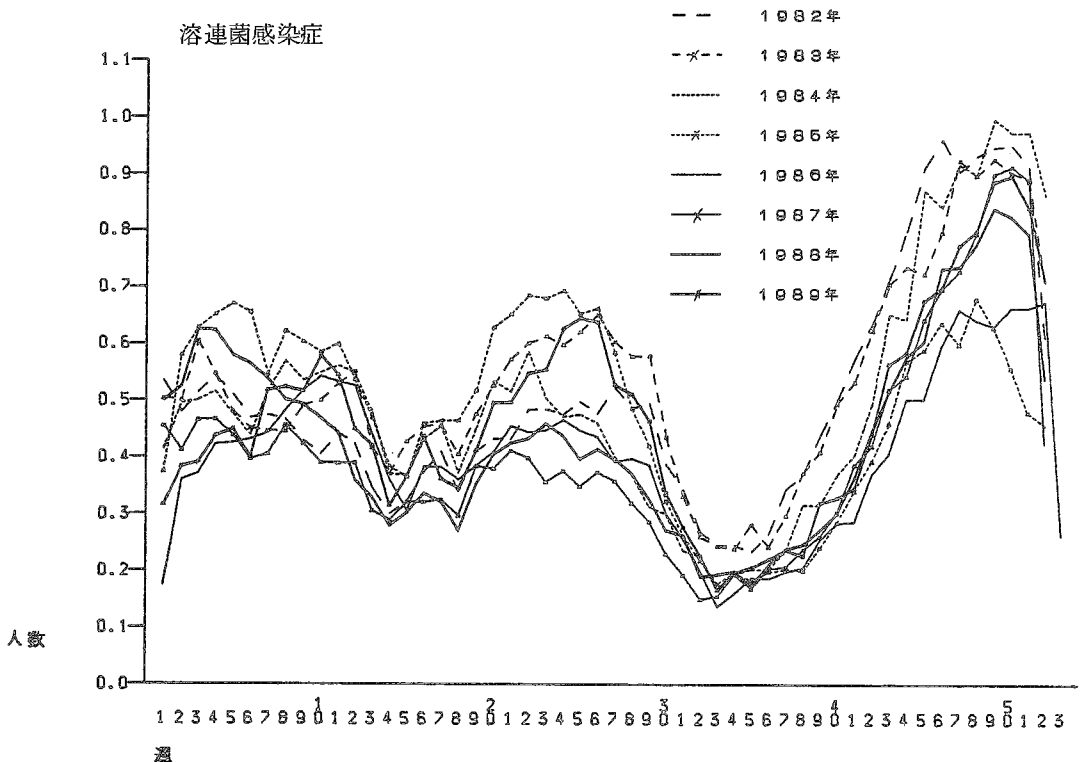
定点当たり年間報告数は、1982～85年は、25～28人程度であったが、86年21.46人、87年21.15人と少なかった。その後は、やや増加の傾向があり、88年22.88人、本年24.72人となっている。

ブロック別定点当たり年間報告数は、東北41.15人、北海道37.61人と北日本に多く、中国四国33.85人が次いでいる。その他は全国平均以下で、東海北陸24.34人、九州沖縄21.01人、関東甲信越19.87人、近畿19.52人である。

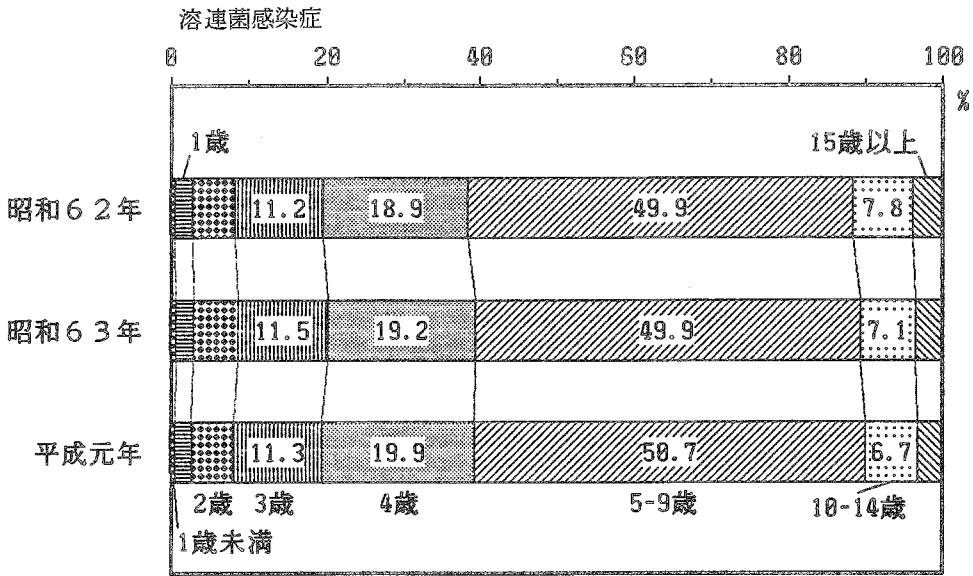
県別定点当たり年間報告数が40人以上の発生の多い県は、宮城43.74人、秋田54.92人、山形77.78人と東北ブロックに多く、その他では、山口40.10人、愛媛66.90人、大分51.44人であった。

年齢別頻度は、0歳0.5%と少なく、1～4歳38.8%、5～9歳50.7%、10～14歳6.7%、15歳以上3.3%で、1～4歳では、1歳2.2%、2歳5.4%、3歳11.3%、4歳19.9%であった。

図(6)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



图(6)-2 年令区分別患者発生状況



## (7) 異型肺炎

1984年に流行があり、その4年後の1988年に流行を起こした。88年は5月以降に明らかな増加を示し、10月から11月にかけて、週別定点当たり0.8人前後の流行の山が続いた。ピークは第45週の0.86人で、年末には0.6人まで下がった。1989年は第1週定点当たり0.32人で、年間を通じて0.25人ないし0.35人と0.3人前後が続いた。流行の谷間には週別定点当たり0.1人台となるので、それに比べるとやや高く、ピーク時の約3分の1のレベルで終始したことになる。

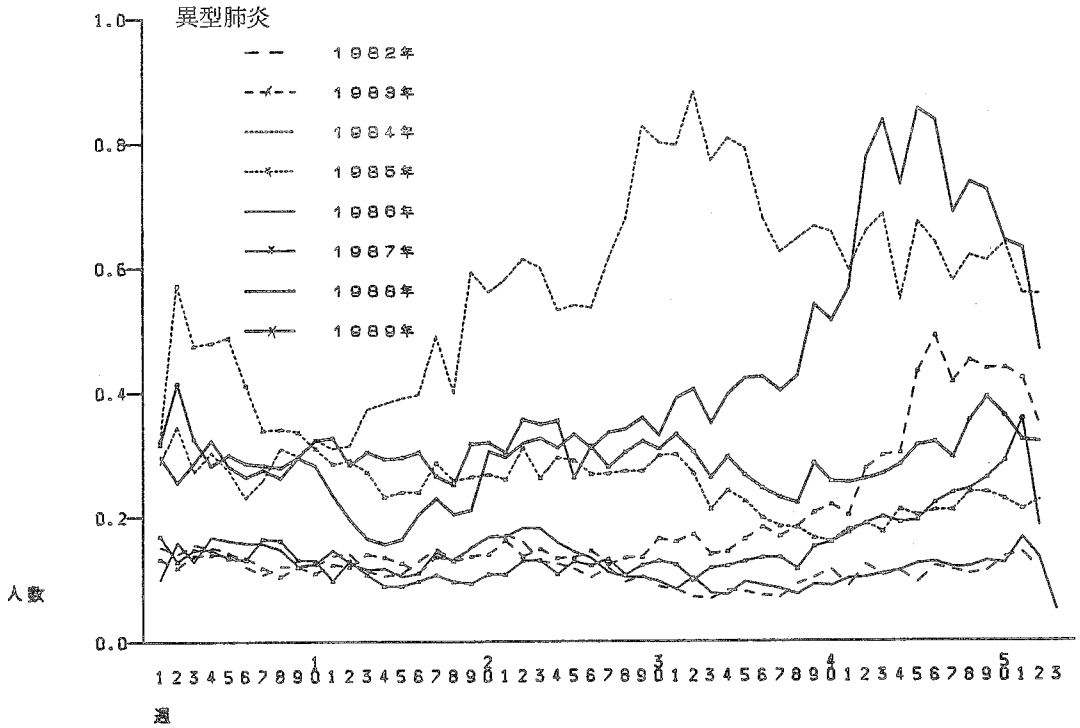
定点当たり年間報告数は、88年の20.95人から89年は15.70人に低下している。

ブロック別では、中国四国24.98人、東海北陸24.43人、九州沖縄21.15人が多く、その他は、東北13.34人、近畿12.32人、関東甲信越10.53人で北海道は5.70人と少ない。北海道は昨年も9.02人と少なかった。

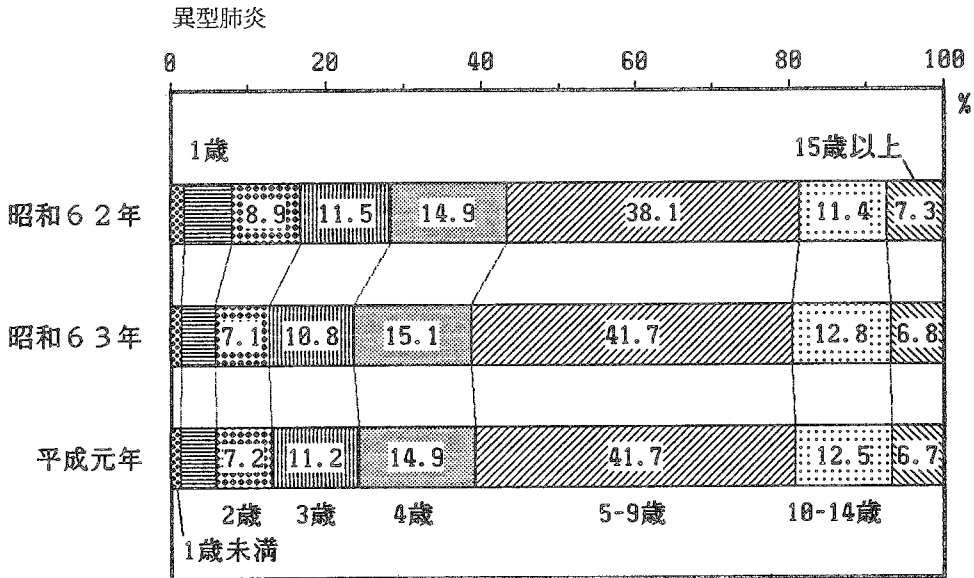
県別定点当たり年間報告数30人以上の県は、福井37.89人、岐阜40.26人、島根41.33人、広島35.00人、徳島30.53人、福岡35.38人、佐賀36.00人、大分39.22人、宮崎33.66人で、このうち、福井、岐阜、徳島、福岡市、大分は昨年も多かった。

年齢別頻度は、0歳1.3%、1～4歳37.8%、5～9歳41.7%、10～14歳12.5%、15歳以上6.7%で、1～4歳では、1歳4.5%、2歳7.2%、3歳11.2%、4歳14.9%であった。これらの分布は昨年とあまり変わっていない。

図(7)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(7)-2 年齢区分別患者発生状況



## (8) 感染性胃腸炎

毎年最も報告数の多い疾病である。12月から1月に鋭いピークをもつ一定のパターンを示すが、1988年12月には、これまで以上の高い発生があり、ピーク時の週別定点当たり報告数が例年6～7人台であったのに対して、9.09人に達した。このため、シーズン毎の発生状況を、第40週から翌年の第39週までとして推移をみると、1983～84年のシーズンは定点当たり年間報告数146.67人、84～85年は142.93人、85～86年は135.91人、86～87年137.46人、87～88年152.93人に対して、88～89年シーズンは160.48人となった。89～90年のシーズンでは、第50週のピークは定点当たり6.86人で例年なみである。

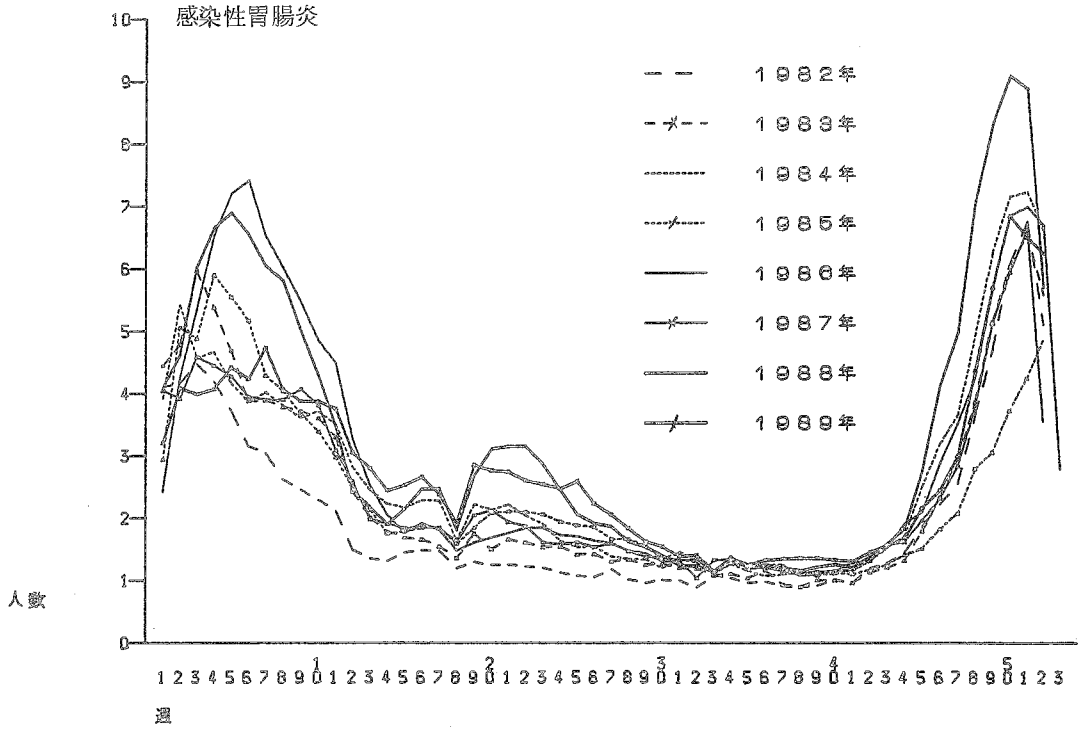
1989年の定点当たり年間報告数は146.90人で、これをブロック別にみると、東海北陸182.87人、近畿171.37人、中国四国163.18人、関東甲信越150.70人、九州沖縄124.55人で、東北80.19人と北海道42.83人が少ない。

都道府県別に定点当たり年間報告数200人以上をみると、北海道、東北にはなく、関東甲信越では東京都219.74人、茨城210.80人、東海北陸では三重354.68人、名古屋市213.16人、近畿では京都265.39人、中国四国では鳥取233.57人、島根289.13人、九州では大分312.00人、宮崎245.69人が多かった。

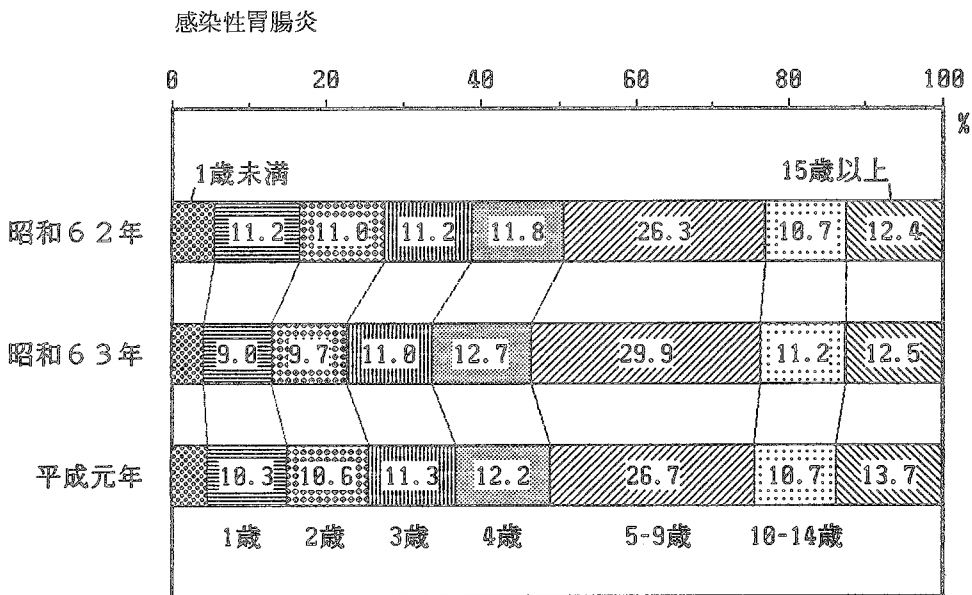
年齢別頻度は、0歳4.6%、1～4歳44.3%、5～9歳26.7%、10～14歳10.7%、15歳以上13.7%で、1～4歳では1歳10.3%、2歳10.6%、3歳11.3%、4歳12.2%であった。

◎ 1988年末に感染性胃腸炎患者数がめだって多かったのに対し、乳児嘔吐下痢症報告が例外的に低調だったことから、ロタウイルス以外の冬期胃腸炎ウイルス、つまり、小型球型ウイルスの流行が考えられた。ウイルス検出報告でみると、小型球型ウイルスの検出法は電顕だけなので報告数が少ないが、ロタウイルス（このシーズンは報告数が少ない）のピークが2月であるのに対し、小型球型ウイルスは11月～1月に報告が多く、やはり、1988年末の患者多発に小型球型ウイルスの大きかったことが示唆されている。一方、病原菌情報では1989年8～9月をピークとして *S. enteritidis*（サルモネラ09群）の流行がめだった。この群の過去の検出報告は年間300以下であったが、1989年には1000を越え、報告は全国的で、集団発生事例が多数報告された。*S. enteritidis*の流行は近年英国で大々的に報じられ、卵が汚染の原因とみなされている。

図(8)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(8)-2 年齢区分別患者発生状況



### (9) 乳児嘔吐下痢症

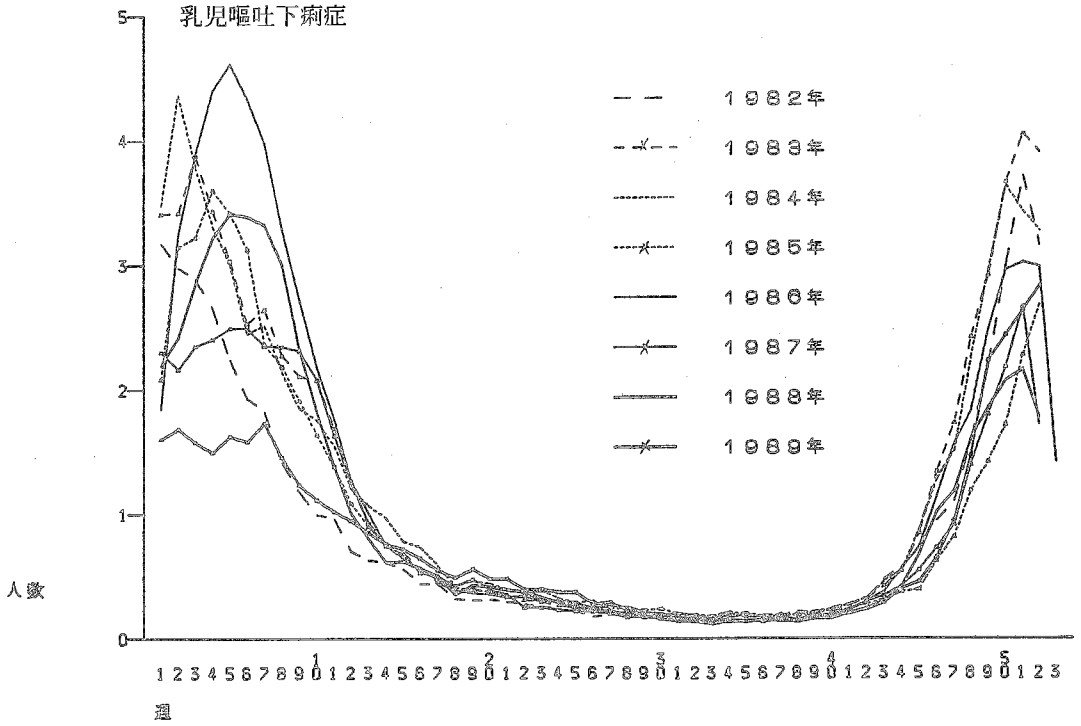
感染性胃腸炎とほぼ同様のパターンで、12月ないし1月にピークを作る。第40週から翌年第39週までをシーズンとして、定点当たり年間報告数をみると、1981～82年 48.5人、82～83年 58.2、83～84年 63.9人、84～85年 53.3人、85～86年 58.9人、86～87年 54.3人、87～88年は 52.2人で、88～89年は 40.6人と少ないシーズンであった。89年の第40週から第52週までの発生も定点当たり 15.0人で少なめの傾向である。年別の定点当たり年間報告数も1987年 47.90人、88年 52.45人、89年 41.89人で89年は少なかった。

ブロック別定点当たり年間報告数をみると、九州沖縄 79.04人、中国四国 50.23人、東海北陸 47.84人、東北 41.32人、近畿 32.34人、関東甲信越 32.32人、北海道 15.05人で、例年通り西日本、特に九州が高い数字を示している。

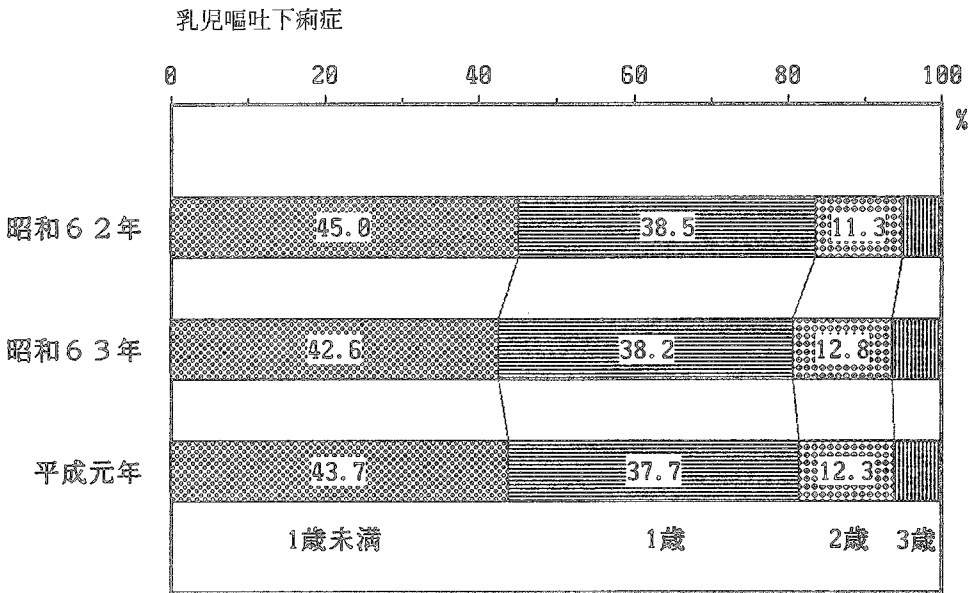
県別の定点当たり年間報告数は、福岡県 142.30人、北九州市 114.30人、福岡市 185.23人、宮崎県 184.54人が 100人以上である。

年齢別頻度は、0歳 43.7%、1歳 37.7%、2歳 12.4%、3歳 6.2%で、あまり変化はない。

図(9)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(9)-2 年齢区分別患者発生状況





## (10) 手足口病

毎年のように7月にピークを作る発生があるが、年によりその規模はかなりことなる。また、時には秋になって発生が続くことがある。

年別の発生状況をみると、1982年は定点当たり年間報告数 72.81 人、83年 40.07 人、84年 26.76 人、85年 62.67 人、86年 11.25 人、87年 53.67 人、88年 56.94 人に対して89年は 8.82 人とこれまでの最低の86年を下回った。

本年の週別定点当たり報告数のカーブは低く、7月の第29週のピークも 0.36 人に留まり、少数の県で発生の増加をみたのみであった。この発生数は、第34週に 0.15 人まで下がったあとに、秋に再増加し第39週 0.35 人となり、第48週まで 0.3 人台が続いたあとに低下し、第52週 0.16 人となった。

このような秋の再増加の動きは、1987年に明らかにみられており、7月第29週定点当たり 0.98 人のピークのあと、第32週 0.65 人まで下がり、第45週に 1.99 人まで再増加した。

夏のピークが高かったのは静岡と山梨で、週別定点当たり報告数はそれぞれ 2.98 人、3.79 人であった。秋は福岡市 3.23 人と沖縄 3.96 人が多かった。

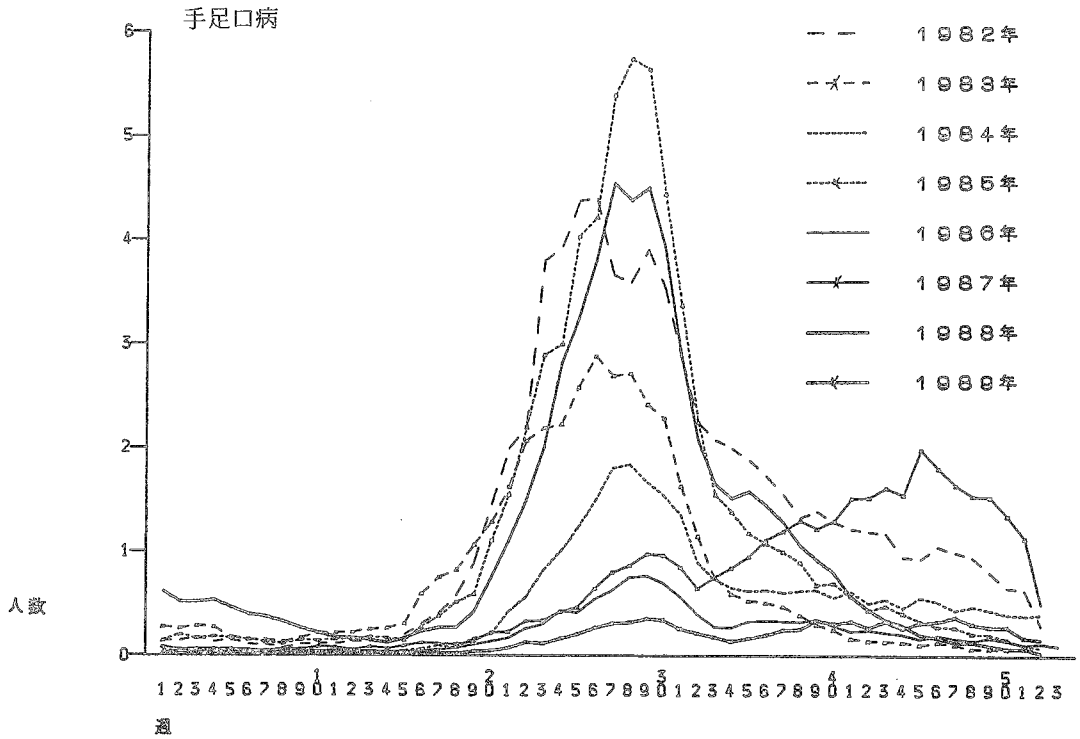
ブロック別定点当たり年間報告数は関東甲信越 13.76 人、東海北陸 10.94 人、東北 9.19 人、九州沖縄 8.78 人で、中国四国 4.85 人、近畿 3.74 人と北海道 1.21 人ではほとんど流行がなかった。

県別定点当たり年間報告数は山梨 32.13 人、静岡 44.85 人、沖縄 41.65 人が特に多かった。その他、15人以上は福島、茨城、群馬、千葉、東京、長野、富山で、関東地方に集中している。

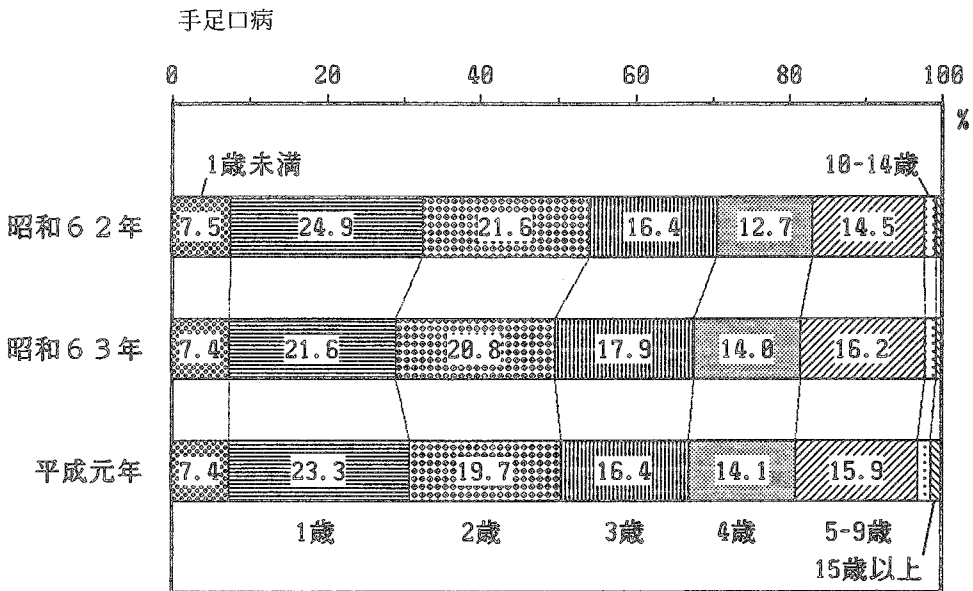
年齢別頻度は、0歳 7.4%、1歳 23.3%、2歳 19.7%、3歳 16.4%、4歳 14.1%、1～4歳 73.5%、5～9歳 15.9%、10～14歳 1.6%、15歳以上 1.5%であった。

◎ 病原微生物検出情報において、手足口病の主病原であるコクサツキーウイルス A16型およびエンテロウイルス71型のこの年の分離報告はきわめて低調で、1990年1月までの報告でみる限り、コクサツキーウイルス A16が4～9月に合計26例、エンテロウイルス71が4～12月に合計24例報告されたにすぎない。

図(10) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(10) - 2 年齢区分別患者発生状況



(11) 伝染性紅斑

本症の病原としてヒトパルボウイルス B19が明らかとなり、関心の高まっている疾病である。

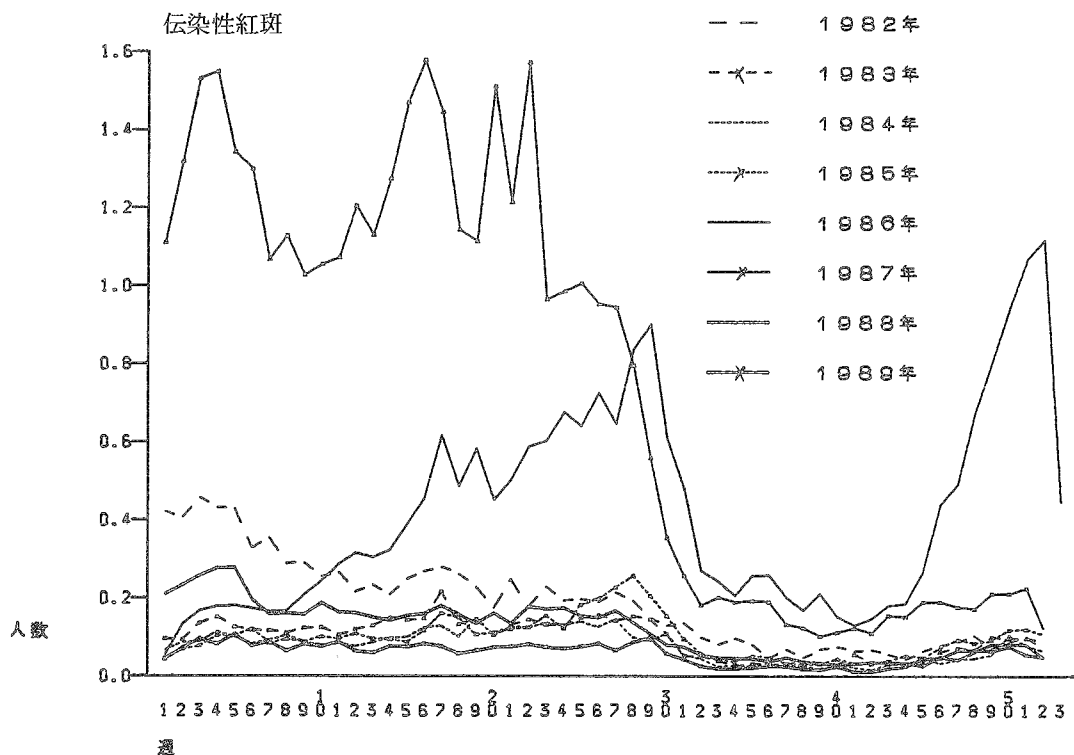
1986年から1987年にかけて全国流行があり、それが治まったところで1989年の発生は少なかった。すなわち、定点当たり年間報告数は1986年 22.08 人、87年 38.50 人から88年 6.28 人、89年 3.13 人と低下したところである。

ブロック別定点当たり年間報告数は北海道 6.96 人、東北 6.14 人、東海北陸 3.65 人、関東甲信越 3.51 人と比較的北日本、東日本に多く、西日本では九州沖縄 2.65 人、中国四国 1.59 人、近畿 1.26 人と、ほとんど流行をみなかった。

県別にみると、定点当たり年間報告数 5 人以上は北海道 6.96 人、札幌市 8.32 人、東北では岩手 6.46 人、宮城 8.72 人、秋田 9.17 人、山形 8.93 人で、その他は新潟 5.54 人と静岡の 13.02 人が目立つ程度であった。これらの県に次いで、横浜市 4.83 人、大分 4.78 人、宮崎 4.17 人および沖縄 4.96 人で、多少の発生の増加が認められている。

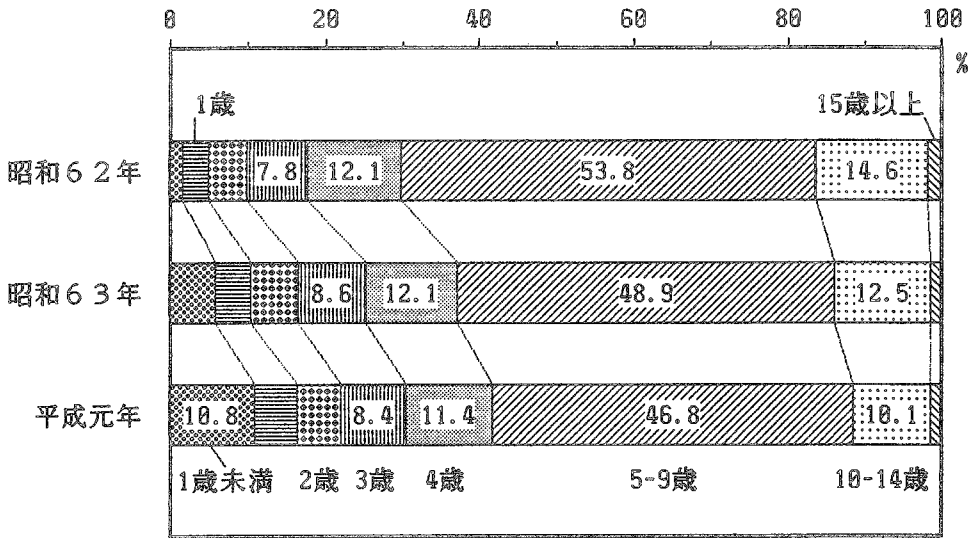
年齢別頻度は、0歳 10.8%、1歳 5.5%、2歳 5.7%、3歳 8.4%、4歳 11.4%、1～4歳 30.9%、5～9歳 46.8%、10～14歳 10.1%、15歳以上 1.4%で、流行時に比べて4歳以下の割合が増えている。

図(11) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



图(11) - 2 年令区分別患者発生状況

伝染性紅斑



## (2) 突発性発しん

本症の病原は1988年、ヒトヘルペスウイルス6型であることが明らかにされた。

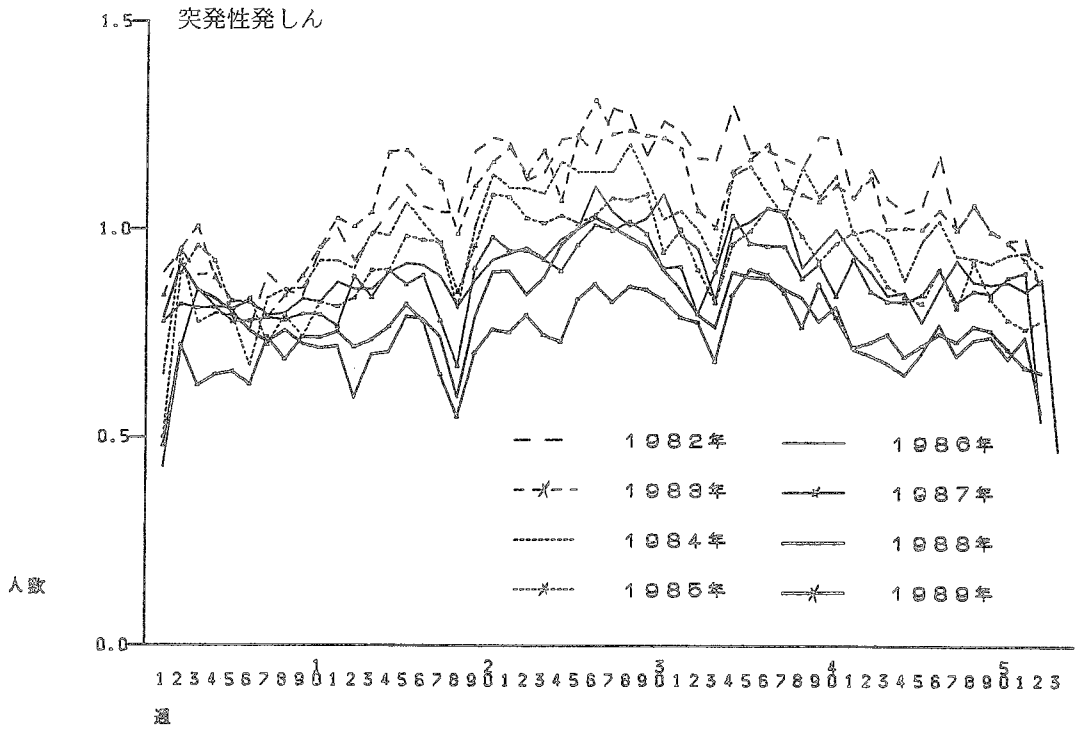
本症は、夏季にわずかに増え、冬季に減る傾向はあるが、年間を通じてほぼ一定の発生を続けるという特徴がある。もう一つの特徴として、年齢別頻度が0歳がほとんどであることがあげられる。このような特徴があるので、サーベイランス対象疾病の解析の指標として利用される。

定点当たり年間報告数も、ほぼ一定で1982年 56.25人、83年 55.18人、84年 51.40人、85年 47.72人、86年 47.42人、87年 45.33人、88年 41.56人、89年 38.94人で、わずかながら低下の傾向がみられている。

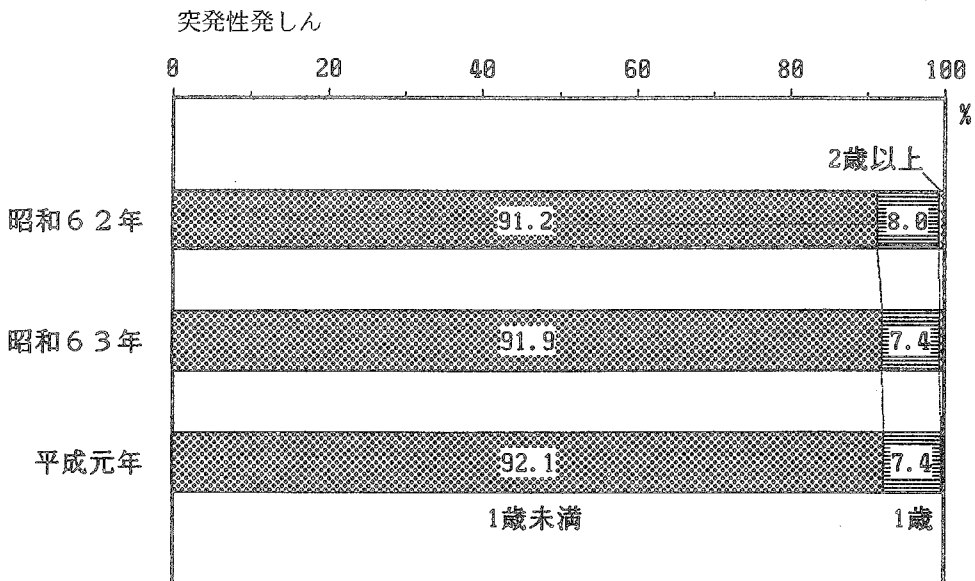
ブロック別の定点当たり年間報告数は、北海道 28.20人、東北 46.45人、関東甲信越 34.15人、東海北陸 40.17人、近畿 33.78人、中国四国 45.48人、九州沖縄 51.32人と北海道が少なく、中国四国、九州沖縄が多い。

年齢別頻度は、0歳 92.1%、1歳 7.4%である。

図(12) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(12) - 2 年齢区分別患者発生状況



### (13) ヘルパンギーナ

毎年7月にピークを作る一峰性の発生パターンであるが、年により多少は発生数、ピークの高さが変わる。

定点当たり年間報告数は、1982年 58.98 人、83年 47.60 人、84年 97.51 人はとくに高い山を作り、その他は85年 41.45 人、86年 43.06 人、87年 49.78 人とほぼ同程度の発生が続いていたが、88年 34.61 人、89年 33.26 人は比較的少なかった。89年のピークは第29週、定点当たり 3.68 人で、例年の平均なみである。

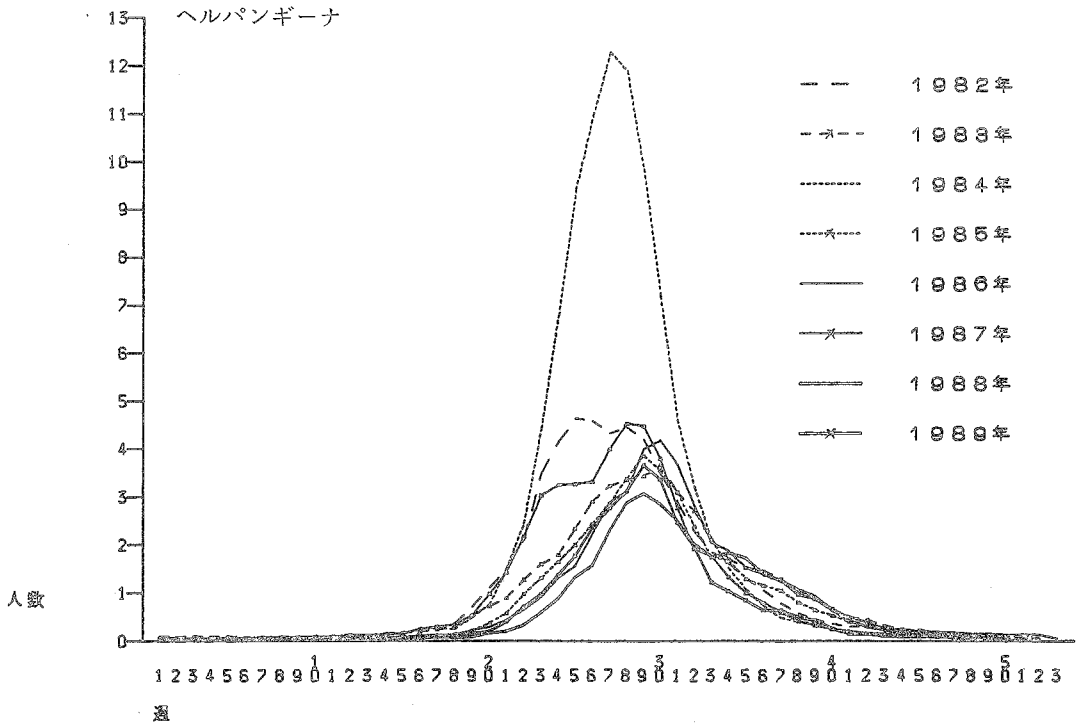
ブロック別定点当たり年間報告数は、東海北陸 42.91 人、東北 42.76 人が幾分多く、近畿 34.98 人、中国四国 33.13 人、九州沖縄 32.57 人で、北海道 28.47 人と関東甲信越 26.36 人がやや少なかった。

県別定点当たり年間報告数は札幌市 56.0 人、宮城 79.41 人、山形 51.30 人、三重 60.02 人、鳥取 59.79 人、大分 62.15 人が50人以上であった。一方、10人以下は山梨 6.55 人、沖縄 4.50 人であった。

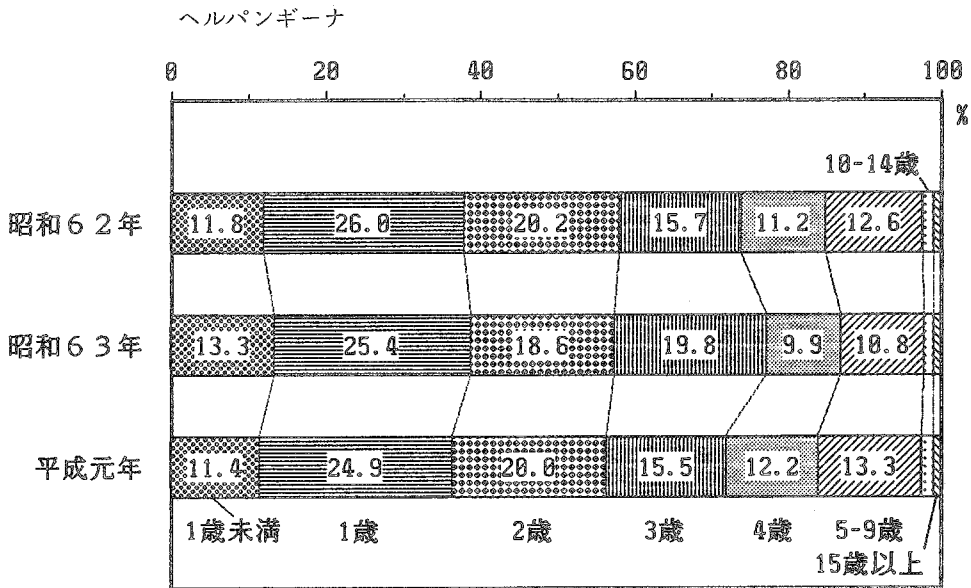
年齢別頻度は0歳 11.4%、1歳 24.9%、2歳 20.0%、3歳 15.5%、4歳 12.2%、1～4歳 72.7%、5～9歳 13.3%、10～14歳 1.5%、15歳以上 1.1%であった。

◎ ヘルパンギーナの主病原はコクサツキーA群ウイルスで、多くの血清型のうち、10以下の番号の型（ただし9型は除く）が毎年入れ替わった組み合わせでその年のヘルパンギーナ流行をひきおこしている。1989年夏に多く分離された型ではA4型がめだって多く、これ以外ではA6型とA8型がやや増加した。A4型は最近毎年増減しつつ分離される型で、1989年は増加年であった。前年増加したA2とA10型の分離報告はめだって少なかった。

図(13) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(13) - 2 年齢区分別患者発生状況





#### (14) MCL S (川崎病)

小児科・内科定点からの年間報告数は1987年定点当たり0.79人、88年0.65人、89年0.70人、病院定点からの報告は、87年定点当たり3.24人、88年3.06人、89年3.09人と、年による変化はなく、年間を通じて小児科・内科定点では、週別定点当たり0.01～0.03人、病院定点では月別定点当たり0.17～0.34人とほぼ平坦な発生状況が続いた。

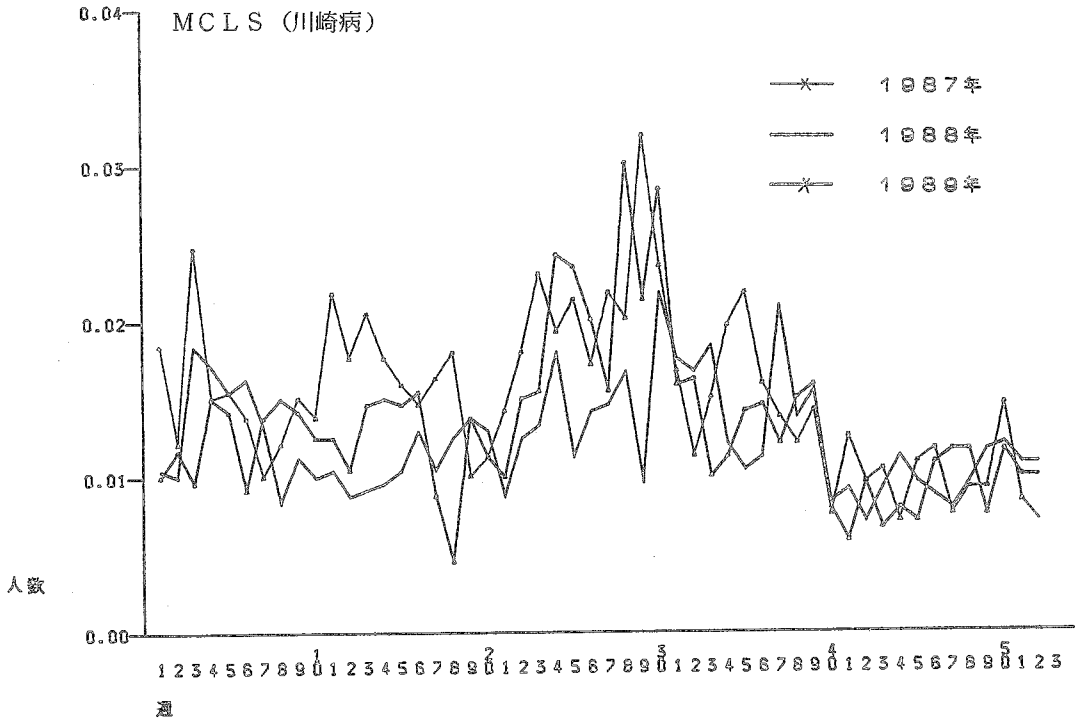
本症は、4年おきくらいに多発する傾向があると言われているが、今回は1985年末から86年初めにかけて発生の山があったが、その後は現在まで、特別の増加の兆候はみられていない。

本年ブロック別定点当たり年間報告数は、北海道では小児科・内科定点0.53人、病院定点0.67人、東北はそれぞれ0.61人、2.24人、関東甲信越0.48人、4.69人、東海北陸1.26人、3.00人、近畿0.59人、2.37人、中国四国0.78人、2.42人、九州沖縄0.83人、4.32人で特別の多発をみたブロックはなかった。

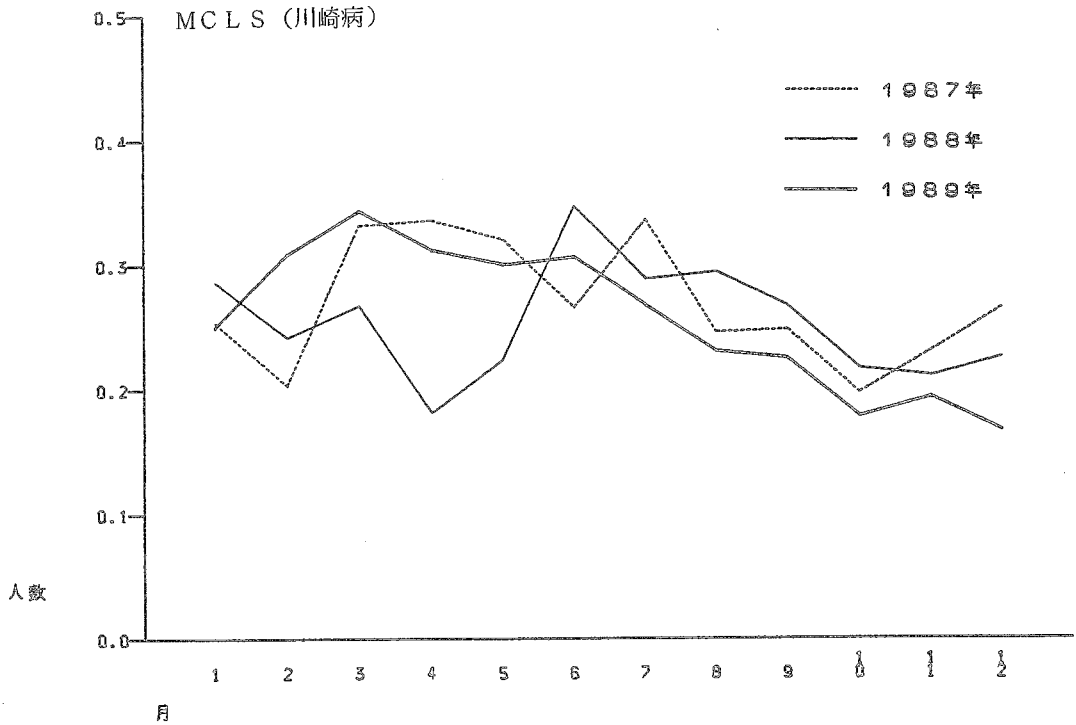
県別にみると、病院定点からの年間報告数の多かったのは、群馬、病院定点当たり16.20人、千葉9.38人、東京8.75人、和歌山9.40人、香川9.67人、熊本8.80人、福岡市25.67人であった。一方、小児科・内科定点からの年間報告数の多かったのは、福井定点当たり1.95人、岐阜1.45人、静岡2.60人、三重1.68人、滋賀1.59人、和歌山1.52人、徳島1.00人、長崎1.04人、大分1.41人、宮崎1.03人で、特定の県に多発したという傾向は明らかでなかった。

年齢別頻度は、0歳は小児科・内科定点24.2%、病院定点29.4%、合計26.8%、1歳はそれぞれ25.7%、26.0%、25.9%、2歳17.1%、16.1%、16.6%、3歳13.6%、11.0%、12.3%、4歳8.5%、8.2%、8.4%、5～9歳9.5%、8.7%、9.1%、10～14歳1.1%、0.4%、0.8%、15歳以上0.4%、0.1%、0.3%であった。

図(14)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

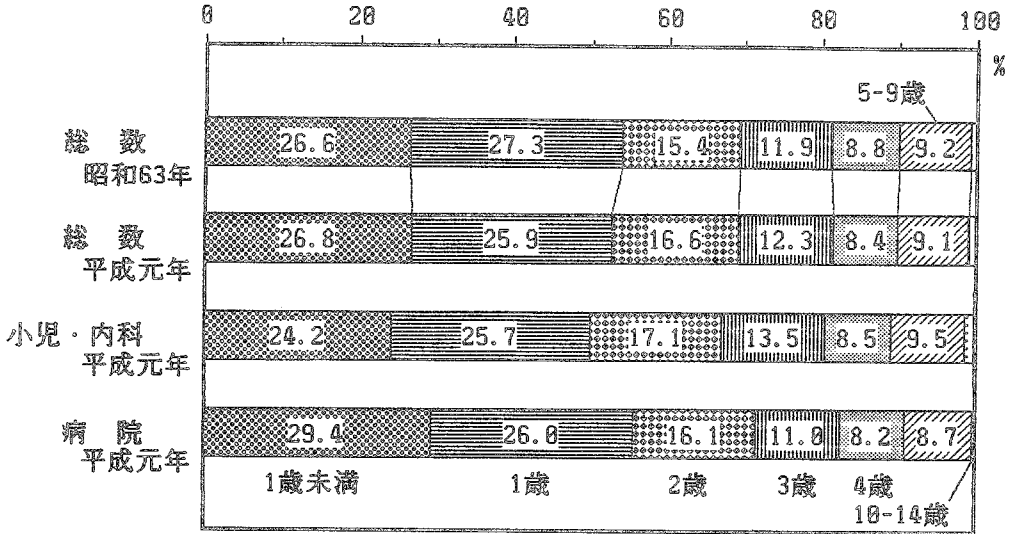


図(14)-2 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(14) - 3 年齢区分別患者発生状況

MCLS (川崎病)



(15) インフルエンザ様疾患

1988～89年シーズンの流行は、1988年第48週から増えはじめ、第52週に定点当たり14.9人に達し、89年第4週に17.85人のピークを作って、以後低下し、第10週に1.0人以下となった。

全国サーベイランスが行われるようになってからのインフルエンザの流行は小規模で、1987年の第4週のピークは定点当たり18.8人、1988年第10週のピークは29.8人で、これに比べても89年4週のピークは小さかった。

この流行はAソ連型が主力で、少数のB型、A香港型が混合していた。初め北海道、東京周辺、近畿の一部で急増したが、年が過ぎてから西日本の流行となった。北海道は第50週に定点当たり9.8人、関東甲信越では第52週に17.3人、近畿は52週に28.2人のピークであった。西日本は第3週に中国四国45.8人、九州沖縄25.4人、第4週に東海北陸30.2人のピークであった。東北ブロックは遅れて第5週に23.5人のピークとなった。

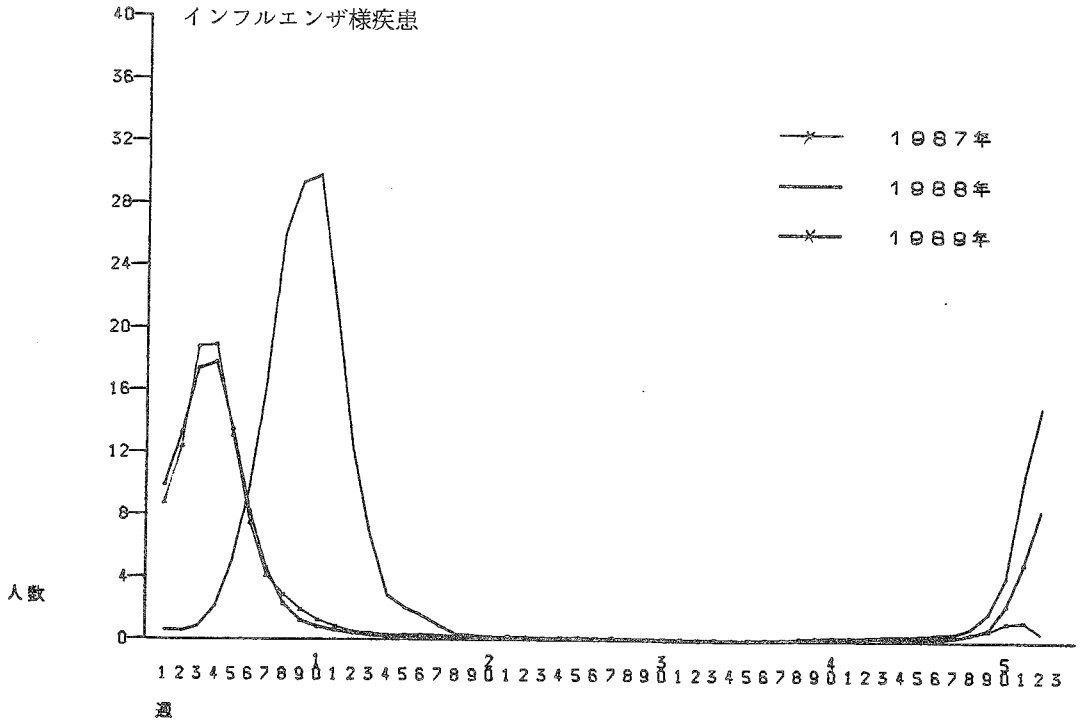
1989～90年シーズンは、89年第50週から上昇しはじめ、第52週定点当たり8.47人となった。この流行は、北海道、青森および東京周辺で始まり、年末に北海道は定点当たり26.72人、札幌市第51週58.53人、青森24.20人、東京21.92人、群馬23.88人、埼玉36.49人、山梨26.18人を示した。流行は年が過ぎてから西日本で急増をみた。流行ウイルス型はA香港型が多く、B型も混在している。

1989年定点当たり年間報告数は114.54人で、ブロック別には中国四国176.77人、東海北陸140.28人、九州沖縄120.18人、北海道119.34人、東北113.31人、関東甲信越101.70人、近畿76.29人であった。県別に多いところは新潟301.35人、三重207.46人、島根256.46人、山口236.96人、福岡県256.10人、北九州市303.50人である。

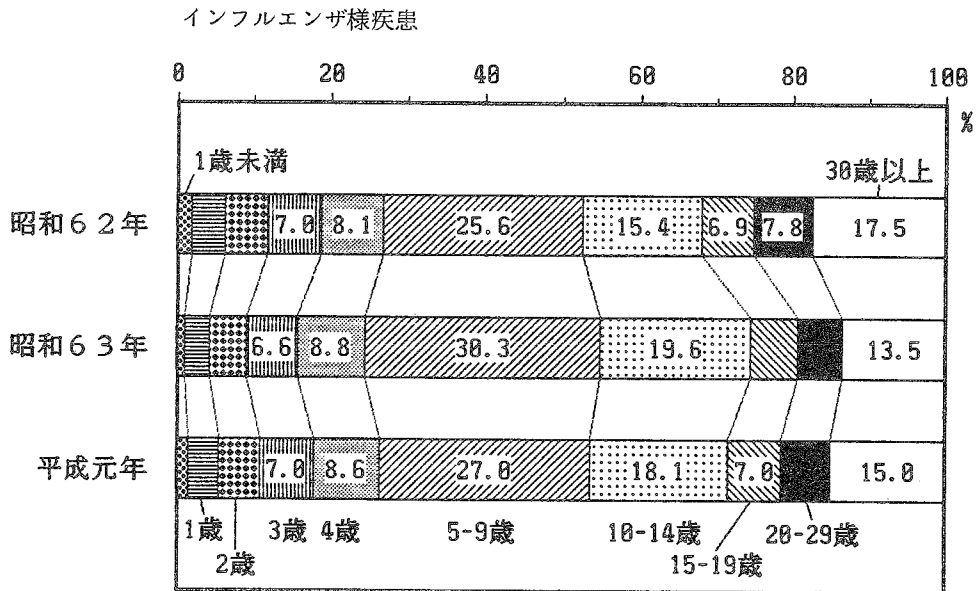
年齢別頻度は、0歳1.5%、1～4歳24.9%、5～9歳27.0%、10～14歳18.1%、15～19歳7.0%、20～29歳6.5%、30歳以上15.0%であった。

◎ 1988～89シーズンのインフルエンザ分離株数の割合は、Aソ連型1500に対し、A香港型46、B型32であった。1988～89シーズンは正月以前はA香港型が優勢、年明け以降はB型の動きがめだっている。

図(15) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(15) - 2 年齢区分別患者発生状況



## (6) 感染性髄膜炎

### (1) 細菌性髄膜炎

年別病院定点当たり報告数は1982年1.65人、83年1.73人、84年1.14人、85年0.94人、86年0.96人であったが、87年は0.64人、88年0.67人、89年0.60人とやや低下傾向がみられる。

ブロック別、県別の報告数に大きな違いはない。月別の報告数は17人から38人、病院定点当たり0.03人～0.07人で、月別の差は明らかではない。

1989年報告数310人で男198人、64.1%、女111人、35.9%であった。

年齢別頻度は、0歳33.9%と最も多く、1歳9.0%、2歳7.7%、3歳5.5%、4歳7.1%、1～4歳29.4%、5～9歳21.3%、10～14歳5.8%、15～19歳0.1%、20歳以上9.0%であった。

病原菌としてインフルエンザ菌27、B群連鎖球菌9、肺炎球菌11が報告されている。

### (2) 無菌性髄膜炎

病院定点当たり年間報告数は1982年11.82人、83年19.35人、84年11.05人、85年11.66人、86年12.17人と11～19人が続いていたが、87年は4.01人、88年4.74人と著しく少なかった。本年は9.27人と増加をみた。

月別発生状況は1月に定点当たり0.22人から7月のピークに2.04人となり、12月に0.37人に下がった。

ブロック別、県別発生状況に大きな違いがあり、鳥取と沖縄で特に強い流行を認めた。

県別病院定点当たり年間報告数は、鳥取105.70人、沖縄200.0人が特に多く、その他、定点当たり10～30人台の県は、群馬10.40人、神奈川13.59人、新潟19.83人、富山16.60人、兵庫14.43人、奈良21.00人、広島12.38人、山口15.33人、徳島10.80人、香川37.67人、大分10.67人、宮崎22.50人、鹿児島10.40人であった。

一方、定点当たり5人以下の少ないところは、北海道、青森、岩手、宮城、秋田、福島、茨城、栃木、埼玉、石川、福井、大阪府、島根、岡山、高知、福岡、佐賀、長崎の18道府県に達している。

このような県別発生状況を反映してブロック別の定点当たり年間報告数は、中国四国19.94人、九州沖縄9.56人で、東海北陸8.05人、近畿6.89人、関東甲信越6.61人で、北海道2.40人と東北2.26人は少なかった。

1989年報告例4765人のうち、男3079人、64.6%、女1686人、35.4%であった。

年齢分布は、0歳8.3%、1歳5.2%、2歳5.6%、3歳8.6%、4歳14.0%、1～4歳33.3%、5～9歳44.3%、10～14歳7.95%、15～19歳1.0%、20歳以上5.1%である。

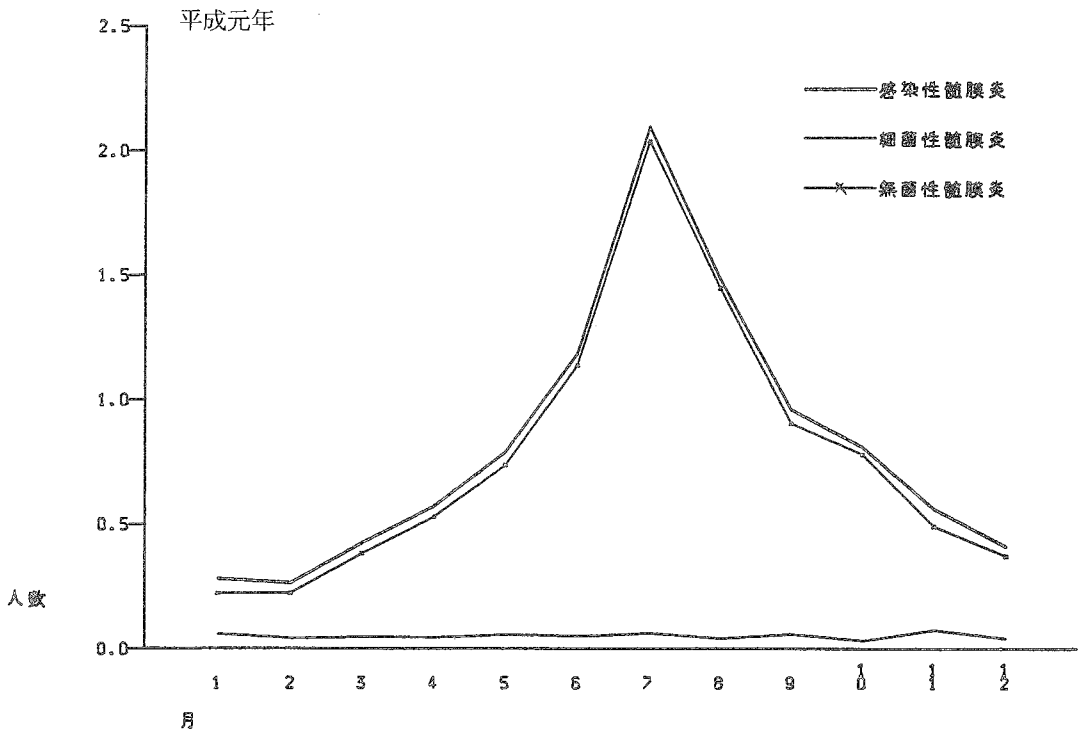
◎ 患者情報に伴ってオンラインシステムで送られる病原報告では、流行の影響によりムンプスが566例報告されている。エンテロウイルスとしてはCA9型：1、CB：1、CB2：2、CB5：4、E9：1、E11：1、E18：2、E25：1、型別不明83が報告されている。その他、HSV1：1、HV型別不明：2、VZV：4、CMV：1、マイコプラズマ：4

が報告された。

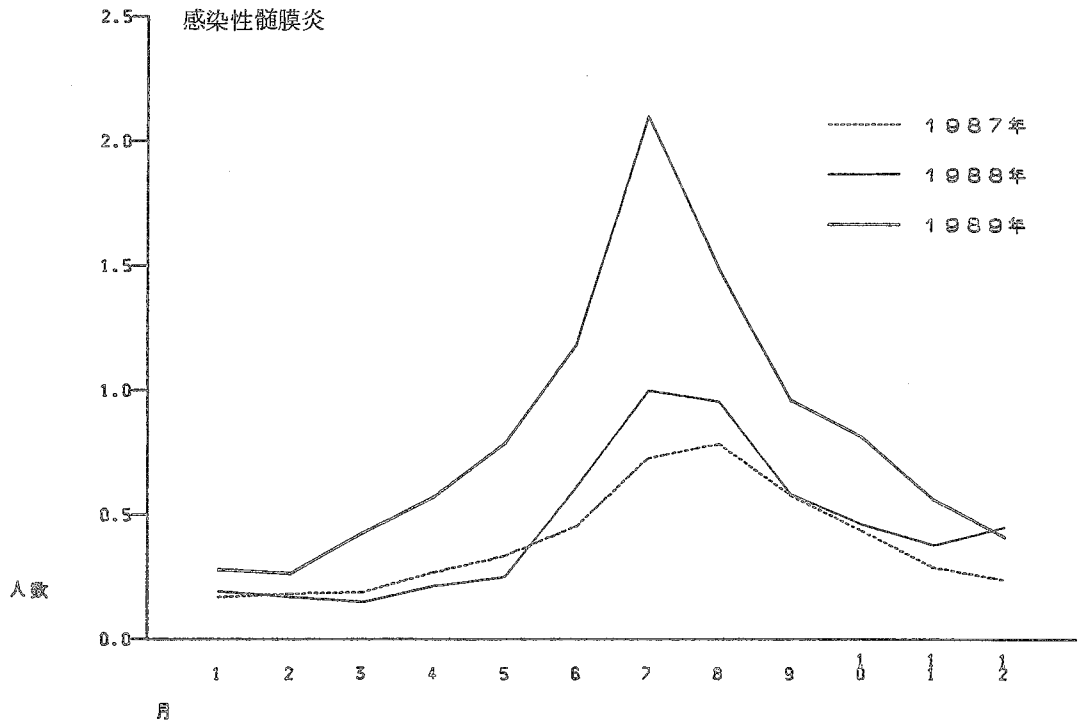
一方、病原微生物情報によると、この年の無菌性髄膜炎では、髄膜炎と関連の高いエンテロウイルスが多種類流行し、しかもそれぞれ地域的流行をひきおこしたのが特徴的であった。このように多くの血清型のエンテロウイルスが髄膜炎に関連してそれぞれにあるていどの規模の流行をおこした例は珍しいらしい。1989年に髄膜炎患者から分離されたウイルス（1990年1月までの報告）は、エコー30型（302例）、エコー4型（143例）、コクサツキーA9型（75例）、コクサツキーB9型（66例）、エコー11型（64例）などで、さらにムンプスウイルスの分離が94例報告された。このうち、エコー4型の大部分とエコー30型の半数以上が鳥取県からの報告、また、エコー30型は香川、徳島、奈良県などで多く報告された。またコクサツキーA9型は主に愛知県で報告された。

エンテロウイルスの検出年齢は1歳をピークに低年齢の割合が高いが、髄膜炎患者からの検出例は4～5歳を中心に年長児の方が多い。

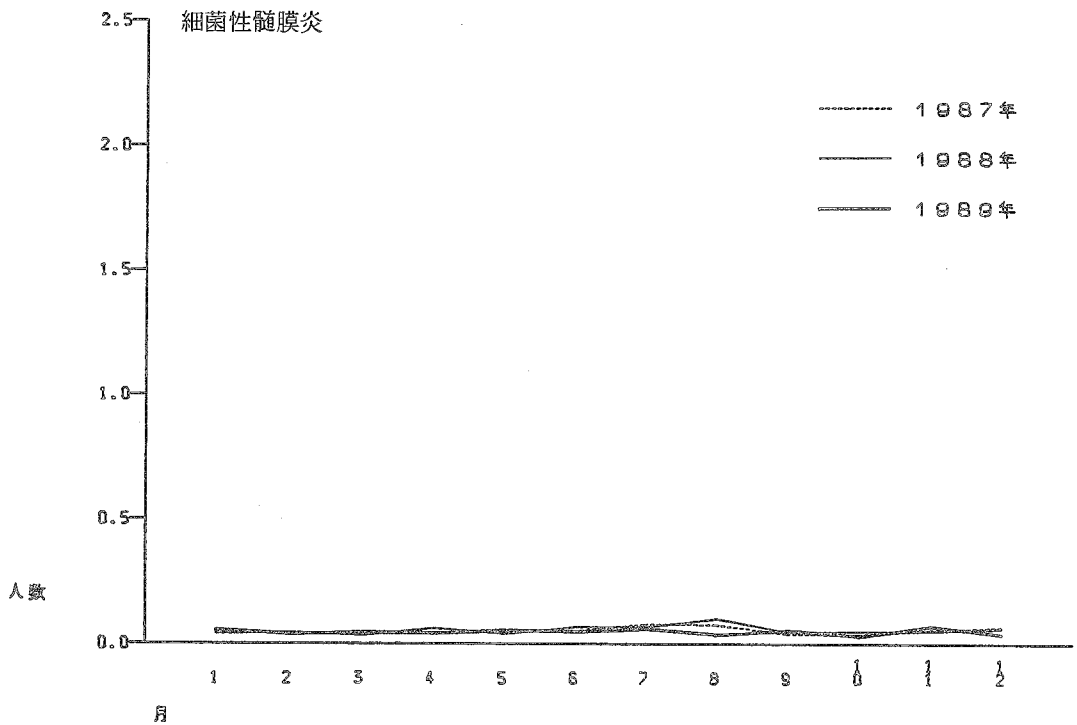
図(16) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(16) - 2 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

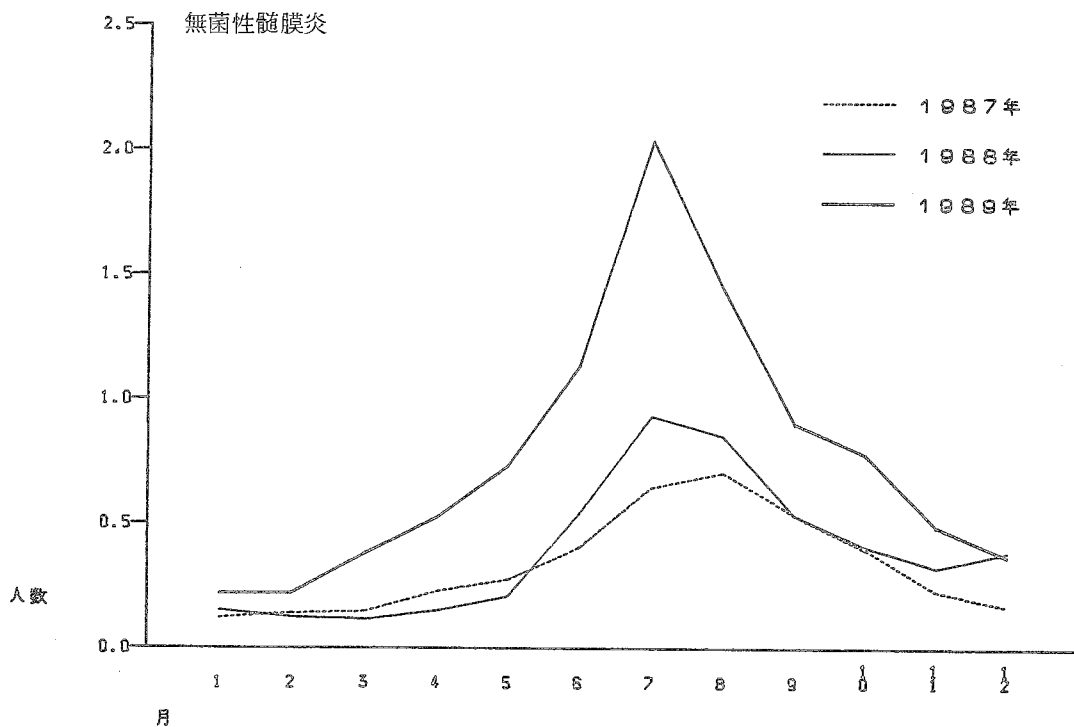


図(16) - 3 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

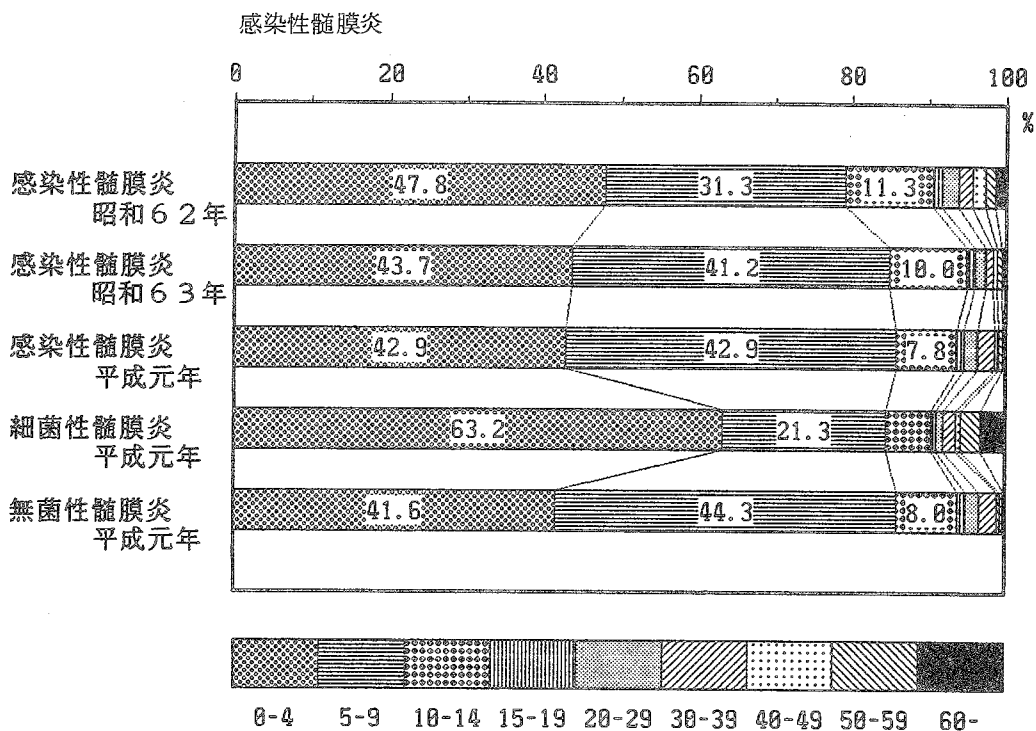




図(16) - 4 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(16) - 5 年齢区分別患者発生状況



(17) 脳・脊髄炎

病院定点当たり年間報告数は1982年1.04人、83年0.59人、84年0.48人、85年0.44人、86年0.33人、87年0.64人、88年0.58人、89年0.41人で、風しん流行年に多い傾向がうかがわれる。

1987年から脳炎、脳症等に分けて報告されるようになり、本年は脳炎149人、定点当たり0.29人、脳症31人、0.06人、ライ症候群12人、0.02人、脊髄炎18人、0.04人であった、87年、88年は風しんによる脳炎の増加が認められたが、本年は脳炎が減少している。

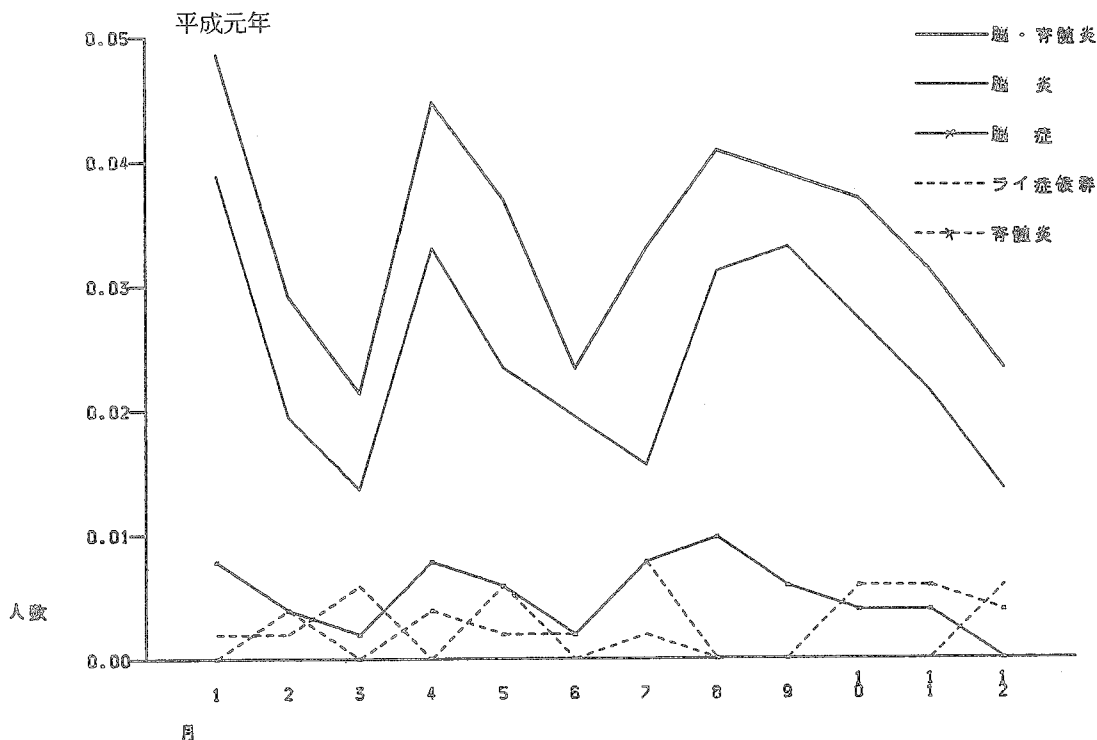
性別では、男117人、56.0%、女92人、44.0%である。

年齢分布は脳炎0～4歳37.6%、5～9歳30.9%、10～14歳17.5%、15歳以上14.1%、脊髄炎はそれぞれ22.2%、16.7%、16.7%、44.4%であるが、脳症はそれぞれ74.2%、12.9%、9.7%3.2%、ライ症候群は0～4歳75%、5～9歳25%で、脳症、ライ症候群が0～4歳に集中し、脳炎は広く分布し、脊髄炎は15歳以上が増加する傾向が認められている。

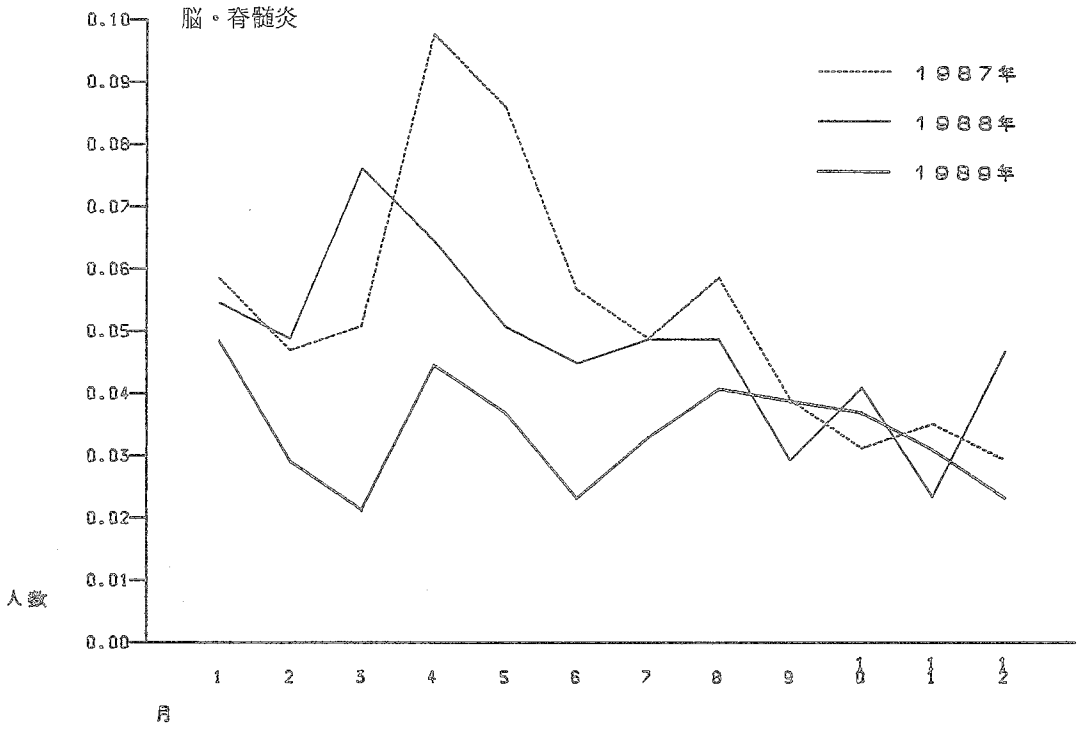
ブロック別、県別の発生状況は、発生数が少ないので意味付けは難しい。

病原として、脳炎がムンプス：1、麻しん：7、風しん：2、日本脳炎：1、HV群：2、HSV1：5、VZV：5、マイコプラズマ：3、型別不明ウイルス：2の報告があり、脳症からE70：1が報告された。

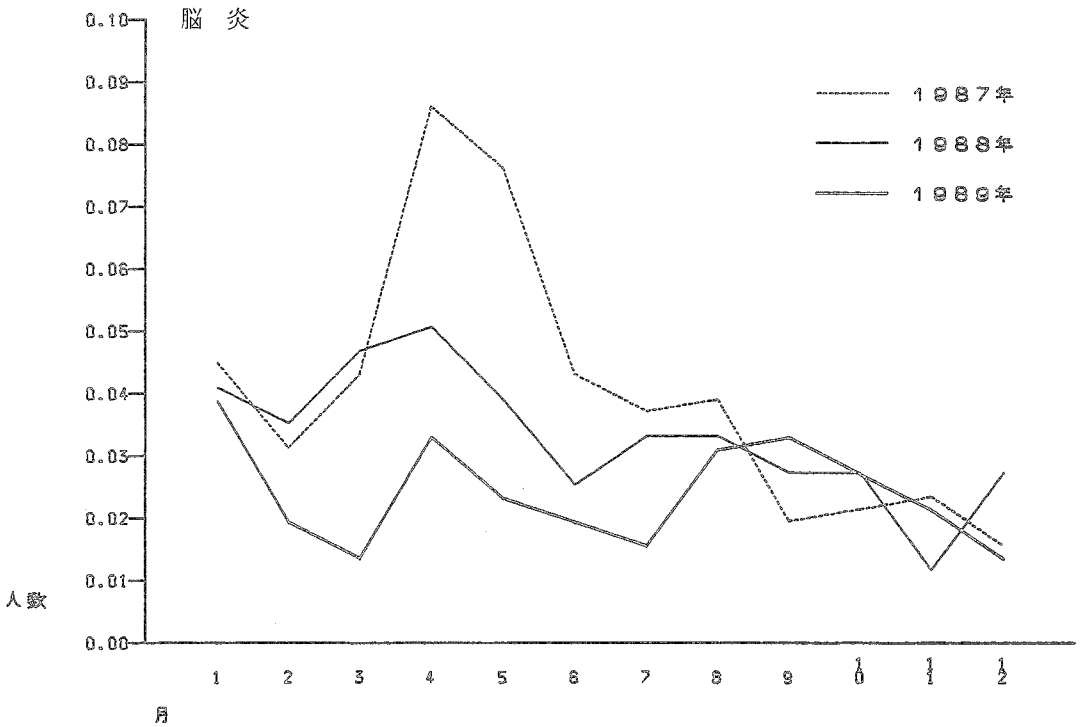
図(17) - 1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



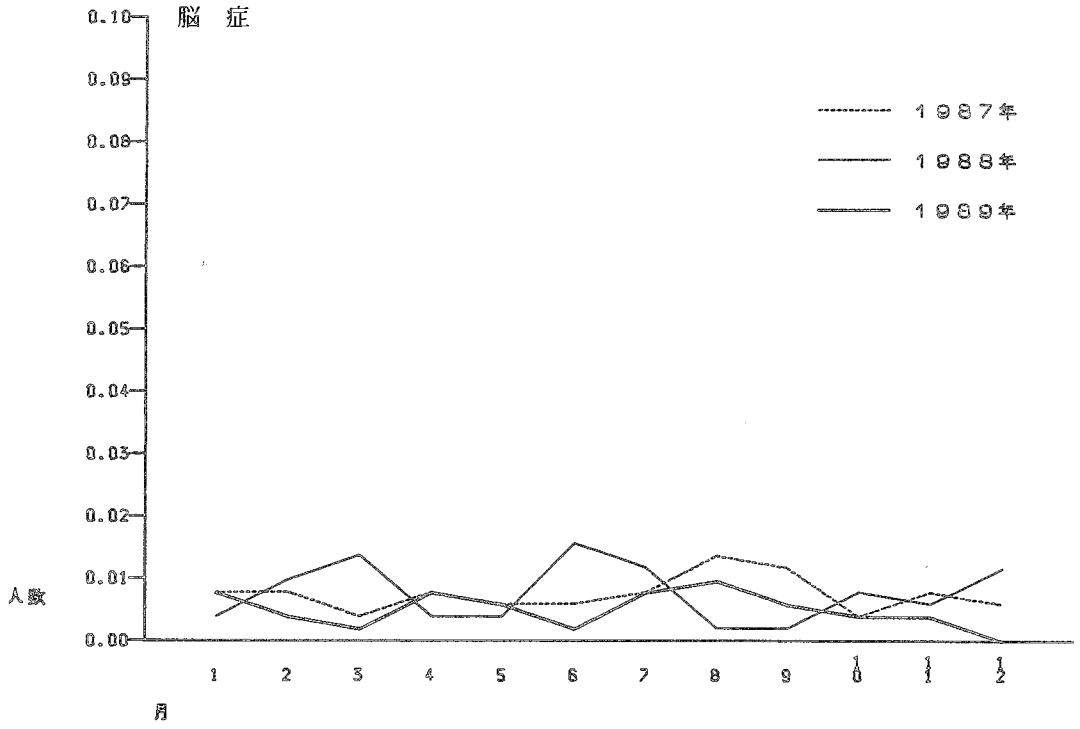
図(17) - 2 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



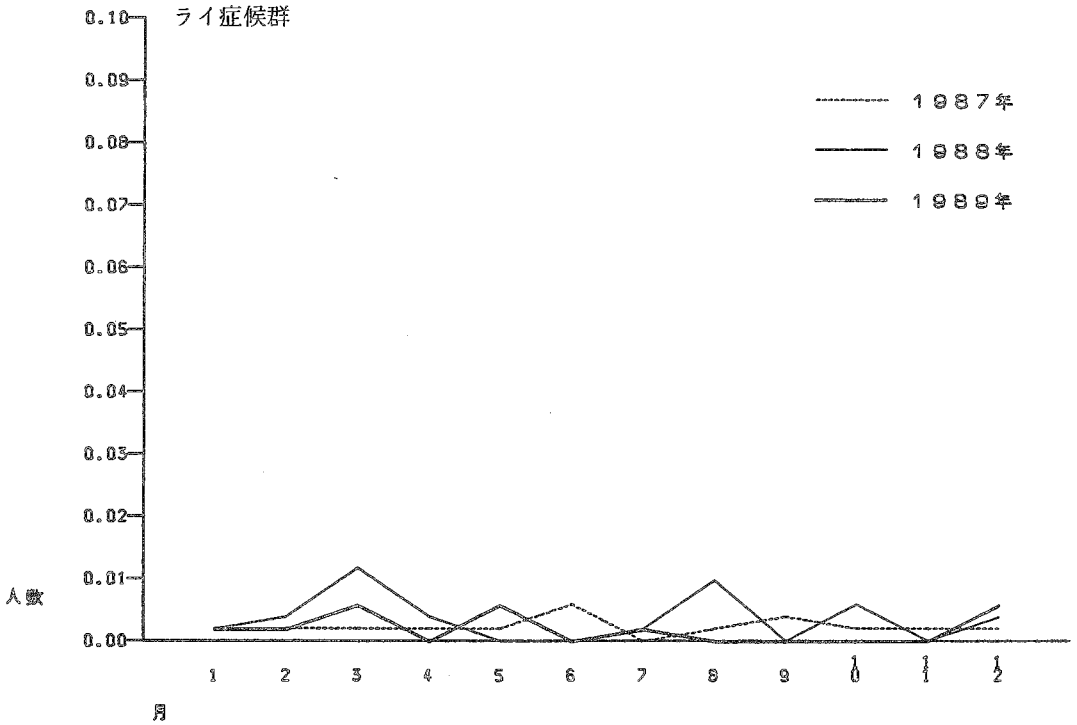
図(17) - 3 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



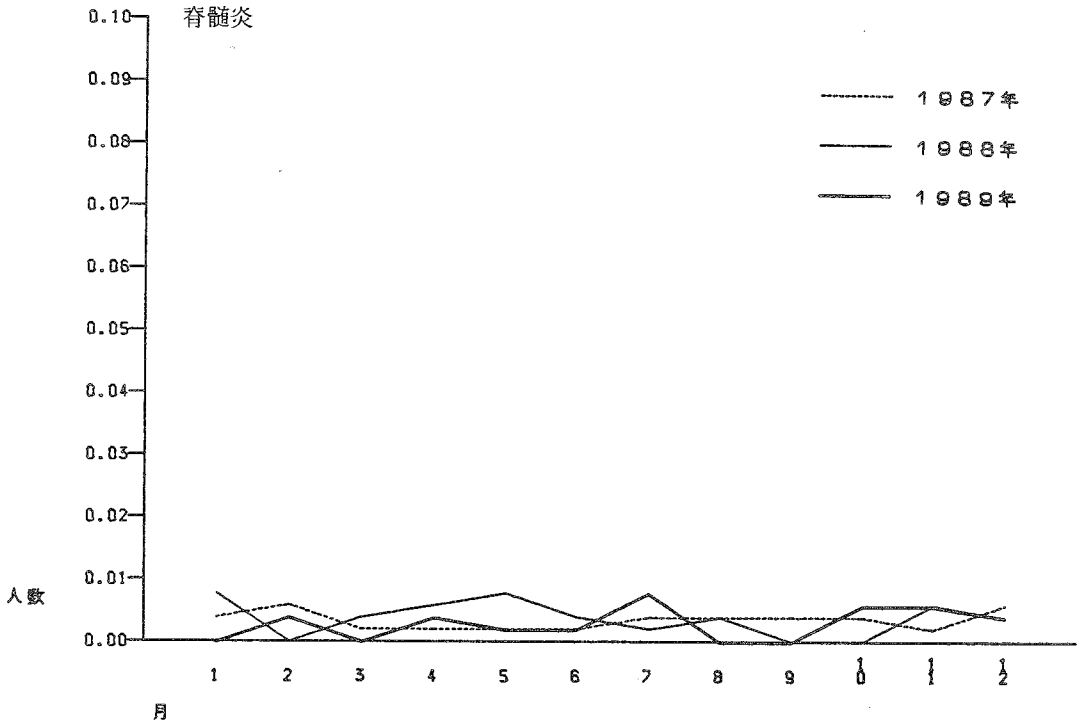
図(17)-4 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(17)-5 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

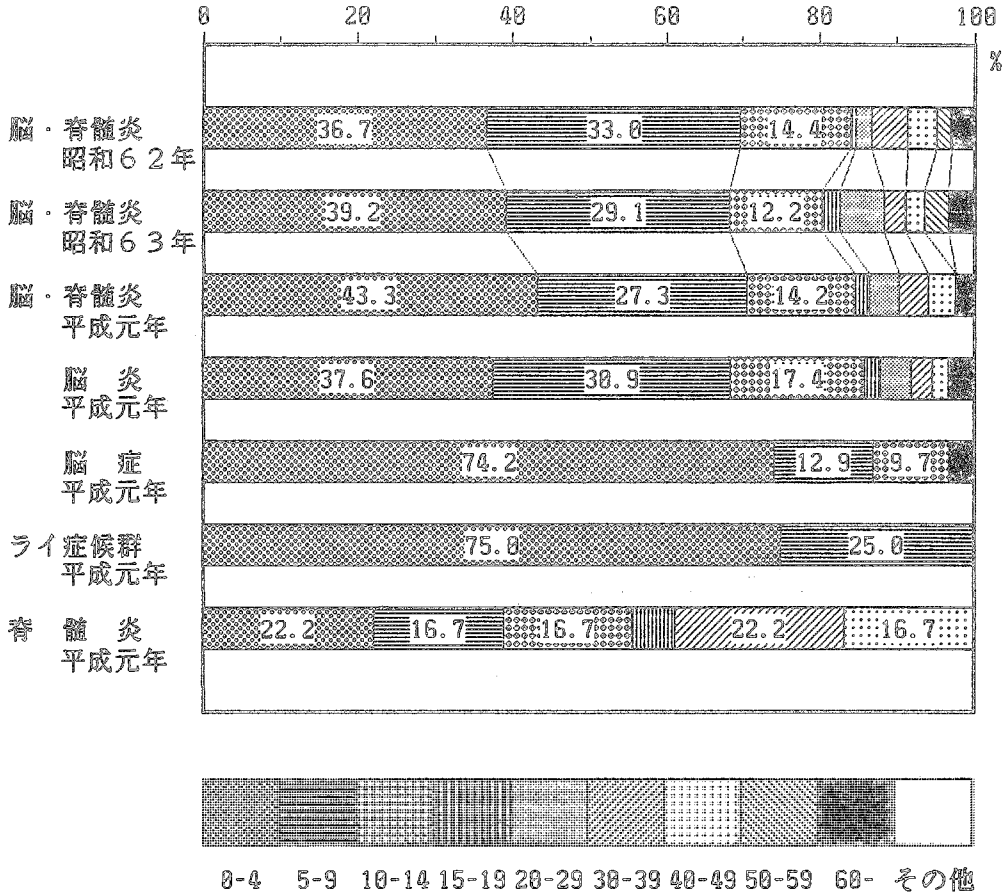


図(17)-6 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(17)-7 年齢区分別患者発生状況

脳・脊髄炎



## 2. 眼感染症

### (1) 咽頭結膜熱（PCF）

第3四半期の高知県の如くPCFは小児科・内科定点における報告が多発したときには眼科定点でも報告数が多くある。しかし、眼科定点でPCFはEKCの軽い型と臨床診断される場合があり、これらを鑑別する必要がある。手足口病において結膜炎は一般にPCFの症状を呈すると報告されているが、実際にはEKCと報告されている可能性が強い。沖縄における39週から43週にかけて手足口病の発生が増加しているが、この時期にPCFの報告は0であり、EKCの報告はこの時期に集中している。しかもEKCの中からEV71が分離されたという報告もある。同様な傾向は福島県においてもみられる。

### (2) 流行性角結膜炎（EKC）

眼感染症の中で最も多いEKCの発生のピークは第3四半期の34週か35週にあるのが一般的傾向であるが、年によりそのピークがずれて発生したり、第3四半期の発生が第4四半期に継続してくる場合がある。福島県と佐賀県において44週と45週が患者数が多く例年より10週遅れてピークがみられた。福岡県、佐賀県、長崎県、福岡市では第4四半期と第3四半期の発生数に差がなく、第3四半期の発生が第4四半期に継続していた。

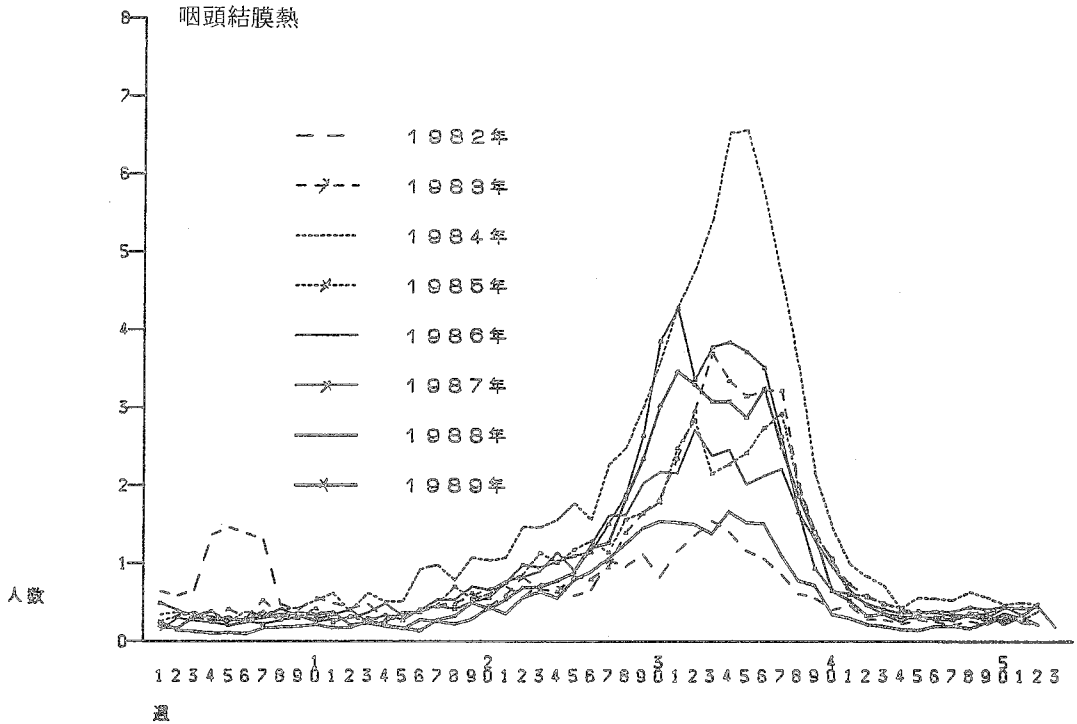
### (3) 急性出血性結膜炎（AHC）

AHCは47週に鹿児島、千葉県は一年間を通して発生している。千葉県のEKCの患者が第4四半期の前期に多数報告されている。その患者がEV70であることがペア血清で証明されている。

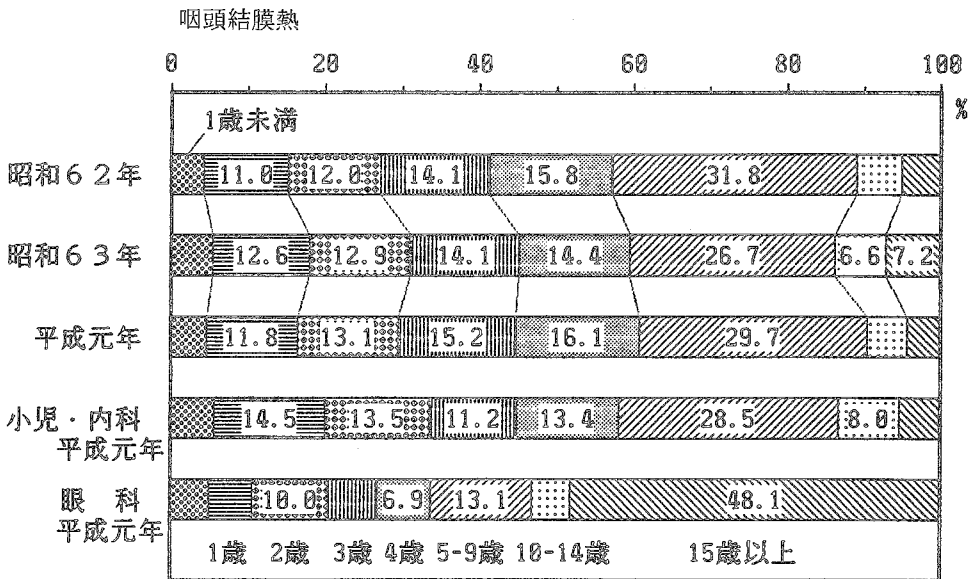
◎ 咽頭結膜熱の病因は主としてアデノウイルス1～6型である。日本ではこのうち3型の動きが咽頭結膜熱の流行の動きを左右することが多い。1989年に3型は6～9月に増加した。一方、過去に3型に匹敵する流行をみせたことのある4型はなお減少傾向が続いている。一方、流行性結膜炎の主病原となるのはアデノウイルスのうち、4、8、19、37型で、いずれも1989年は極めて低調である。

低頻度ながら、眼めぐい液からエンテロウイルスの分離が報告される。1989年中には、コクサッキーA4型1例、コクサッキーB5型7例、エコー7型1例の分離が報告された。

図(1)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

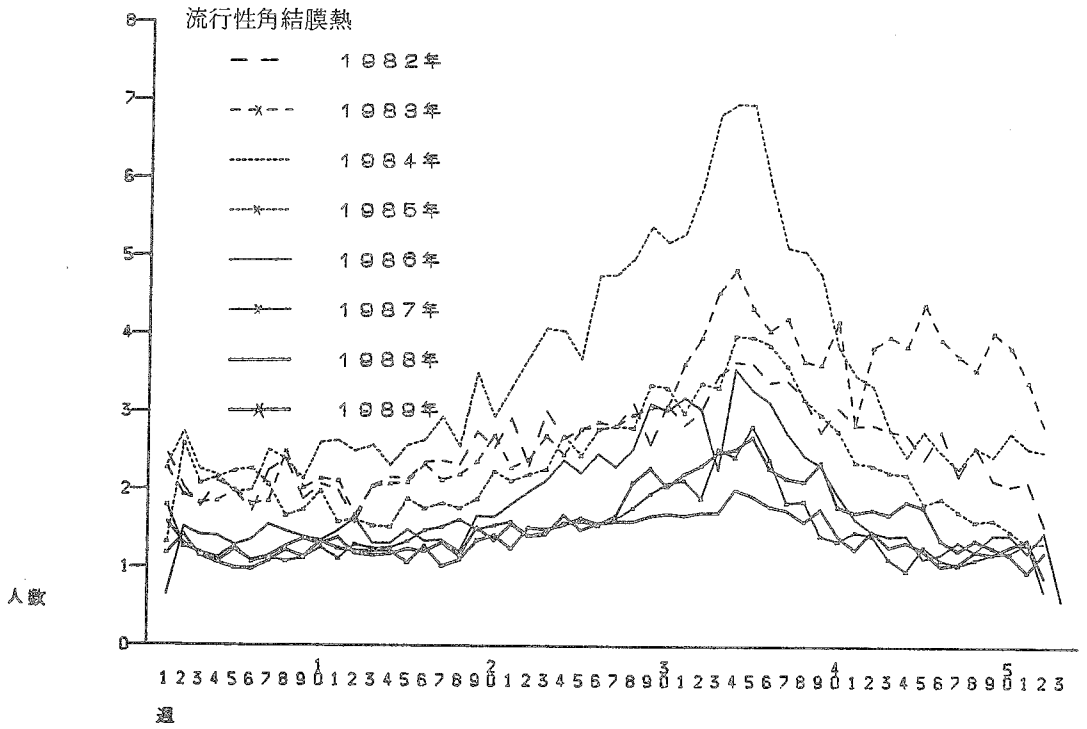


図(1)-2 年齢区分別患者発生状況

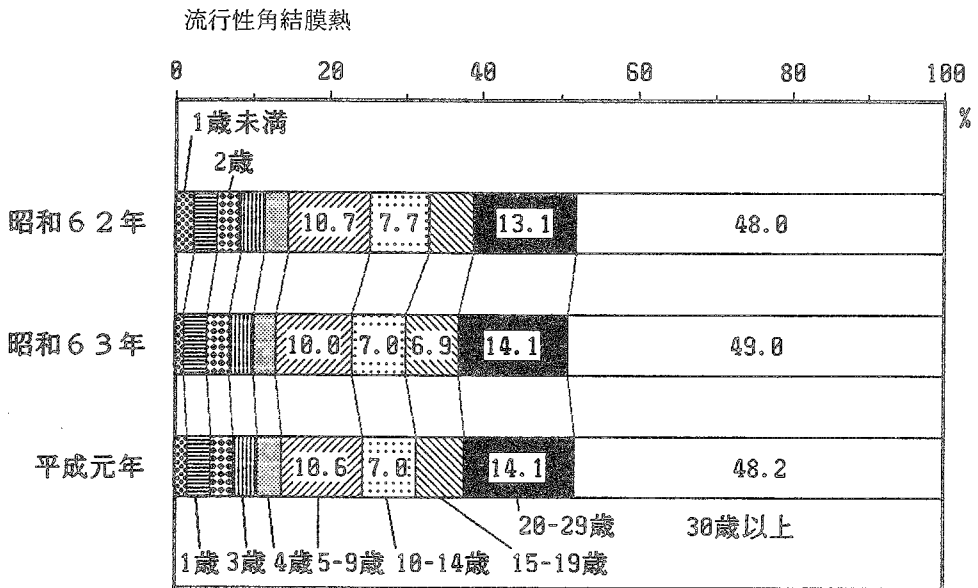




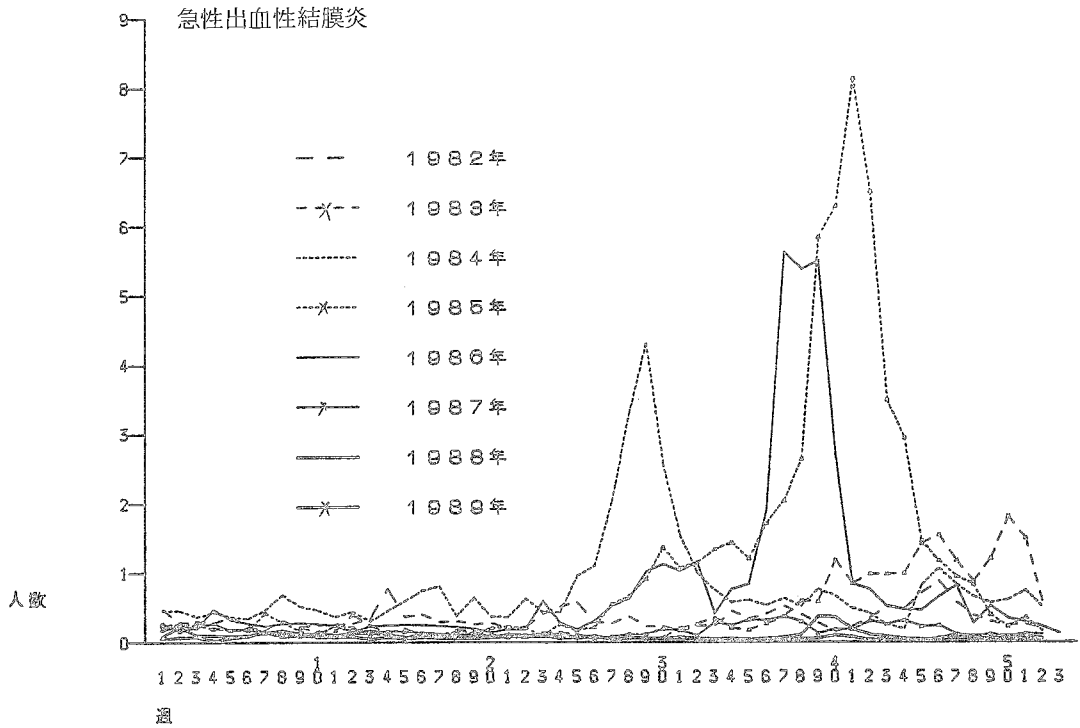
図(2)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



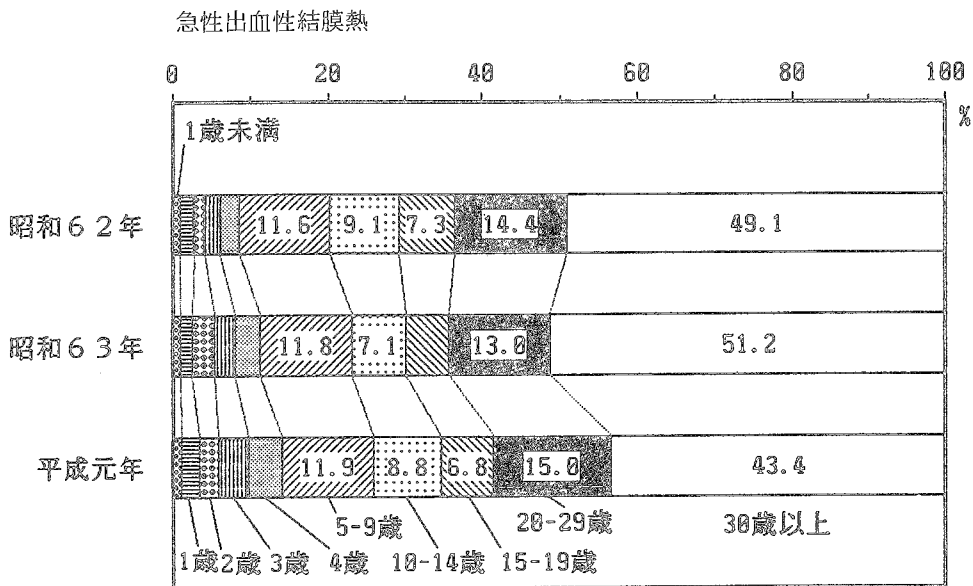
図(2)-2 年齢区分別患者発生状況



図(3)-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移



図(3)-2 年齢区分別患者発生状況



### 3. ウイルス肝炎

#### (1) A型肝炎

昨年と同様に1月より7月の間に3月をピークとする発生の増加がみられ、発生数も昨年の1.25倍であった。男女比は0.96で昨年と同様に女性に多かった。なお、本年は昨年にもみられた12月の発生増加はみられなかった。

年齢別発生頻度は昨年に比べて5歳～14歳に明らかな発生増加がみられ、今回の発生数の増加は主としてこの若年者の発生増加によると考えられた。

#### (2) B型肝炎

昨年と同様に月別発生には明らかな相違はなかったが、昨年に比べ3月と7月を除き発生数の減少がみられ、本年は昨年より約8%少なかった。

男女比は1.63と昨年の1.65と大きな相違はなかった。年齢別分布も昨年とほぼ同様であった。

#### (3) その他の肝炎

昨年と同様に月別発生に明らかな相違はなく、また発生数は昨年の82.5%と減少がみられた。男女比も1.045で昨年(1.09)とほぼ同様である。

年齢別の発生頻度も昨年と同様であるが、4歳以下が昨年と同様14%を占めている点が注目される。これは肝炎ウイルス以外のウイルス感染による肝炎が含まれていると考えられる。

Chiron社の開発したHCV抗体は我が国の急性非A非B型肝炎のうち、散発性の3分の1、輸血後の4分の3に陽性になることが明らかにされた。将来HCV抗体の測定の導入を考慮する必要がある。

図3-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

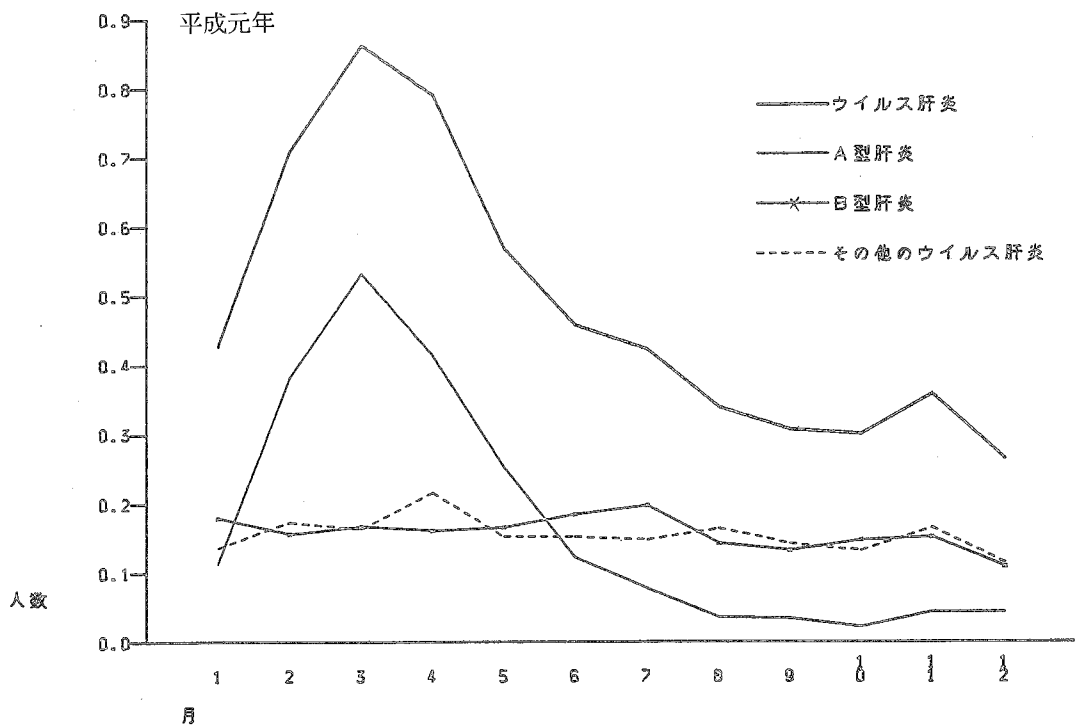


図3-2 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

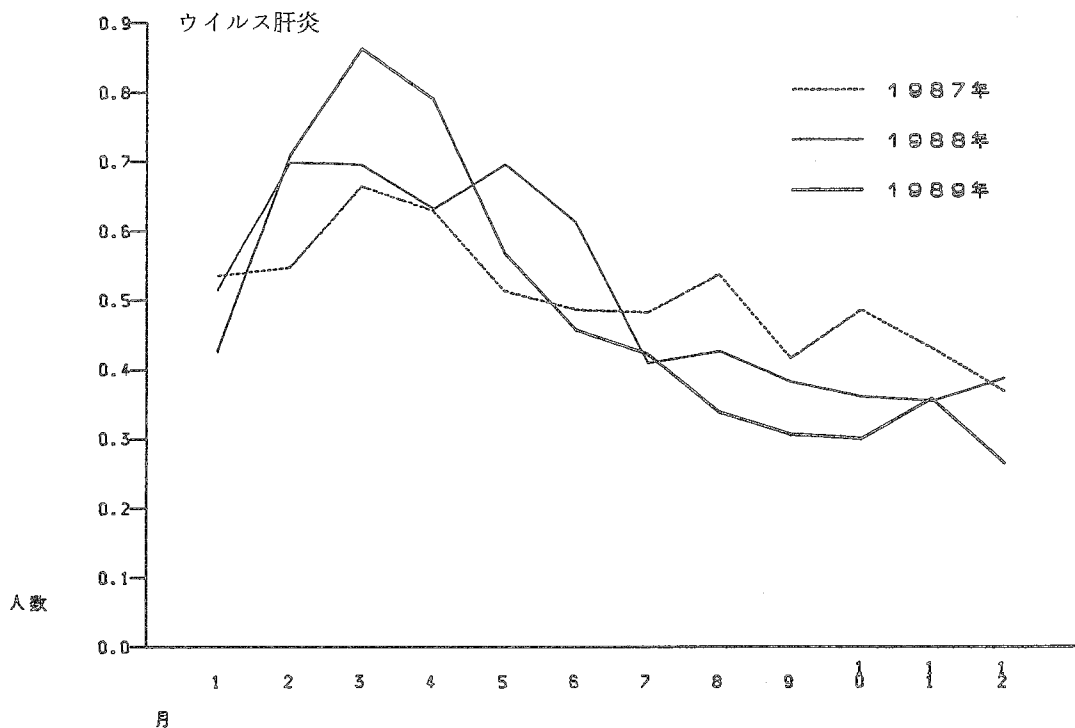


図 3-3 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

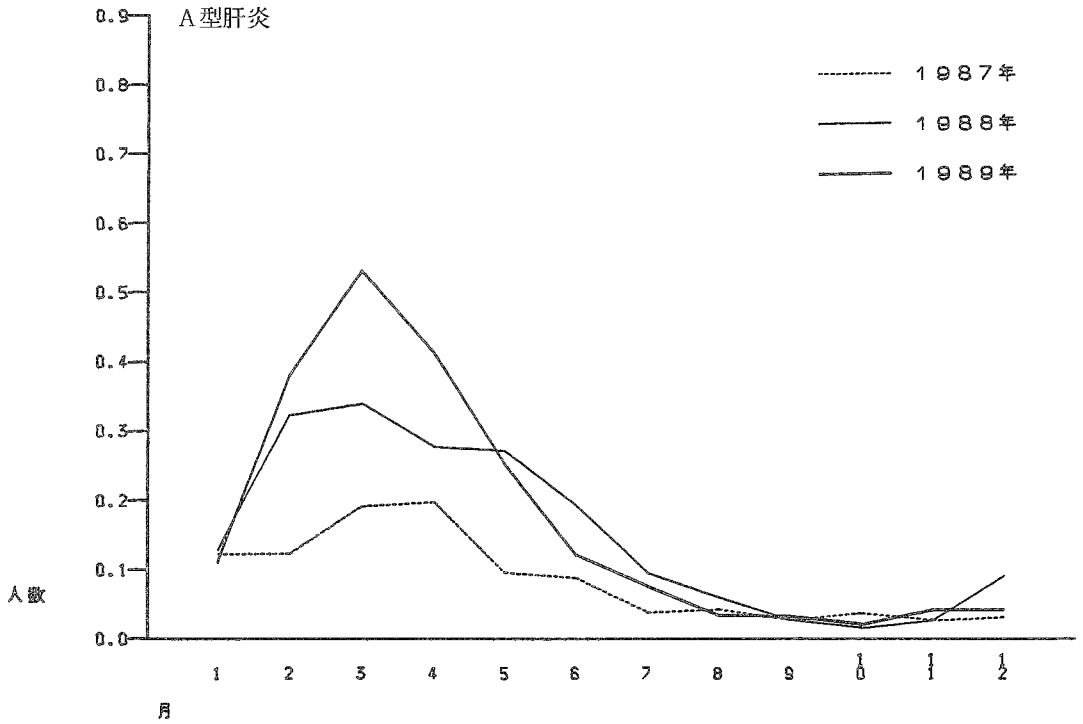


図 3-4 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

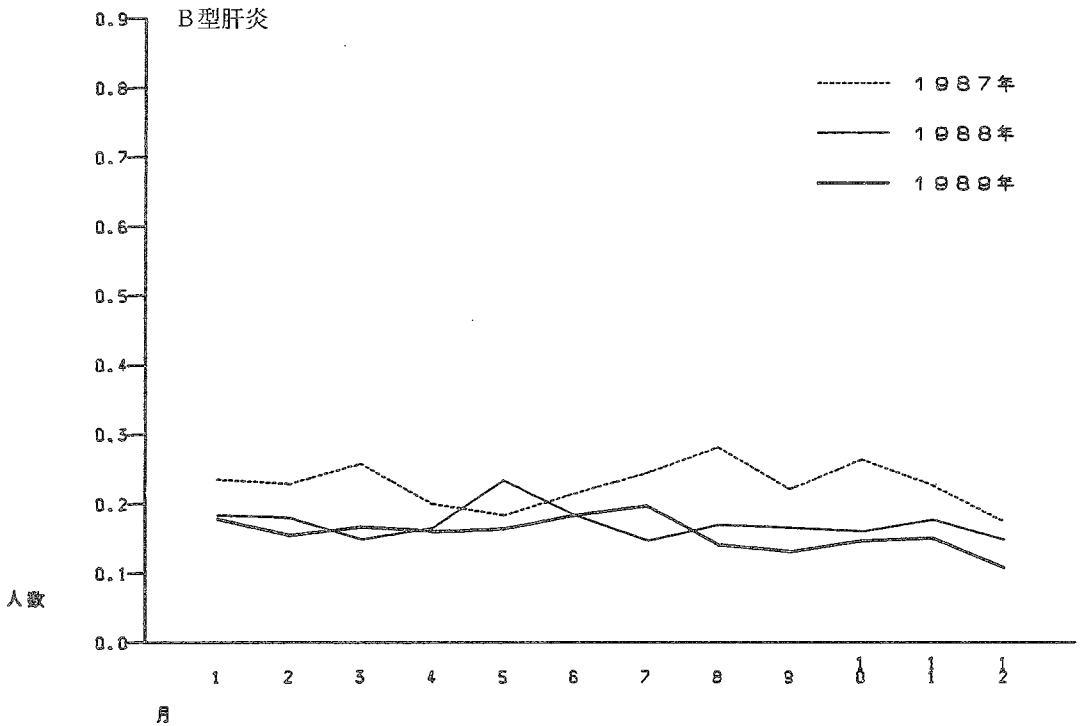


図3-5 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

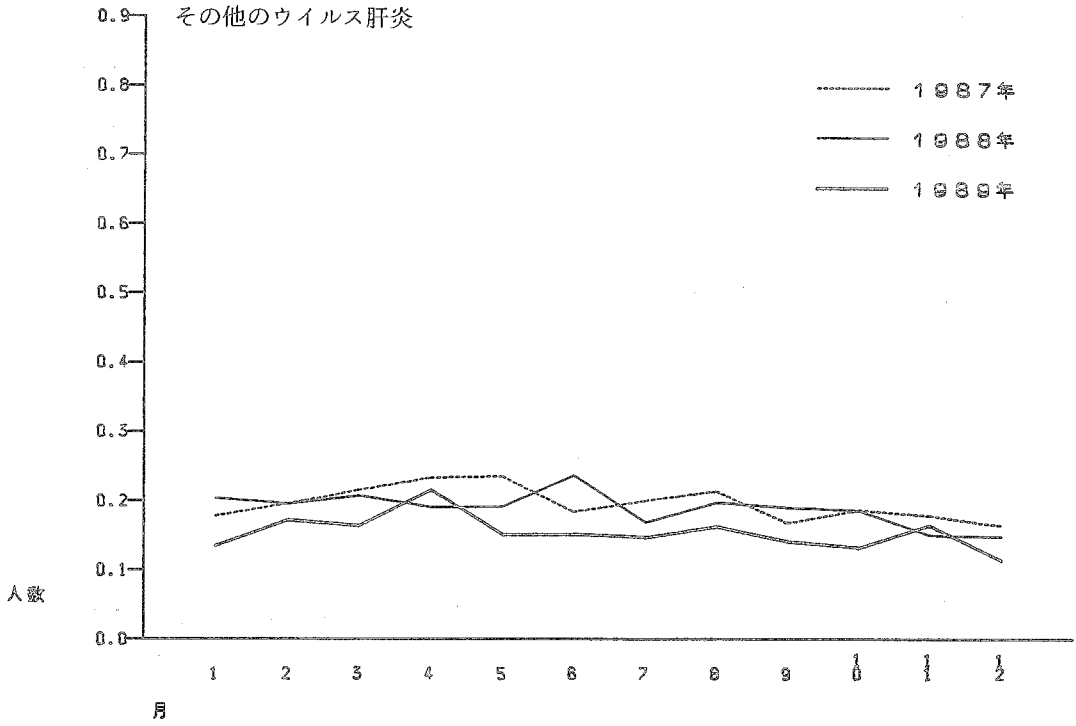
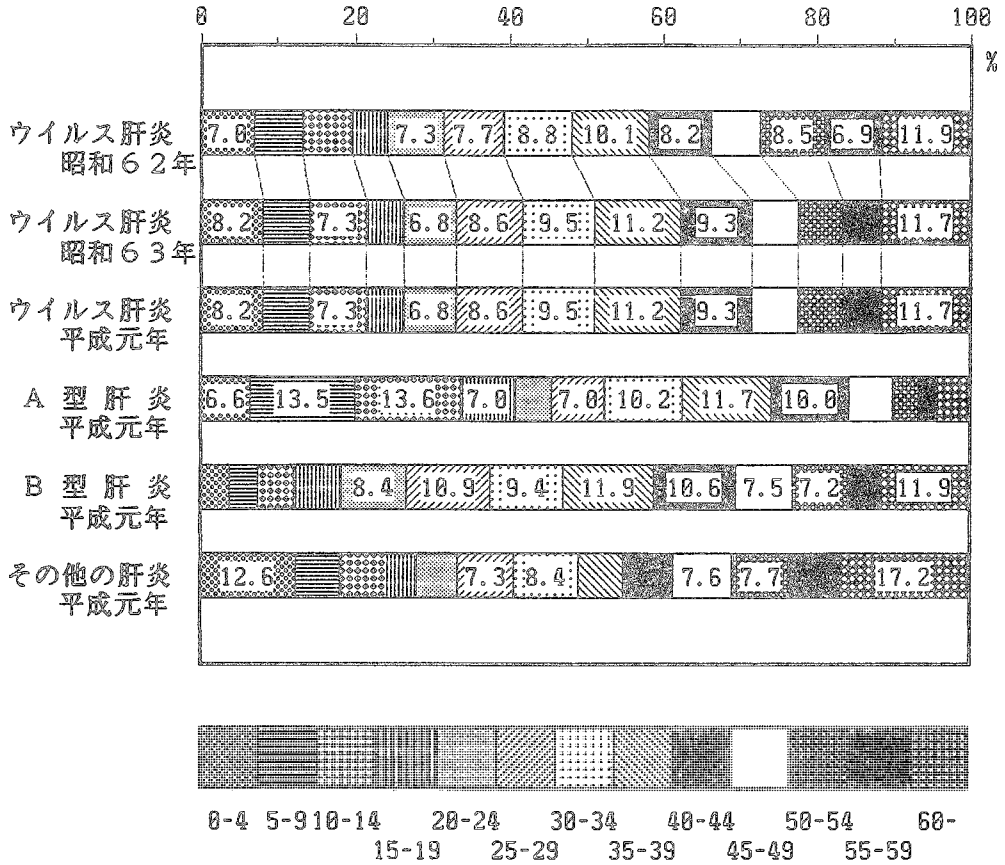


図 3-6 年齢区分別患者発生状況



#### 4. 性感染症

性感染症は、1989年 40,669 例報告された。これは88年の 41,376 の 98.3%に相当する。年間を通しての増減はあまりない。

性感染症の中で最も多いのは、淋病様疾患で 31.5%、次いで陰部クラミジア感染症 30.6%、トリコモナス症 14.8%、陰部ヘルペス 13.1%、尖圭コンジローム 10.0%の順となっている。性感染症における分布を88年と比べてみると、相対百分率で淋病様疾患が 0.6%減少したのに対し、陰部クラミジア感染症が 1.9%増加し、これらの両疾患がほぼ同数になった。淋病疾患を 1 にしたときの相対的な頻度を年次別に見てみると、陰部クラミジア感染症は年々増加の一途をたどり、89年にはほぼ 1 に近づくようになった。これに対し、トリコモナス症、尖圭コンジロームは、減少傾向にある。陰部ヘルペスは横ばい状態である。

##### (1) 淋病様疾患

淋病様疾患は、全体的に減少し、1989年は88年の 96.2%であった。従来と同様に約 90%が男であった。定点当たりの報告数は87年に比べ、88年、89年はやや減少している。年齢分布は20~29歳をピークとして、年齢が高くなるにつれて低下傾向がみられるのは、従来と同様である。

##### (2) 陰部クラミジア感染症

陰部クラミジア感染症は着実に増加傾向にある。この傾向は女に著名で、1988年に比べて89年に増加した数の大部分は女の例である。これは、クラミジア検査が一般化してきた結果ではないかと考えられる。陰部クラミジア感染症の 73.6%が男であり、88年の 77.4%より低下してきている。

年齢分布では、20~29歳をピークとし、30歳以上では減少の傾向にあるのは、淋病様疾患と同じである。

◎ 病原微生物検出情報において、皮膚病巣・泌尿生殖器由来 C. trachomatis 検出報告では、検出数は男女とも20~24歳がピークで19歳以下は男性 146 例中 16、女性 78 例中 7 例であった。臨床的に無症状と報告した例は男性 1 例、女性 21 例であった。

##### (3) 陰部ヘルペス

陰部ヘルペスは、全体として横ばいかやや増加傾向にある。61.0%が男で、39.0%が女であり、トリコモナスを除く他の性感染症が男が圧倒的に多いのと比べて興味深い。年齢分布は、20~29歳にピークはあるが、トリコモナスを除く他の性感染症に比べて、高年に至ってもかなりの症例がみられている。

アシクロビルというヘルペスウイルスに対して有効な薬剤が1989年には市販されたものの、症例数は減少するどころか却ってやや増加している。このことは本疾患の撲滅のためには、如何に再発を防止することが重要であるかを示している。

◎ 病原微生物検出情報において、皮膚病巣・泌尿生殖器由来ヘルペス検出報告は合計 209 例（1型 113、2型 85、型不明 11）でこのうち、診断名が陰部ヘルペスと報告された例は 93



(1型21、2型72)、男性が37(1型8、2型29)、女性が56(1型13、2型43)であった。ウイルス検出報告年齢の分布は上記患者報告をよく反映し、女性では20歳代が多く、また男女とも成人年齢全般にわたって報告される。

(4) 尖圭コンジローム

1988年よりやや減少傾向にある。男が80.7%を占めている。年齢分布では20～29歳にピークがあり、年齢が高くなるにつれて低下している。

(5) トリコモナス症

症例的に女が多い。その年齢分布は24歳～49歳まで大体同数みられ、他の性感染症とは疫学的な様相が異なっている。1988年より89年はやや減少傾向にある。

定点の地域差について

性感染症の5つの疾患の分布は、前述に延べたような数字になると考えられるが、地域によっては著しい相違がみられる。例えば、相隣接する大阪府と京都府について淋病様疾患対トリコモナス症の比をみると、前者が8.1であるのに対し、後者では0.08と極端に低い。疾患の地域差がこれほどあるとは考えがたく、これは選ばれている定点の差によるものであろう。定点の選択のあり方が今後の課題である。

図4-1 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

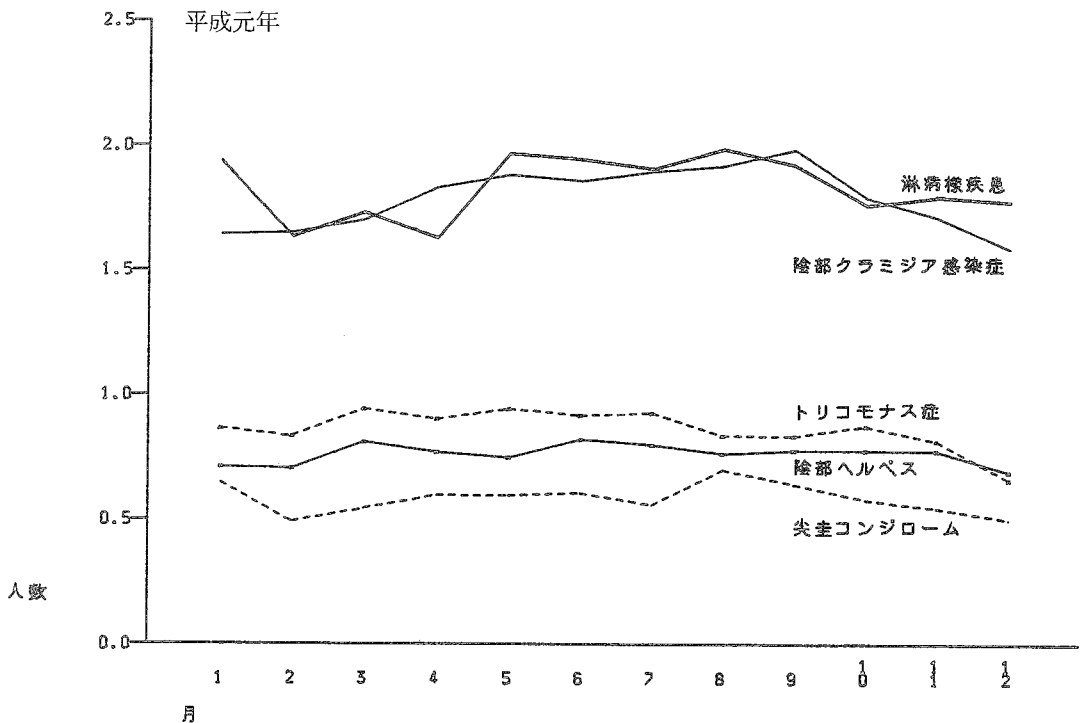


図 4-2 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

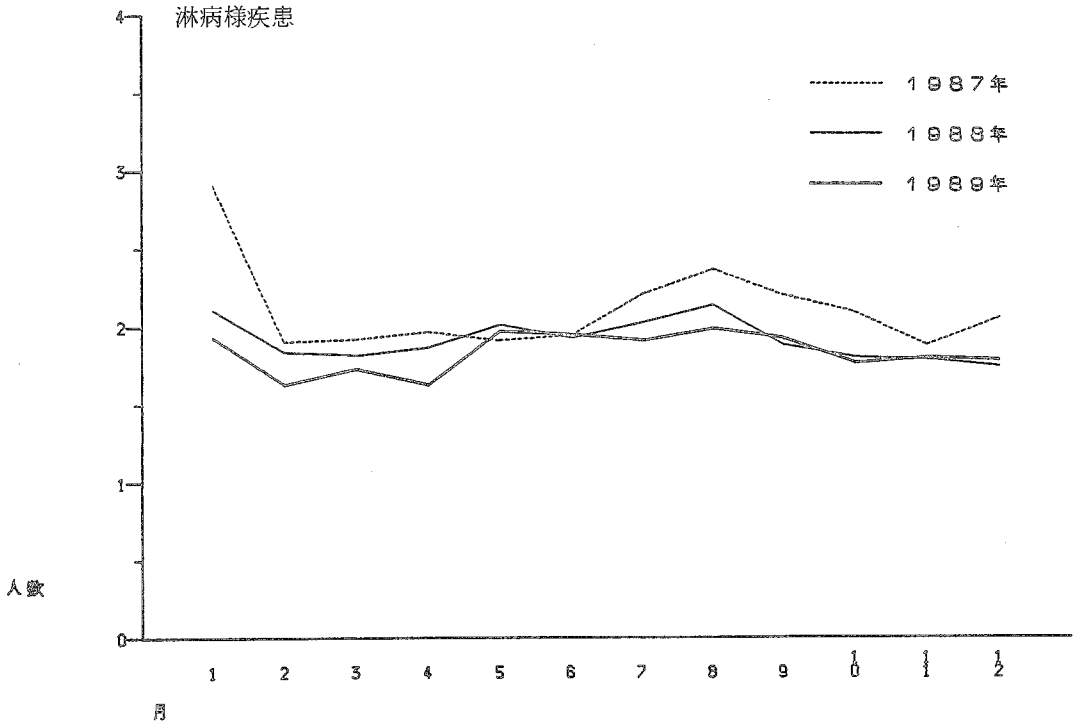


図 4-3 年齢区分別患者発生状況

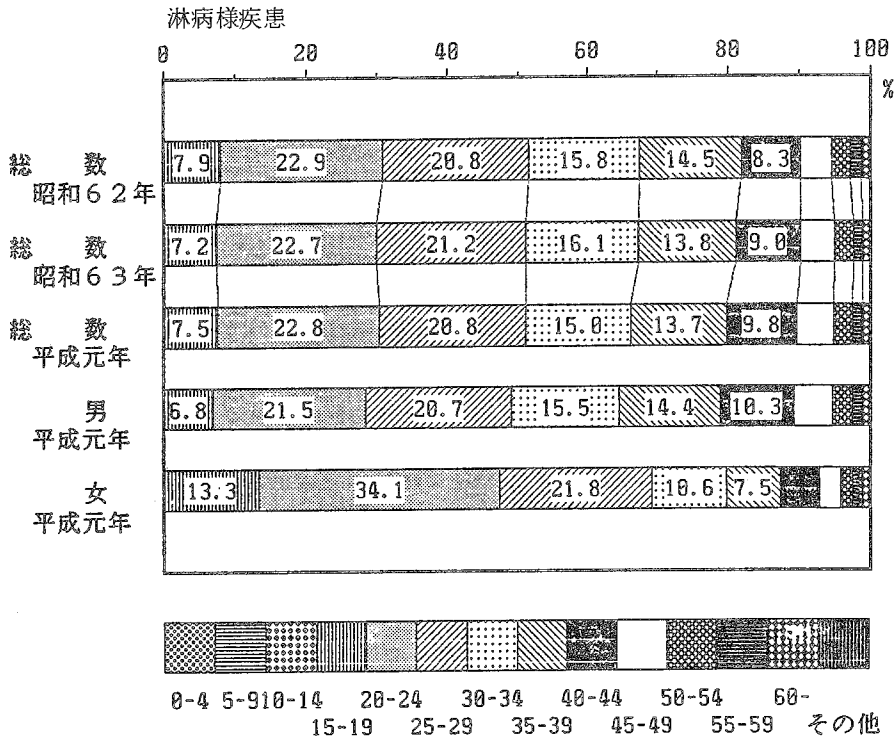


図4-4 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

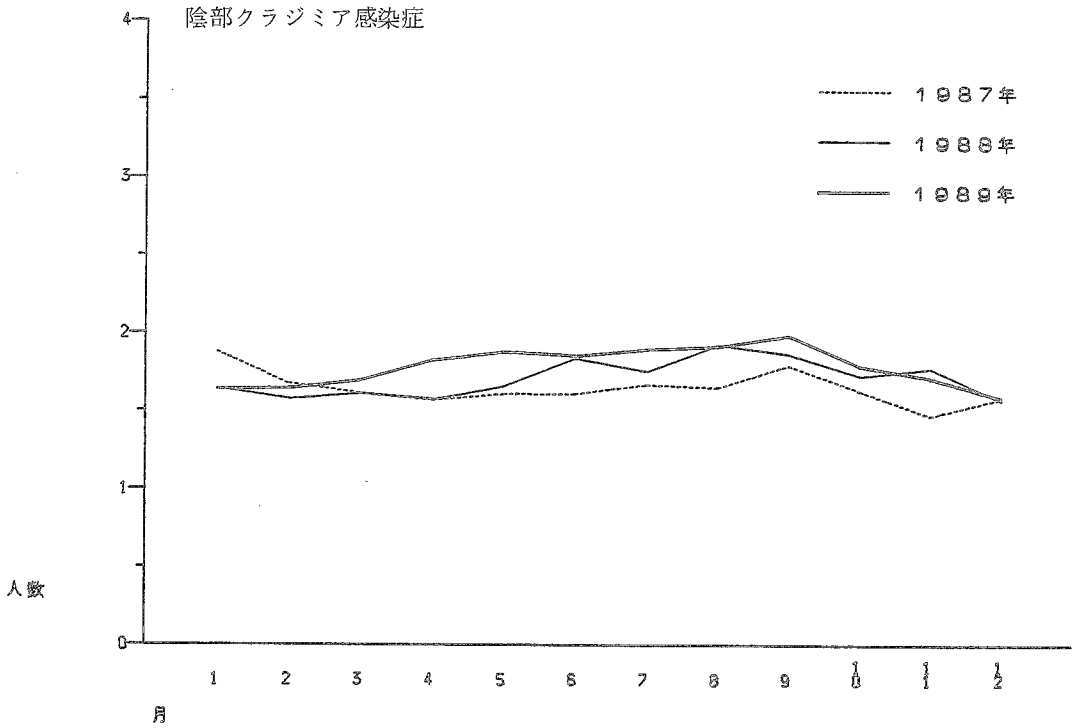


図4-5 年齢区分別患者発生状況

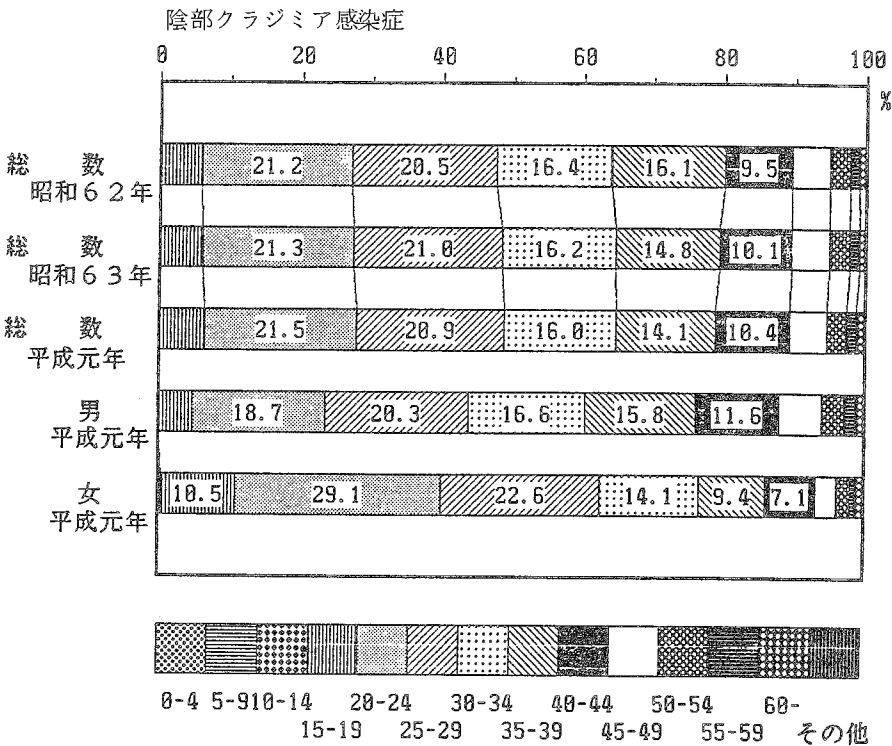


図4-6 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

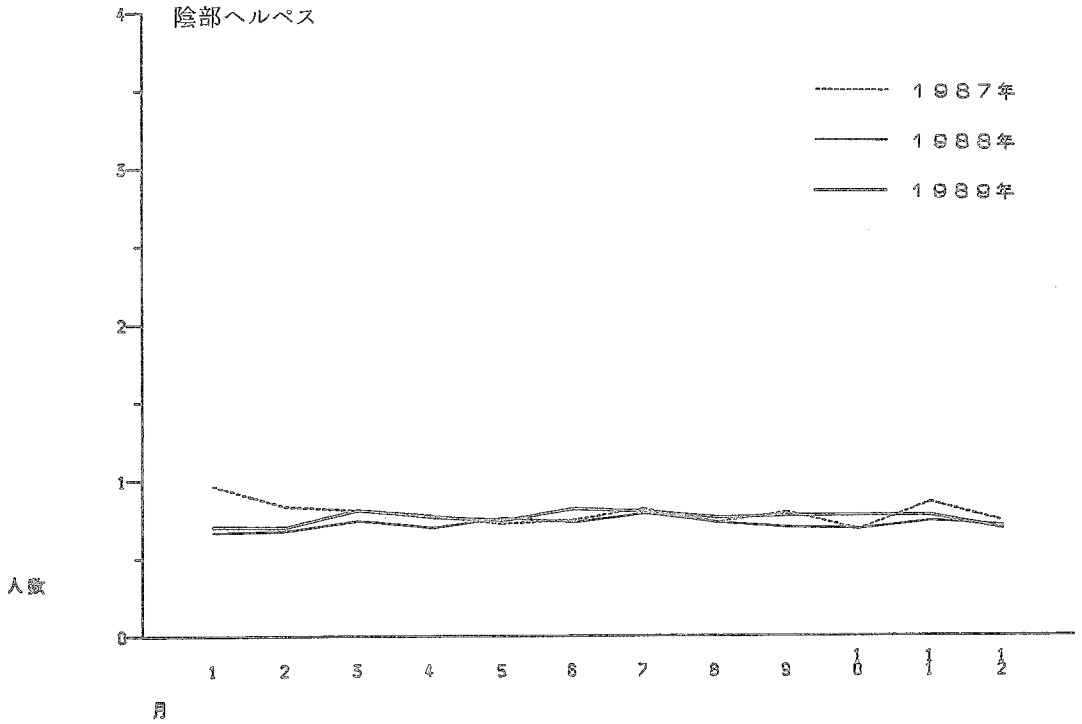


図4-7 年齢区分別患者発生状況

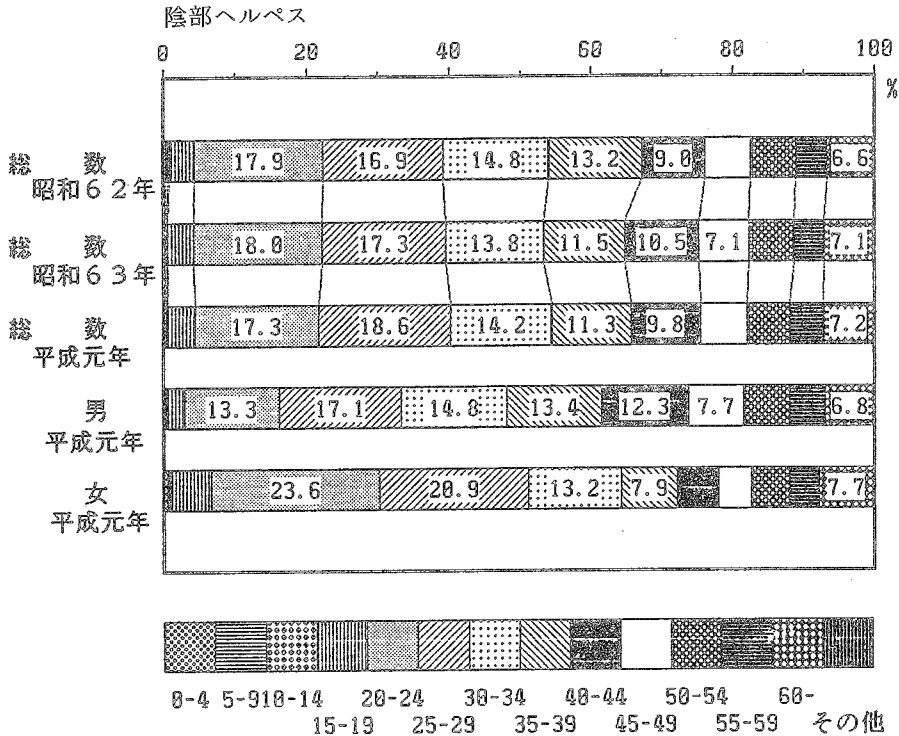


図4-8 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

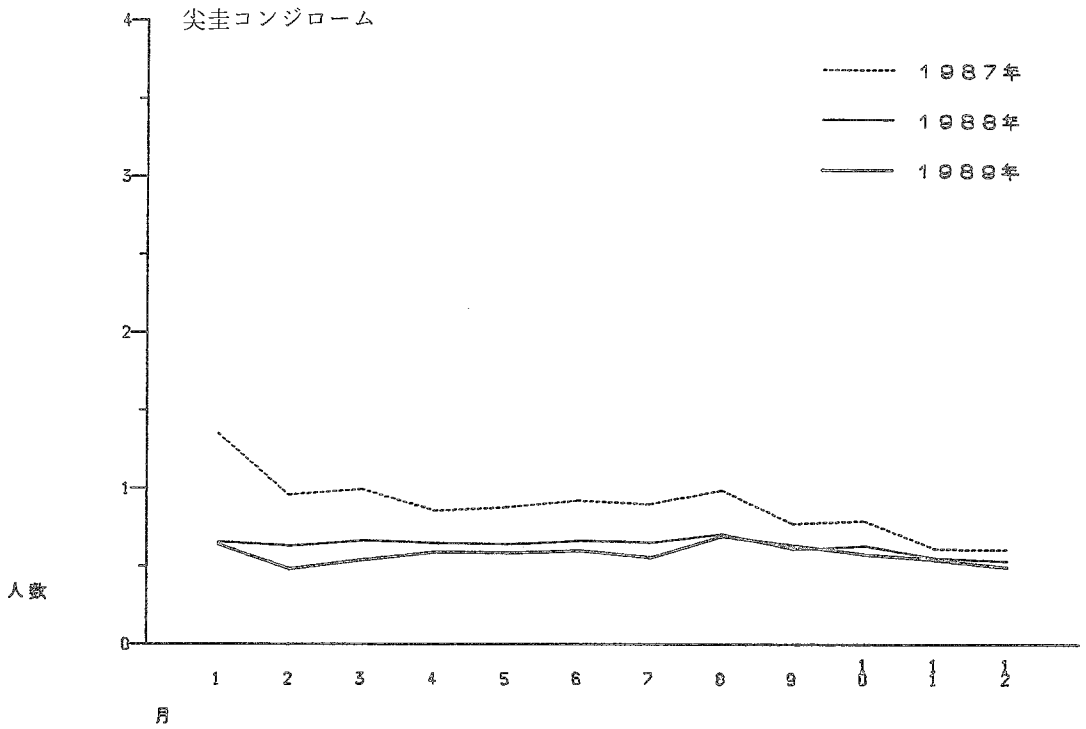


図4-9 年齢区分別患者発生状況

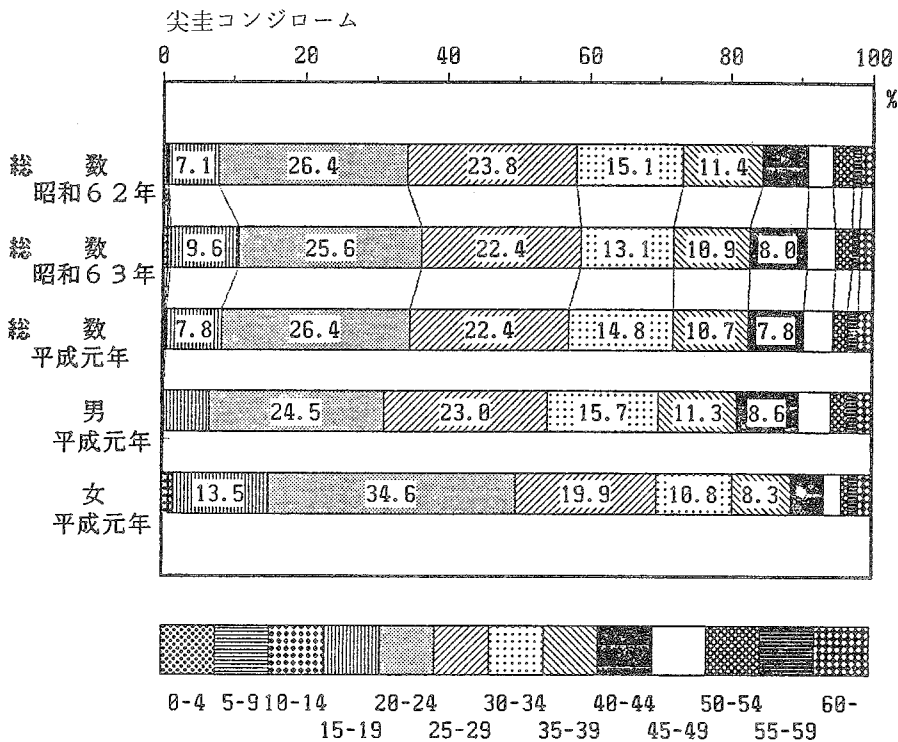


図4-10 全国一定点医療機関当たり患者発生数の推移

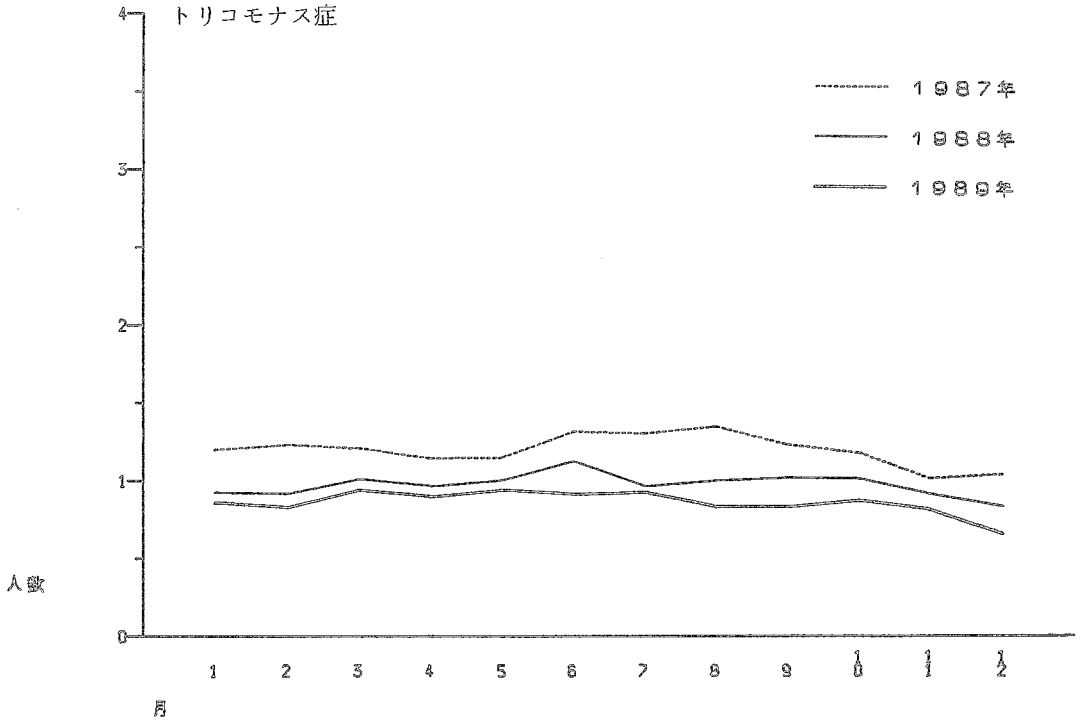
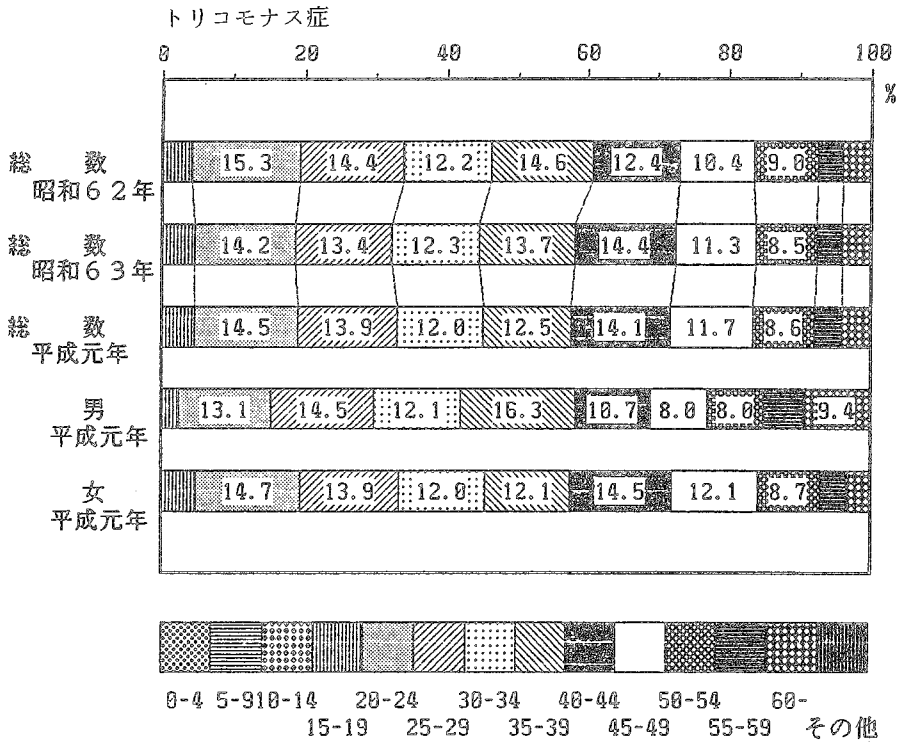


図4-11 年齢区分別患者発生状況



## 第 2 患者情報集計



# 第2 患者情報集計

## 1. 平成元年全国週別、疾病別報告数及び一定点当たり報告数

週	Reported cases from clinics and hospitals, by week and disease, 1989													
	1. 肺炎球菌感染症 pneumococcal infection	2. 風しん rubella	3. 水痘 chickenpox	4. 流行性耳下腺炎 mumps	5. 百日咳 pertussis	6. 淋菌性感染症 gonorrhoeal infection	7. 原因不明肺炎 atypical pneumonia	8. 腸炎 gastritis	9. 腸炎性腸炎 infectious gastroenteritis	10. 傷寒 typhoid fever	11. 赤痢 shigellosis			
報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数	報告数				
incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence	incidence				
11.69	784.49	32.87	224.960	94.24	232.117	97.24	493.4	2.07	590.10	24.72				
1週	480	95	85	3828	1.60	54	755	0.02	1302	0.55	782	0.33	896	3.76
2週	521	128	91	4683	1.33	81	919	0.03	1077	0.42	922	0.38	937	3.85
3週	464	100	32	3183	1.35	56	937	0.02	1005	0.42	778	0.30	779	3.10
4週	529	106	44	3217	1.35	71	1048	0.04	1077	0.42	721	0.29	721	2.85
5週	564	102	37	3984	1.09	99	1047	0.04	878	0.37	707	0.30	685	2.57
6週	579	103	39	3988	1.25	70	958	0.03	1044	0.44	727	0.30	697	2.62
7週	529	103	37	4470	1.20	121	1239	0.05	1044	0.44	727	0.30	697	2.62
8週	570	103	37	4470	1.87	86	1252	0.04	867	0.36	636	0.25	636	2.39
9週	583	103	37	4806	2.50	106	1385	0.04	988	0.41	602	0.25	636	2.39
10週				5976		88			1187		765		661	2.77
11週	640	97	35	5354	2.24	74	1302	0.03	1077	0.42	782	0.33	896	3.76
12週	713	97	35	5768	2.42	81	1302	0.03	1077	0.42	782	0.33	896	3.76
13週	746	97	35	5680	2.38	76	1077	0.03	1005	0.42	721	0.29	721	2.85
14週	668	97	35	5534	2.32	85	1005	0.03	1005	0.42	721	0.29	721	2.85
15週	811	97	35	5196	2.18	73	878	0.04	878	0.37	707	0.30	685	2.57
16週	812	97	35	4355	1.97	100	1044	0.04	1044	0.44	727	0.30	697	2.62
17週	751	97	35	4355	1.76	91	867	0.03	867	0.36	636	0.25	636	2.39
18週	751	97	35	4524	1.90	83	827	0.03	827	0.36	602	0.25	636	2.39
19週	1041	97	35	4524	2.09	124	988	0.05	1187	0.45	602	0.25	636	2.39
20週	900	97	35	5475	2.29	124	1187	0.05	1187	0.45	765	0.33	896	3.76
21週														
22週	941	19	52	4748	1.99	127	1190	0.05	1190	0.50	721	0.30	697	2.62
23週	887	19	52	5243	2.63	106	1320	0.04	1320	0.56	833	0.35	833	3.13
24週	704	48	33	6343	2.66	95	1544	0.05	1544	0.65	847	0.36	847	3.18
25週	707	48	33	6343	2.82	92	1544	0.05	1544	0.65	847	0.36	847	3.18
26週	622	48	33	6343	2.80	110	1544	0.05	1544	0.65	847	0.36	847	3.18
27週	622	48	33	6343	2.80	87	1224	0.04	1224	0.51	750	0.31	750	2.80
28週	519	48	33	6343	2.91	80	1110	0.04	1110	0.47	668	0.28	668	2.48
29週	487	48	33	6343	2.53	89	818	0.04	818	0.34	737	0.31	737	2.77
30週														
31週	414	47	32	5350	2.51	90	665	0.04	665	0.28	795	0.33	833	3.13
32週	378	47	32	5350	1.65	102	544	0.04	544	0.23	727	0.30	727	2.85
33週	363	47	32	3947	1.65	95	403	0.04	403	0.20	627	0.27	627	2.31
34週	311	47	32	3947	1.36	109	476	0.05	476	0.21	587	0.25	587	2.18
35週	387	47	32	3947	1.18	109	531	0.05	531	0.24	638	0.27	638	2.37
36週	322	47	32	3947	1.05	99	570	0.05	570	0.25	638	0.27	638	2.37
37週	297	47	32	3947	1.05	109	531	0.05	531	0.24	638	0.27	638	2.37
38週	238	47	32	3947	1.40	132	768	0.06	768	0.33	638	0.27	638	2.37
39週														
40週														
41週	254	92	64	3102	1.30	88	829	0.04	829	0.35	602	0.25	602	2.25
42週	296	92	64	3102	1.37	131	1031	0.05	1031	0.44	624	0.27	624	2.31
43週	306	92	64	3102	1.37	94	1420	0.05	1420	0.59	643	0.28	643	2.38
44週	317	92	64	3102	1.58	97	1674	0.06	1674	0.68	727	0.30	727	2.85
45週	365	92	64	3102	1.49	80	1634	0.06	1634	0.78	763	0.31	763	2.87
46週	312	92	64	3102	1.31	71	1853	0.07	1853	0.80	704	0.28	704	2.61
47週	370	92	64	3102	1.50	89	1918	0.07	1918	0.89	848	0.33	848	3.14
48週	370	92	64	3102	1.50	93	1918	0.07	1918	0.89	848	0.33	848	3.14
49週	416	92	64	3102	1.69	99	2149	0.08	2149	0.90	894	0.36	894	3.31
50週														
51週	437	92	64	3491	1.46	87	2104	0.08	2104	0.84	772	0.32	772	2.89
52週														





17. 櫻熱症(疫)		18. 流行性結核菌症		19. 急性出血性結核菌症		
報告例 reported cases	発生当分の incidence	報告例 reported cases	発生当分の incidence	報告例 reported cases	発生当分の incidence	
01週	1208	4,44	22219	81.69	984	3.62
02週	11	0.04	322	1.13	0	0.07
03週	14	0.05	369	1.14	224	0.08
04週	16	0.06	315	1.07	0	0.04
05週	18	0.03	291	1.00	119	0.07
06週	12	0.04	273	0.99	27	0.16
07週	13	0.05	268	1.08	44	0.19
08週	17	0.06	335	1.03	22	0.09
09週	20	0.07	311	1.14	223	0.10
10週			365	1.34		
11週	13	0.05	339	1.15	25	0.08
12週	8	0.03	223	0.73	14	0.05
13週	7	0.04	223	0.73	15	0.08
14週	10	0.07	232	0.79	21	0.08
15週	19	0.01	351	1.03	22	0.08
16週	13	0.05	280	0.77	18	0.07
17週	16	0.06	302	1.16	12	0.08
18週	21	0.08	390	1.34		
19週			390			
20週			390			
21週	3	0.08	345	1.15	5	0.09
22週	2	0.09	410	1.53	22	0.07
23週	20	0.07	424	1.56	8	0.08
24週	26	0.10	451	1.67	22	0.08
25週	23	0.12	428	1.58	22	0.04
26週	27	0.10	456	1.68	20	0.07
27週	23	0.10	574	2.11	17	0.07
28週	22	0.11	620	2.26	18	0.07
29週	33	0.17	920	3.36		
30週	46	0.21	920	3.36		
31週	45	0.15	606	2.33	19	0.07
32週	61	0.22	634	2.33	14	0.05
33週	68	0.25	680	2.50	11	0.04
34週	44	0.16	690	2.54	14	0.05
35週	42	0.18	734	2.70	13	0.03
36週	46	0.18	920	3.36	9	0.03
37週	39	0.14	599	2.13	14	0.05
38週	18	0.07	645	2.37	18	0.07
39週			489	1.80	23	0.11
40週			489		23	
41週	12	0.04	471	1.73	21	0.08
42週	24	0.09	463	1.70	16	0.06
43週	18	0.07	509	1.87	14	0.05
44週	22	0.08	491	1.80	16	0.04
45週	14	0.04	316	1.16	9	0.06
46週	12	0.04	340	1.25	3	0.03
47週	14	0.05	346	1.26	3	0.03
48週	11	0.04	351	1.29	17	0.06
49週	19	0.07	323	1.19	10	0.04
50週	17	0.06	263	0.97	9	0.03
51週			333	1.22	16	0.06
52週						

## 2. 平成元年全国月別、疾病別報告数及び一定点当たり報告数

Reported cases from clinics and hospitals, by month and disease, 1989

疾病名 disease	報告数 reported cases	今年 今年 year	昨年 昨年 year	1989年											
				1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1. MCIS (川崎病) acute febrile mucocutaneous lymphnode syndrome	1590 1565	129 147	159 124	177 137	161 93	155 115	158 178	138 148	119 151	116 137	92 111	108 100	100 116	126 116	
一定点当たり incidence	3.09 3.06	0.25 0.29	0.31 0.24	0.34 0.27	0.31 0.18	0.30 0.22	0.31 0.35	0.27 0.29	0.23 0.29	0.23 0.27	0.18 0.22	0.19 0.21	0.19 0.23	0.17 0.23	
2. ウイルス肝炎 viral hepatitis	2993 3164	220 264	365 358	444 356	407 324	293 357	236 314	216 210	175 219	158 196	155 185	185 182	137 199		
一定点当たり incidence	5.82 6.18	0.43 0.52	0.71 0.70	0.86 0.70	0.79 0.63	0.57 0.70	0.46 0.61	0.42 0.41	0.34 0.43	0.31 0.38	0.30 0.36	0.36 0.36	0.27 0.39		
3. A型肝炎 hepatitis A	1064 949	58 66	196 166	274 174	213 142	130 139	63 99	40 49	18 31	17 14	11 8	22 14	22 47		
一定点当たり incidence	2.07 1.85	0.11 0.13	0.32 0.32	0.53 0.34	0.41 0.28	0.27 0.27	0.12 0.19	0.08 0.10	0.04 0.06	0.03 0.03	0.02 0.02	0.04 0.03	0.04 0.09		
4. B型肝炎 hepatitis B	974 1057	92 94	80 92	86 76	83 85	85 120	95 94	102 75	73 87	68 85	76 82	78 91	56 76		
一定点当たり incidence	1.89 2.06	0.18 0.18	0.16 0.18	0.17 0.15	0.17 0.17	0.17 0.23	0.18 0.18	0.20 0.15	0.14 0.17	0.13 0.17	0.16 0.16	0.18 0.18	0.11 0.15		
5. その他のウイルス肝炎 non-A non-B hepatitis	955 1158	70 104	89 100	84 106	111 97	78 98	76 121	76 86	84 101	73 97	66 88	85 77	59 76		
一定点当たり incidence	1.86 2.26	0.14 0.20	0.17 0.20	0.16 0.21	0.22 0.19	0.15 0.19	0.15 0.24	0.15 0.17	0.16 0.20	0.14 0.19	0.13 0.19	0.17 0.15	0.11 0.15		
6. 感染性単核炎 infectious mononucleosis	5075 2768	145 98	136 86	220 75	295 110	407 129	611 313	1080 511	765 488	495 298	418 235	291 193	212 232		
一定点当たり incidence	9.87 5.41	0.28 0.19	0.26 0.17	0.43 0.15	0.57 0.21	0.79 0.23	1.19 0.61	2.10 1.00	1.49 0.95	0.96 0.58	0.81 0.46	0.57 0.38	0.41 0.45		
7. 細菌性髄膜炎 bacterial meningitis	310 342	30 20	21 23	24 16	23 32	28 21	26 35	32 34	21 52	30 24	17 26	38 27	20 32		
一定点当たり incidence	0.60 0.67	0.06 0.04	0.04 0.04	0.05 0.03	0.04 0.06	0.05 0.04	0.05 0.07	0.06 0.07	0.04 0.10	0.06 0.06	0.03 0.03	0.07 0.05	0.04 0.06		
8. 細菌性敗血症 bacterial septicemia	4755 2426	115 78	115 63	196 99	272 78	379 108	586 278	1048 477	744 436	465 274	401 209	253 166	192 200		
一定点当たり incidence	9.27 4.74	0.23 0.12	0.22 0.12	0.38 0.12	0.53 0.18	0.74 0.21	1.14 0.54	2.04 0.93	1.45 0.85	0.90 0.54	0.78 0.41	0.49 0.32	0.37 0.39		

病名 Disease	報告数 reported cases	今年 今年 incidence	昨年 昨年 incidence	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				28	25	31	23	19	12	17	21	20	15	19	16
9. 脳・髄膜炎 encephalomyelitis	210 296	0.41 0.58	0.03 0.05	0.04 0.06	0.05 0.04	0.02 0.05	0.04 0.03	0.05 0.04	0.02 0.03	0.03 0.05	0.04 0.05	0.03 0.03	0.04 0.03	0.02 0.01	0.02 0.05
10. 脳炎 encephalitis	149 204	0.29 0.40	0.04 0.04	0.03 0.03	0.02 0.04	0.01 0.05	0.03 0.03	0.02 0.04	0.02 0.03	0.02 0.03	0.03 0.03	0.03 0.03	0.03 0.03	0.02 0.01	0.01 0.03
11. 脳瘻 encephalocystitis	31 47	0.06 0.09	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.01	0.00 0.01	0.01 0.00	0.01 0.00	0.02 0.02	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.01	0.01 0.01	0.01
12. ライム脳炎 Borre syndrome	12 22	0.02 0.04	0.00 0.00	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.00	0.02 0.02	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.01	0.01 0.01	0.01
13. 脊髄炎 myelitis	18 23	0.04 0.04	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.00	0.01 0.01	0.01 0.01	0.01 0.01	0.01 0.00	0.01 0.01	0.01 0.01	0.01
14. 痔瘻 gonorrhoea	12797 13298	22.93 22.93	1.94 1.83	1.87 1.93	1.97 2.01	1.73 1.82	1.63 1.87	1.97 2.01	1.95 1.93	1.91 2.02	1.99 2.14	1.93 1.87	1.80 1.80	1.80 1.78	1.78 1.74
15. 淋病クラミジア症 genital chlamydial infection	12469 11897	21.46 20.51	1.64 1.58	1.64 1.57	1.88 1.66	1.70 1.61	1.83 1.57	1.88 1.66	1.86 1.83	1.90 1.75	1.92 1.92	1.99 1.86	1.79 1.73	1.72 1.72	1.59 1.57
16. 陰嚢ヘルペス genital herpes	5317 4988	9.15 8.60	0.71 0.67	0.77 0.69	0.75 0.76	0.81 0.74	0.77 0.69	0.75 0.76	0.82 0.73	0.80 0.78	0.77 0.73	0.78 0.69	0.78 0.68	0.78 0.74	0.69 0.71
17. 尖圭コンジローム condylosa acuminata	4069 4413	7.00 7.61	0.65 0.66	0.60 0.63	0.49 0.59	0.54 0.54	0.60 0.63	0.59 0.54	0.61 0.66	0.56 0.56	0.70 0.71	0.64 0.61	0.58 0.53	0.55 0.56	0.50 0.53
18. トリコモナス症 trichomoniasis	6017 6780	10.36 11.69	0.87 0.93	0.83 0.92	0.94 1.00	0.94 1.01	0.90 0.96	0.94 1.00	0.92 1.13	0.93 0.96	0.84 1.00	0.83 1.02	0.88 1.01	0.82 0.91	0.66 0.83





種 別	明細結果品 累計別当分	(取) 延滞当り	所行債務総額 累計別当分	延滞当り	急血債権調査 累計報告額	延滞当り
北海道	26	1.18	913	41.50	26	1.18
青森県	143	47.67	462	154.00	27	1.00
岩手県	21	2.25	609	209.67	148	37.00
宮城県	67	0.60	167	54.75	3	1.00
山形県	3	0.60	593	38.60	6	1.20
福島県	25	5.20	700	173.00	11	2.75
茨城県	5	2.00	697	173.40	1	0.40
栃木県			1233	32.00	44	0.25
群馬県			293	97.67		14.67
埼玉県	34	4.25	753	94.13	11	1.33
千葉県	40	4.00	624	109.10	213	26.00
東京都	67	5.15	961	156.95	34	3.00
神奈川県	1	0.33	776	254.43	9	0.60
石川県	7	2.33	223	174.33	110	3.33
福井県	6	1.55	139	48.97	2	0.67
山梨県	9	2.25	268	34.55	3	0.75
長野県	17	3.40	867	173.40	3	0.60
岐阜県	69	6.27	383	34.82	14	1.27
愛知県	46	6.57	178	25.43	18	2.57
三重県	17	2.83	409	94.50	4	1.00
滋賀県	114	4.56	1489	31.96	47	1.17
大津府	55	3.06	27	9.00	65	2.40
京都府	3	1.00	369	123.00	25	1.33
奈良県					1	0.33
和歌山県	3	1.00	133	44.33	4	1.33
鳥取県	4	1.33	220	106.67	1	0.33
島根県	25	6.25	127	21.75	18	2.00
山口県	33	4.71	333	47.57	16	2.39
広島県	74	8.20	142	156.60	223	4.80
徳島県	42	0.67	251	47.33	1	1.00
香川県	44	3.33	223	27.00	34	1.33
愛媛県	11	1.57	144	63.36	13	1.00
高知県	5	2.00	66	23.36	15	2.14
福岡県	12	3.00	323	89.33	2	0.67
熊本県	20	5.00	144	129.50	16	2.00
大分県	11	1.67	272	53.50	48	10.97
鹿児島県			266	73.33	25	1.00
沖縄県	1	2.33	30	30.67	64	16.33
北海道	25	3.57	533	81.86	15	2.14
青森県	61	10.33	218	64.67	4	1.00
岩手県	66	11.00	142	121.33	3	1.33
宮城県	166	5.50	244	40.33	20	2.67
山形県	27	3.00	150	50.00	9	1.00
福島県	6	3.00	167	50.00	4	1.00
茨城県					5	2.00
栃木県					4	1.00
群馬県					4	1.00
埼玉県					4	1.00
千葉県					4	1.00
東京都					4	1.00
神奈川県					4	1.00
石川県					4	1.00
福井県					4	1.00
山梨県					4	1.00
長野県					4	1.00
岐阜県					4	1.00
愛知県					4	1.00
三重県					4	1.00
滋賀県					4	1.00
京都府					4	1.00
奈良県					4	1.00
和歌山県					4	1.00
鳥取県					4	1.00
島根県					4	1.00
山口県					4	1.00
広島県					4	1.00
徳島県					4	1.00
香川県					4	1.00
愛媛県					4	1.00
高知県					4	1.00
福岡県					4	1.00
熊本県					4	1.00
大分県					4	1.00
鹿児島県					4	1.00
沖縄県					4	1.00

平成27年度 (四四)

種 族	MCLS 登録者数	《川崎市》 定員当り	ウィルス接種 累計接種数	集団接種 接種回数	定員当り	集団接種 接種回数	定員当り	その他の市街 累計接種数	定員当り	集団接種 接種回数	定員当り	集団接種 接種回数	定員当り	集団接種 接種回数	定員当り	集団接種 接種回数	定員当り	集団接種 接種回数
総 数	1590	3.09	2993	1064	2.07	974	1.89	995	1.86	5015	9.87	310	0.60	4765	9.27	36	0.20	4765
北多摩	16	0.67	50	3	0.20	21	1.40	26	1.73	36	2.40	1	0.20	36	2.40	36	0.20	36
東多摩	30	1.07	71	1	0.07	64	4.27	6	0.40	8	1.40	3	0.60	8	1.40	8	0.60	8
西多摩	5	1.00	3	2	0.40	3	0.16	1	0.20	1	0.20	3	0.60	1	0.20	1	0.60	1
中央多摩	39	2.17	39	7	0.67	7	0.39	28	0.60	115	6.39	3	0.60	115	6.39	107	0.44	107
東山梨	31	6.20	37	3	1.20	3	0.14	19	0.60	19	1.99	3	0.60	19	1.99	12	0.14	12
北山梨	81	16.20	70	13	9.20	13	2.60	11	2.20	61	12.20	9	1.80	61	12.20	52	1.80	52
埼玉	525	2.17	113	38	1.58	37	1.54	38	1.54	73	3.04	14	0.58	52	2.17	52	0.58	52
千葉	70	8.75	149	38	4.75	24	12.25	30	3.75	53	6.60	20	0.58	70	8.75	44	0.58	44
神奈川	99	5.76	244	61	3.59	145	8.41	40	3.35	88	11.00	20	0.58	99	5.76	66	0.58	66
新潟	22	4.50	36	4	1.80	5	0.83	17	2.20	21	14.18	3	0.60	22	4.50	21	0.60	21
石川	29	5.60	30	1	0.20	1	0.80	15	0.80	27	17.40	13	0.60	29	5.60	27	0.60	27
福井	18	2.00	19	5	1.40	2	1.00	37	0.80	36	17.20	6	0.60	18	2.00	36	0.60	36
山梨	30	2.25	38	3	1.88	3	0.88	1	0.60	40	8.50	3	0.60	30	2.25	40	0.60	40
岐阜	3	6.00	4	1	4.00	1	0.40	3	0.60	4	9.00	7	1.40	3	6.00	4	1.40	4
静岡	45	2.25	156	21	4.95	23	0.40	51	0.25	45	9.00	14	1.40	45	2.25	45	1.40	45
愛知	13	3.00	197	107	7.70	18	1.46	21	1.60	69	15.31	12	0.15	13	3.00	69	0.15	69
三重	36	3.00	137	6	1.80	6	0.40	16	0.40	78	10.80	4	0.80	36	3.00	78	0.80	78
滋賀	31	2.00	38	2	1.20	2	0.35	19	1.20	50	10.00	4	0.73	31	2.00	50	0.73	50
大塚	51	2.95	38	1	1.70	1	0.55	64	0.35	85	17.31	18	2.00	51	2.95	85	2.00	85
兵庫	5	5.03	105	67	3.19	34	4.00	64	3.05	242	16.33	12	2.83	5	5.03	242	2.83	242
奈良	106	5.03	21	1	0.30	1	0.40	12	0.40	131	9.80	13	2.60	106	5.03	131	2.60	131
和歌山	47	2.90	14	1	2.80	2	0.40	12	0.40	49	21.80	13	2.60	47	2.90	49	2.60	49
鳥取	31	1.00	165	70	3.80	40	4.00	55	5.00	1058	105.80	1	0.10	31	1.00	1058	0.10	1058
島根	22	4.40	148	50	6.80	50	3.80	72	12.00	14	5.33	1	0.10	22	4.40	14	0.10	14
岡山	28	4.68	238	17	1.38	17	3.40	19	3.00	40	15.00	3	0.30	28	4.68	40	0.30	40
広島	8	4.60	47	1	1.80	1	2.80	15	3.00	50	15.00	5	0.50	8	4.60	50	0.50	50
徳島	58	1.67	11	2	1.00	2	0.30	15	0.30	294	38.50	4	0.20	58	1.67	294	0.20	294
香川	28	9.87	35	1	1.00	1	0.31	22	1.88	77	28.00	5	0.31	28	9.87	77	0.31	77
愛媛	107	6.69	39	5	0.31	5	0.31	29	1.88	77	28.00	5	0.31	107	6.69	77	0.31	77
高知	15	1.00	55	6	0.40	6	1.07	33	2.07	49	3.27	9	0.60	15	1.00	49	0.60	49
佐賀	29	4.14	16	2	1.20	2	1.20	4	1.20	46	9.20	7	0.14	29	4.14	46	0.14	46
福岡	44	8.40	33	6	1.20	6	0.33	22	0.33	119	27.00	7	1.60	44	8.40	119	1.60	119
大分	39	4.33	15	1	0.50	1	5.75	11	2.50	59	15.00	7	1.00	39	4.33	59	1.00	59
宮崎	18	4.50	13	1	0.50	1	1.00	22	2.50	22	12.50	3	1.40	18	4.50	22	1.40	22
鹿児島	16	3.20	11	1	0.20	1	1.00	11	2.20	59	21.80	3	1.40	16	3.20	59	1.40	59
沖縄	1	0.17	1	1	1.67	1	1.33	9	3.00	76	25.33	5	1.67	1	0.17	76	1.67	76

指定都市(内訳)

川崎市	33	0.17	34	1	2.20	15	1.00	18	3.60	16	3.20	3	0.60	13	7.60	13	0.60	13
横浜市	6	6.00	107	23	4.50	19	26.20	4	0.57	31	6.43	5	1.00	36	5.43	36	1.00	36
名古屋市	21	1.30	11	1	0.30	1	0.17	10	0.31	53	4.83	7	1.17	46	3.59	46	1.17	46
京都市	33	3.00	37	4	3.82	4	1.08	19	0.31	129	4.03	14	0.44	115	3.59	115	0.44	115
神戸市	62	4.50	5	3	0.92	14	1.08	24	1.85	165	12.69	7	0.64	86	12.46	86	0.64	86
広島市	32	0.70	5	1	1.00	1	1.00	9	1.00	76	23.60	3	0.23	162	12.46	162	0.23	162
北九州市	77	25.67	18	5	1.67	4	1.33	9	3.00	76	25.33	5	1.67	71	23.67	71	1.67	71





種別	道庁管理資産	地方公共団体	民間企業	民間・個人	その他	再掲・繰上	再掲・繰上	再掲・繰上
総額	資産当分	総額	資産当分	総額	資産当分	総額	資産当分	総額
北海道	295	17.59	97	4.41	250	10.87	-	-
青森県	140	11.80	90	7.00	135	20.87	-	-
岩手県	376	18.60	48	1.00	422	12.41	-	-
秋田県	160	11.33	48	1.00	162	13.33	1	0.06
山形県	36	4.09	18	2.55	34	9.90	1	0.06
福島県	985	54.75	195	10.83	128	19.22	1	0.10
宮城県	225	30.17	117	4.86	113	8.07	-	-
群馬県	170	7.33	99	4.39	250	10.87	-	-
千葉県	182	19.40	106	4.39	135	19.00	-	-
東京都	395	11.32	151	19.37	626	20.87	-	-
神奈川県	251	15.33	153	4.44	422	12.41	-	-
新潟県	108	17.83	63	4.56	162	13.33	1	0.06
静岡県	108	17.83	63	4.56	162	13.33	1	0.06
愛知県	130	11.82	63	4.56	162	13.33	1	0.06
岐阜県	154	11.00	63	4.56	162	13.33	1	0.06
静岡県	196	37.38	106	4.39	250	10.87	-	-
富山県	160	4.62	48	1.00	162	13.33	1	0.06
石川県	114	15.26	63	4.56	162	13.33	1	0.06
福井県	143	4.98	63	4.56	162	13.33	1	0.06
滋賀県	193	4.77	63	4.56	162	13.33	1	0.06
大塚市	234	42.72	117	2.26	162	13.33	1	0.06
兵庫県	216	5.25	63	4.56	162	13.33	1	0.06
和歌山県	75	24.00	19	6.33	34	11.33	-	-
鳥取県	40	14.00	46	17.80	118	4.98	-	-
徳島県	283	14.35	142	10.75	399	4.98	-	-
香川県	104	37.38	63	4.56	162	13.33	-	-
愛媛県	167	17.38	63	4.56	162	13.33	-	-
高知県	805	11.57	170	12.14	284	20.23	-	-
福岡県	139	23.17	20	3.67	20	3.67	-	-
佐賀県	205	14.64	16	1.21	136	19.14	-	-
熊本県	41	82.33	35	10.40	142	26.40	-	-
大分県	148	10.50	104	8.67	146	2.83	-	-
宮崎県								
鹿児島県								
沖縄県								
札幌市	167	23.86	149	20.43	35	4.75	-	-
仙台市	131	18.19	174	4.57	79	19.43	-	-
川崎市	549	42.30	140	5.40	115	16.33	-	-
名古屋市	1256	76.90	276	8.44	523	30.76	-	-
京都市	228	20.35	119	18.95	37	6.07	-	-
大阪市	503	125.75	683	170.75	108	26.50	-	-

府庁本部(管理)

4. 平成元年疾病別、ブロック別、年間報告数及び一定点当たり報告数

	松	敦	北	東	西	東	近	中	九
原小児感染症	累計報告数 定点点当り	27900 11.69	2338 21.45	1365 7.11	2810 3.85	6330 19.63	6414 13.50	6038 21.64	2575 9.30
風しん	累計報告数 定点点当り	78449 32.87	15369 141.00	5760 29.54	8588 9.04	11682 36.17	9396 19.78	13656 48.95	15998 57.78
水痘	累計報告数 定点点当り	224960 94.24	11401 104.60	22733 116.58	56028 76.86	35140 108.79	34176 71.95	30076 107.80	35406 127.82
流行性下痢炎	累計報告数 定点点当り	232117 97.24	8363 76.72	28379 145.53	59372 82.27	34898 108.04	26113 54.97	34240 122.72	40152 144.95
百日咳	累計報告数 定点点当り	4934 2.07	239 2.19	435 2.23	956 1.31	745 2.31	798 1.68	515 1.85	1246 4.50
麻疹	累計報告数 定点点当り	59010 24.72	4099 37.61	8024 41.15	14485 19.87	7863 24.34	9274 19.52	9444 33.85	5821 21.01
腮腺炎	累計報告数 定点点当り	37472 15.70	621 5.70	2601 13.34	7677 10.53	7891 24.43	5854 12.32	6970 24.98	5858 21.15
感染症	累計報告数 定点点当り	350661 146.90	4669 42.83	15637 80.19	109962 150.70	59066 182.87	81399 171.37	45528 163.18	34500 124.55
乳児吐下痢症	累計報告数 定点点当り	9984 41.89	1640 15.05	8057 41.32	23564 32.32	15451 47.84	15362 32.34	14015 50.23	21895 79.04
手足口病	累計報告数 定点点当り	21049 8.82	132 1.21	1793 9.19	10028 13.76	3534 10.94	1775 3.74	1354 4.85	2433 8.78
伝染性紅斑	累計報告数 定点点当り	7472 3.13	759 6.96	1197 6.14	2561 3.51	1178 3.65	600 1.26	444 1.59	733 2.65
突発性発疹	累計報告数 定点点当り	92959 36.94	3074 28.20	9058 46.45	24898 34.15	12976 40.17	16046 33.78	12690 45.48	14217 51.32
ヘルパンギーナ	累計報告数 定点点当り	79397 33.26	3103 28.47	8338 42.76	19220 26.56	13859 42.91	16614 34.98	9242 33.13	9021 32.57
川崎病	累計報告数 定点点当り	1661 0.70	58 0.53	119 0.61	348 0.48	406 1.26	282 0.59	218 0.78	230 0.83
咽頭結核菌(小・内)	累計報告数 定点点当り	11687 4.90	192 1.76	189 0.97	2226 3.05	1884 5.83	2194 4.62	3474 12.45	1528 5.52
インフルエンザ	累計報告数 定点点当り	273398 114.54	13008 119.34	22095 113.31	74137 101.70	45311 140.28	36239 76.29	49319 176.77	33289 120.18
咽頭結核菌(外)	累計報告数 定点点当り	1208 4.44	26 1.18	234 10.64	237 3.59	187 5.05	192 3.25	236 6.94	96 3.00
流行性角結膜炎	累計報告数 定点点当り	22219 81.69	913 41.50	2530 115.00	5514 83.55	2052 55.46	3471 58.83	2652 78.00	5087 158.97
急山痘	累計報告数 定点点当り	984 3.62	26 1.18	198 9.00	337 5.11	152 1.41	101 1.71	91 2.68	179 5.59

MCLS (川崎株)	累計報告額 定当当り	場 数	主 遊	東 京	北 京	陽明平越	京 都・北 越	近 畿	中 国・四 国	九 州・神 戸
		1590 3.09	10 0.67	121 2.24	483 4.69	189 3.00	272 2.42	247 2.42	268 4.32	
ウィルス肝炎	累計報告額 定当当り	2993 5.82	50 3.33	141 2.61	755 7.33	717 11.38	391 3.40	726 7.12	213 3.44	
A型肝炎	累計報告額 定当当り	1064 2.07	3 0.20	23 0.43	233 2.26	418 6.63	146 1.27	204 2.00	37 0.60	
B型肝炎	累計報告額 定当当り	974 1.89	21 1.40	77 1.43	331 3.21	96 1.52	131 1.14	265 2.60	53 0.85	
その他ウィルス肝炎	累計報告額 定当当り	955 1.86	26 1.73	41 0.76	191 1.85	203 3.22	114 0.99	257 2.52	123 1.98	
急性黄疸型肝炎	累計報告額 定当当り	5075 9.87	36 2.40	139 2.57	760 7.38	548 8.70	882 7.67	2070 20.29	640 10.32	
慢性肝炎	累計報告額 定当当り	310 0.60	-	17 0.31	79 0.77	41 0.65	90 0.78	36 0.35	47 0.76	
慢性肝炎	累計報告額 定当当り	4765 9.27	36 2.40	122 2.26	681 6.61	507 8.05	792 6.89	2034 19.94	593 9.56	
型・管膜炎	累計報告額 定当当り	210 0.41	2 0.13	16 0.30	57 0.55	36 0.57	44 0.38	40 0.39	15 0.24	
咽 炎	累計報告額 定当当り	149 0.29	2 0.13	10 0.19	38 0.37	25 0.40	32 0.28	27 0.26	15 0.24	
咽 症	累計報告額 定当当り	31 0.06	-	5 0.09	10 0.10	5 0.08	6 0.05	5 0.05	-	
ライム病群	累計報告額 定当当り	12 0.02	-	-	5 0.05	3 0.05	4 0.03	-	-	
管膜炎	累計報告額 定当当り	18 0.04	-	1 0.02	4 0.04	3 0.05	2 0.02	8 0.08	-	
淋病性尿道炎	累計報告額 定当当り	12797 22.03	295 13.41	780 13.22	4691 26.65	1735 21.16	2549 23.17	882 13.16	1865 28.69	
淋病クラミジア症	累計報告額 定当当り	12469 21.46	387 17.59	750 12.71	4679 26.59	1883 22.96	2545 23.14	595 8.88	1630 25.08	
陰道ヘルペス	累計報告額 定当当り	5317 9.15	151 6.86	126 2.14	1610 9.15	625 7.62	1657 15.06	445 6.64	703 10.82	
尖圭コンジローム	累計報告額 定当当り	4069 7.00	97 4.41	202 3.42	1547 8.79	499 6.09	1108 10.07	266 3.97	350 5.38	
トリコモナス症	累計報告額 定当当り	6017 10.36	257 11.68	420 7.12	2332 13.25	635 7.74	1269 11.54	442 6.60	662 10.18	

5. 平成元年疾病別、年令別、年間報告数及び一定点当たり報告数

	報告数	年齢別										15歳以上 (15~19 20~29 30歳以上)
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5~9歳	10~14	15歳以上 (15~19 20~29 30歳以上)			
麻疹報告数 一定点当り	27900 11.69	3611 1.51	9162 3.84	4256 1.78	2457 1.03	1892 0.79	4717 1.98	1528 0.64	1528 0.64	277 0.12	20~29	30歳以上
風しん報告数 一定点当り	78449 32.87	1655 0.69	4801 2.01	6242 2.61	9115 3.82	12179 5.10	32371 13.56	8444 3.54	3642 1.53	2548 1.07	20~29	30歳以上
水痘報告数 一定点当り	224960 94.24	19014 7.97	32696 13.70	35581 14.91	39436 16.52	38382 16.08	52375 21.94	4928 2.08	2548 1.07	5262 2.20	20~29	30歳以上
流行性下痢炎報告数 一定点当り	232117 97.24	1515 0.63	9383 3.93	19361 8.11	34497 14.45	47766 20.01	103488 43.35	10845 4.54	5262 2.20	20~29	30歳以上	
百日咳報告数 一定点当り	4934 2.07	1195 0.50	1137 0.48	674 0.28	425 0.18	433 0.18	771 0.32	155 0.06	144 0.06	144 0.06	20~29	30歳以上
細菌性髄膜炎報告数 一定点当り	59010 24.72	311 0.13	1317 0.55	3175 1.33	6683 2.80	11726 4.91	29901 12.53	3971 1.66	1924 0.81	2500 1.06	20~29	30歳以上
肺炎報告数 一定点当り	37472 15.70	491 0.21	1693 0.71	2705 1.13	4209 1.76	5566 2.33	15608 6.54	4700 1.97	2500 1.06	2500 1.06	20~29	30歳以上
細菌性髄膜炎報告数 一定点当り	350661 146.90	16287 6.82	36059 15.11	37085 15.84	39508 16.58	42611 17.85	93627 39.22	37441 15.69	48043 20.13	20~29	30歳以上	
乳児化下痢症報告数 一定点当り	99984 41.89	43723 18.32	37722 15.80	12348 5.17	6191 2.59	-	-	-	-	-	20~29	30歳以上
手足口病報告数 一定点当り	21049 8.82	1563 0.65	4903 2.05	4154 1.74	3452 1.45	2971 1.24	3354 1.41	342 0.14	310 0.13	310 0.13	20~29	30歳以上
伝染性紅斑報告数 一定点当り	7472 3.15	808 0.34	413 0.17	423 0.18	624 0.26	849 0.36	3496 1.46	753 0.32	106 0.04	106 0.04	20~29	30歳以上
突発性発疹報告数 一定点当り	92959 38.94	85649 36.88	6671 2.88	290 0.12	103 0.04	46 0.02	-	-	-	-	20~29	30歳以上
ヘルパンギーナ報告数 一定点当り	79397 33.26	9043 3.79	19786 8.29	15874 6.65	12337 5.17	9692 4.06	10544 4.42	1222 0.51	899 0.38	899 0.38	20~29	30歳以上
MCLS (H4N2)報告数 一定点当り	1661 0.70	402 0.17	427 0.18	284 0.12	225 0.09	141 0.06	157 0.07	19 0.01	6 0.00	6 0.00	20~29	30歳以上
呼吸器感染症 (小・内)報告数 一定点当り	11687 4.90	520 0.22	1407 0.59	1550 0.65	1827 0.77	1956 0.82	3576 1.50	583 0.24	258 0.11	258 0.11	20~29	30歳以上
インフルエンザ報告数 一定点当り	273398 114.54	4167 1.75	10922 4.53	14750 6.18	19044 7.98	23438 9.82	73901 30.96	49406 20.77	19116 8.01	40926 17.15	20~29	30歳以上
咽頭炎報告数 一定点当り	1208 4.44	74 0.27	118 0.43	133 0.49	127 0.47	111 0.41	251 0.92	89 0.33	305 1.12	305 1.12	20~29	30歳以上
流行性鼻結膜炎報告数 一定点当り	22219 81.69	364 1.34	659 2.42	640 2.35	663 2.51	707 2.60	2363 8.69	1554 5.71	1394 5.13	10713 39.39	20~29	30歳以上
急性出血性結膜炎報告数 一定点当り	984 3.62	11 0.04	23 0.08	24 0.09	37 0.14	43 0.16	117 0.43	87 0.32	67 0.25	427 1.57	20~29	30歳以上

MCLS (H408)	総数 定数当り	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5~9歳	10~14	15歳以上	50~54	55~59	60歳以上		
													総数 定数当り	0~4歳
ウイルス肝炎	2993 5.82	0~4歳 227 0.44	5~9歳 235 0.46	10~14 249 0.48	15~19 167 0.32	20~24 184 0.36	25~29 250 0.49	30~34 280 0.54	35~39 296 0.58	40~44 271 0.53	45~49 206 0.40	50~54 180 0.35	55~59 123 0.23	60歳以上 325 0.63
A型肝炎	1064 2.07	0~4歳 70 0.14	5~9歳 144 0.28	10~14 145 0.28	15~19 74 0.14	20~24 51 0.10	25~29 74 0.14	30~34 108 0.21	35~39 124 0.24	40~44 106 0.21	45~49 60 0.12	50~54 36 0.07	55~59 27 0.05	60歳以上 45 0.09
B型肝炎	974 1.89	0~4歳 37 0.07	5~9歳 37 0.07	10~14 46 0.09	15~19 58 0.11	20~24 92 0.16	25~29 106 0.21	30~34 92 0.18	35~39 116 0.23	40~44 103 0.20	45~49 73 0.14	50~54 70 0.14	55~59 38 0.07	60歳以上 116 0.23
その他のウイルス肝炎	955 1.86	0~4歳 120 0.23	5~9歳 54 0.11	10~14 58 0.11	15~19 35 0.07	20~24 51 0.10	25~29 70 0.14	30~34 80 0.16	35~39 56 0.11	40~44 62 0.12	45~49 73 0.14	50~54 74 0.14	55~59 58 0.11	60歳以上 164 0.32
総数	5075 9.87	0~4歳 997 0.97	5~9歳 215 0.54	10~14 292 0.57	15~19 425 0.83	20~24 687 1.34	25~29 217 4.24	30~34 397 0.77	35~39 50 0.10	40~44 87 0.17	45~49 113 0.22	50~54 22 0.04	55~59 29 0.06	60歳以上 21 0.04
細菌性髄膜炎	310 0.60	0~4歳 105 0.20	5~9歳 28 0.05	10~14 24 0.05	15~19 17 0.03	20~24 22 0.04	25~29 66 0.13	30~34 18 0.04	35~39 2 0.00	40~44 3 0.01	45~49 5 0.01	50~54 2 0.00	55~59 8 0.02	60歳以上 10 0.02
細菌性髄膜炎	4765 9.27	0~4歳 395 0.77	5~9歳 247 0.48	10~14 268 0.52	15~19 408 0.79	20~24 665 1.29	25~29 211 4.11	30~34 379 0.74	35~39 48 0.09	40~44 84 0.16	45~49 108 0.21	50~54 20 0.04	55~59 21 0.04	60歳以上 11 0.02
髄・脊髄炎	210 0.41	0~4歳 31 0.06	5~9歳 21 0.04	10~14 15 0.03	15~19 13 0.03	20~24 12 0.02	25~29 56 0.11	30~34 32 0.06	35~39 4 0.01	40~44 6 0.01	45~49 8 0.02	50~54 6 0.01	55~59 -	60歳以上 6 0.01
脳炎	149 0.29	0~4歳 18 0.04	5~9歳 10 0.02	10~14 10 0.02	15~19 9 0.02	20~24 9 0.02	25~29 46 0.09	30~34 26 0.05	35~39 3 0.01	40~44 6 0.01	45~49 4 0.01	50~54 3 0.01	55~59 -	60歳以上 5 0.01
脳症	31 0.06	0~4歳 9 0.02	5~9歳 7 0.01	10~14 3 0.01	15~19 3 0.01	20~24 1 0.00	25~29 4 0.01	30~34 3 0.01	35~39 -	40~44 -	45~49 -	50~54 -	55~59 -	60歳以上 1 0.00
ライム病	12 0.02	0~4歳 4 0.01	5~9歳 2 0.00	10~14 1 0.00	15~19 1 0.00	20~24 1 0.00	25~29 3 0.01	30~34 -	35~39 -	40~44 -	45~49 -	50~54 -	55~59 -	60歳以上 -
脊髄炎	18 0.04	0~4歳 -	5~9歳 2 0.00	10~14 1 0.00	15~19 -	20~24 1 0.00	25~29 3 0.01	30~34 3 0.01	35~39 1 0.00	40~44 -	45~49 4 0.01	50~54 3 0.01	55~59 -	60歳以上 -
細菌性髄膜炎	12797 22.03	0~4歳 2 0.00	5~9歳 5 0.01	10~14 4 0.01	15~19 1960 1.65	20~24 2922 5.03	25~29 2661 4.58	30~34 1923 3.31	35~39 1750 3.01	40~44 1254 2.16	45~49 664 1.14	50~54 345 0.59	55~59 171 0.29	60歳以上 140 0.24
髄鞘クオリア症	12469 21.46	0~4歳 2 0.00	5~9歳 0 0.00	10~14 12 0.02	15~19 775 1.33	20~24 2676 4.61	25~29 2610 4.49	30~34 1992 3.43	35~39 1762 3.03	40~44 1303 2.24	45~49 659 1.13	50~54 358 0.62	55~59 171 0.29	60歳以上 148 0.25
髄鞘ヘルペス	5317 9.15	0~4歳 18 0.03	5~9歳 7 0.01	10~14 11 0.02	15~19 197 0.34	20~24 920 1.58	25~29 987 1.70	30~34 755 1.30	35~39 600 1.03	40~44 520 0.90	45~49 346 0.60	50~54 321 0.55	55~59 254 0.44	60歳以上 381 0.66
尖圭コンクローム	4069 7.00	0~4歳 10 0.02	5~9歳 3 0.01	10~14 7 0.01	15~19 318 0.58	20~24 1076 1.85	25~29 910 1.57	30~34 601 1.03	35~39 436 0.75	40~44 317 0.55	45~49 166 0.29	50~54 82 0.14	55~59 62 0.11	60歳以上 81 0.14
トリコモナス症	6017 10.36	0~4歳 1 0.00	5~9歳 1 0.00	10~14 8 0.01	15~19 271 0.47	20~24 874 1.50	25~29 838 1.44	30~34 723 1.24	35~39 755 1.30	40~44 849 1.46	45~49 706 1.22	50~54 518 0.89	55~59 234 0.40	60歳以上 239 0.41

第 3 平成元年定点数



平成元年 感染症サーベイランス事業定点数

総 数	小児科・内科	眼 科	病 院	性 感 染 症
3,754	2,387	272	514	581
北海道	109	22	15	22
青森県	30	3	15	9
岩手県	46	3	5	10
宮城県	61	39	4	6
秋田県	40	24	3	5
山形県	59	27	5	18
福島県	67	47	4	5
茨城県	79	49	5	7
栃木県	77	47	4	15
群馬県	54	32	3	5
埼玉県	135	80	8	24
千葉県	96	65	8	8
東京都	177	129	10	8
神奈川県	217	153	13	17
新潟県	126	97	7	6
富山県	35	21	3	5
石川県	44	26	3	5
福井県	31	19	3	5
山梨県	54	38	4	8
長野県	59	39	4	5
岐阜県	62	38	5	5
静岡県	75	47	5	20
愛知県	172	116	11	13
三重県	86	56	7	10
滋賀県	38	22	4	5
京都府	108	75	6	11
大阪府	307	170	25	67
兵庫県	224	156	18	21
奈良県	40	27	3	6
和歌山県	42	25	3	5
鳥取県	30	14	3	10
島根県	37	24	3	6
岡山県	55	36	4	5
広島県	116	53	7	37
山口県	71	52	5	6
徳島県	27	15	3	5
香川県	38	23	3	6
愛媛県	55	29	3	15
高知県	53	33	3	12
福岡県	77	40	7	16
佐賀県	42	18	3	15
長崎県	65	47	4	7
熊本県	71	48	4	5
大分県	45	27	4	9
宮崎県	45	35	3	4
鹿児島県	57	36	4	5
沖縄県	34	26	3	1
(指定都市再掲)				
札幌市	39	19	7	6
仙台市	85	59	5	5
川崎市	46	31	3	5
名古屋市	96	70	6	7
京都市	65	46	3	6
大阪市	121	60	12	32
神戸市	115	86	9	11
広島市	45	20	3	13
北九州市	18	10	2	2
福岡市	22	13	2	3